

2026 年度 授業計画(シラバス)

学 科	柔道整復スポーツトレーナー学科		科 目 区 分	専門分野	授業の方法	演習
科 目 名	テーピング		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (1) 時間(単位)
対象学年	1年		学期及び曜時間	前期 金4	教室名	実技実習室1
担当教員	松尾 起命	実務経験と その関連資格	柔道整復師免許			
《授業科目における学習内容》						
テーピングの種類・特性・役割、各部位のテーピング法について学ぶ。						
《成績評価の方法と基準》						
素点:70% 出席点:20% 平常点:10%						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
資料						
《授業外における学習方法》						
復習を行う。						
《履修に当たっての留意点》						
各テープの役割を理解する。						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	「テーピングとは」を理解する。	資料	授業範囲の予習・復習	
		各コマにおける授業予定	オリエンテーション			
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	「テーピングとは」を理解する。	資料	授業範囲の予習・復習	
		各コマにおける授業予定	テーピングの種類・特性・役割			
第3回	演習形式	授業を通じての到達目標	「足関節のホワイトテーピング」を理解する。	資料	授業範囲の予習・復習	
		各コマにおける授業予定	アンダーラップ(螺旋・離開亀甲)			
第4回	演習形式	授業を通じての到達目標	「足関節のホワイトテーピング」を理解する。	資料	授業範囲の予習・復習	
		各コマにおける授業予定	アンカーテープ			
第5回	演習形式	授業を通じての到達目標	「足関節のホワイトテーピング」を理解する。	資料	授業範囲の予習・復習	
		各コマにおける授業予定	スターアップ(ノーマル)			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	演習形式	授業を通じての到達目標	「足関節のホワイトテーピング」を理解する。	資料	授業範囲の予習・復習
		各コマにおける授業予定	ホースシュー・サーキュラー		
第7回	演習形式	授業を通じての到達目標	「足関節のホワイトテーピング」を理解する。	資料	授業範囲の予習・復習
		各コマにおける授業予定	フィギュアエイト		
第8回	演習形式	授業を通じての到達目標	「足関節のホワイトテーピング」を理解する。	資料	授業範囲の予習・復習
		各コマにおける授業予定	ヒールロック・アンカーテープ		
第9回	演習形式	授業を通じての到達目標	「足関節のホワイトテーピング」を理解する。	資料	授業範囲の予習・復習
		各コマにおける授業予定	スターアップ(Vロック)		
第10回	演習形式	授業を通じての到達目標	「足関節のホワイトテーピング」を理解する。	資料	授業範囲の予習・復習
		各コマにおける授業予定	バスケットウィーブ(クローズ)		
第11回	演習形式	授業を通じての到達目標	「足関節のホワイトテーピング」を理解する。	資料	授業範囲の予習・復習
		各コマにおける授業予定	バスケットウィーブ(クローズ)		
第12回	演習形式	授業を通じての到達目標	「足関節のホワイトテーピング」を理解する。	資料	授業範囲の予習・復習
		各コマにおける授業予定	バスケットウィーブ(オープン)		
第13回	演習形式	授業を通じての到達目標	「足関節のホワイトテーピング」を理解する。	資料	授業範囲の予習・復習
		各コマにおける授業予定	バスケットウィーブ(オープン)		
第14回	演習形式	授業を通じての到達目標	「足関節のホワイトテーピング」を理解する。	資料	授業範囲の予習・復習
		各コマにおける授業予定	復習		
第15回	演習形式	授業を通じての到達目標	「足関節のホワイトテーピング」を理解する。	資料	授業範囲の予習・復習
		各コマにおける授業予定	復習		

2026 年度 授業計画(シラバス)

学 科	柔道整復スポーツトレーナー学科		科 目 区 分	専門分野	授業の方法	演習
科 目 名	テーピング		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (1) 時間(単位)
対象学年	1年		学期及び曜時間	前期 金4	教室名	実技実習室1
担当教員	松尾 起命	実務経験と その関連資格	柔道整復師免許			
《授業科目における学習内容》						
テーピングの種類・特性・役割、各部位のテーピング法について学ぶ。						
《成績評価の方法と基準》						
素点:70% 出席点:20% 平常点:10%						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
資料						
《授業外における学習方法》						
復習を行う。						
《履修に当たっての留意点》						
各テープの役割を理解する。						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	「テーピングとは」を理解する。	資料	授業範囲の予習・復習	
		各コマにおける授業予定	オリエンテーション			
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	「テーピングとは」を理解する。	資料	授業範囲の予習・復習	
		各コマにおける授業予定	テーピングの種類・特性・役割			
第3回	演習形式	授業を通じての到達目標	「足関節のホワイトテーピング」を理解する。	資料	授業範囲の予習・復習	
		各コマにおける授業予定	アンダーラップ(螺旋・離開亀甲)			
第4回	演習形式	授業を通じての到達目標	「足関節のホワイトテーピング」を理解する。	資料	授業範囲の予習・復習	
		各コマにおける授業予定	アンカーテープ			
第5回	演習形式	授業を通じての到達目標	「足関節のホワイトテーピング」を理解する。	資料	授業範囲の予習・復習	
		各コマにおける授業予定	スターアップ(ノーマル)			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	演習形式	授業を通じての到達目標	「足関節のホワイトテーピング」を理解する。	資料	授業範囲の予習・復習
		各コマにおける授業予定	ホースシュー・サーキュラー		
第7回	演習形式	授業を通じての到達目標	「足関節のホワイトテーピング」を理解する。	資料	授業範囲の予習・復習
		各コマにおける授業予定	フィギュアエイト		
第8回	演習形式	授業を通じての到達目標	「足関節のホワイトテーピング」を理解する。	資料	授業範囲の予習・復習
		各コマにおける授業予定	ヒールロック・アンカーテープ		
第9回	演習形式	授業を通じての到達目標	「足関節のホワイトテーピング」を理解する。	資料	授業範囲の予習・復習
		各コマにおける授業予定	スターアップ(Vロック)		
第10回	演習形式	授業を通じての到達目標	「足関節のホワイトテーピング」を理解する。	資料	授業範囲の予習・復習
		各コマにおける授業予定	バスケットウィーブ(クローズ)		
第11回	演習形式	授業を通じての到達目標	「足関節のホワイトテーピング」を理解する。	資料	授業範囲の予習・復習
		各コマにおける授業予定	バスケットウィーブ(クローズ)		
第12回	演習形式	授業を通じての到達目標	「足関節のホワイトテーピング」を理解する。	資料	授業範囲の予習・復習
		各コマにおける授業予定	バスケットウィーブ(オープン)		
第13回	演習形式	授業を通じての到達目標	「足関節のホワイトテーピング」を理解する。	資料	授業範囲の予習・復習
		各コマにおける授業予定	バスケットウィーブ(オープン)		
第14回	演習形式	授業を通じての到達目標	「足関節のホワイトテーピング」を理解する。	資料	授業範囲の予習・復習
		各コマにおける授業予定	復習		
第15回	演習形式	授業を通じての到達目標	「足関節のホワイトテーピング」を理解する。	資料	授業範囲の予習・復習
		各コマにおける授業予定	復習		

2026 年度 授業計画(シラバス)

学 科	柔道整復スポーツトレーナー学科		科 目 区 分	専門分野	授業の方法	講義
科 目 名	運動生理学		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (1) 時間(単位)
対 象 学 年	1年		学期及び曜時間	前期 火2	教室名	301教室
担 当 教 員	松尾 起命	実務経験と その関連資格	柔道整復師免許			
《授業科目における学習内容》						
生理学とは・筋の生理・神経の生理・運動の生理について学ぶ。						
《成績評価の方法と基準》						
素点:70% 出席点:20% 平常点:10%						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
生理学 改訂第4版						
《授業外における学習方法》						
教科書に沿い、講義・国家試験に準じた復習を行う。 講義で使用した口頭試問・四択問題を解く。						
《履修に当たっての留意点》						
基礎となる解剖学を理解する。						
授業の 方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	「生理学とは」の理解を深める。	生理学 改訂第4版	授業範囲の予習・復習	
		各コマにおける授業予定	オリエンテーション 細胞の構造と機能			
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	「生理学とは」の理解を深める。	生理学 改訂第4版	授業範囲の予習・復習	
		各コマにおける授業予定	細胞の構造と機能			
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	「生理学とは」の理解を深める。	生理学 改訂第4版	授業範囲の予習・復習	
		各コマにおける授業予定	組織・器官と生体の機能系			
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	「生理学とは」の理解を深める。	生理学 改訂第4版	授業範囲の予習・復習	
		各コマにおける授業予定	生体の恒常性と統合機能 体液の区分と組成			
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	「筋の生理」の理解を深める。	生理学 改訂第4版	授業範囲の予習・復習	
		各コマにおける授業予定	骨格筋			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	「筋の生理」の理解を深める。	生理学 改訂第4版	授業範囲の予習・復習
		各コマにおける授業予定	骨格筋		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	「筋の生理」の理解を深める。	生理学 改訂第4版	授業範囲の予習・復習
		各コマにおける授業予定	骨格筋		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	「筋の生理」の理解を深める。	生理学 改訂第4版	授業範囲の予習・復習
		各コマにおける授業予定	骨格筋、心筋、平滑筋		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	「神経の生理」の理解を深める。	生理学 改訂第4版	授業範囲の予習・復習
		各コマにおける授業予定	神経信号の伝達		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	「神経の生理」の理解を深める。	生理学 改訂第4版	授業範囲の予習・復習
		各コマにおける授業予定	神経信号の伝達		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標	「神経の生理」の理解を深める。	生理学 改訂第4版	授業範囲の予習・復習
		各コマにおける授業予定	神経信号の伝達		
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標	「神経の生理」の理解を深める。	生理学 改訂第4版	授業範囲の予習・復習
		各コマにおける授業予定	神経信号の伝達		
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標	「神経の生理」の理解を深める。	生理学 改訂第4版	授業範囲の予習・復習
		各コマにおける授業予定	神経信号の伝達		
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標	「神経の生理」の理解を深める。	生理学 改訂第4版	授業範囲の予習・復習
		各コマにおける授業予定	神経系の構成		
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標	纏め	生理学 改訂第4版	授業範囲の予習・復習
		各コマにおける授業予定	纏め		

2026 年度 授業計画(シラバス)

学 科	柔道整復スポーツトレーナー		科目区分	専門分野	授業の方法	講義演習
科目名	柔整応用実技 I		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (1) 時間(単位)
対象学年	1年		学期及び曜時間	前期 木・4限	教室名	実技実習室2
担当教員	木下 和樹	実務経験と その関連資格	柔道整復師免許 柔道整復師専科教員資格 理学療法士			
《授業科目における学習内容》						
臨床実習を行うにあたって必要となる医療面接法、体表観察法、評価・測定 of 修得を目指す						
《成績評価の方法と基準》						
定期試験80% 実技試験20%						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
臨床実習ガイドライン 柔道整復師学理論編・実技編 解剖学						
《授業外における学習方法》						
身体部位の触診、身体計測、ROM、MMT、等の予習、復習を行う						
《履修に当たっての留意点》						
臨床実習においても必ず必要となる実技である。また国家試験や柔道整復師業務において重要科目である						
授業の 方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第1回	講義演習形式 授業を通じての到達目標	臨床実習について理解する		柔道整復師学理論編改定版7版	授業範囲本読み予習復習	
	各コマにおける授業予定	講義ガイダンス・オリエンテーション				
第2回	講義演習形式 授業を通じての到達目標	医療面接について理解する		柔道整復師学理論編改定版7版	授業範囲本読み予習復習	
	各コマにおける授業予定	医療面接 言葉使い、問診、接遇、視診				
第3回	講義演習形式 授業を通じての到達目標	主要な骨、筋を触知できる		柔道整復師学理論編改定版7版	授業範囲本読み予習復習	
	各コマにおける授業予定	主要な骨と筋の触知				
第4回	講義演習形式 授業を通じての到達目標	身体計測、バイタルサインができる		柔道整復師学理論編改定版7版	授業範囲本読み予習復習	
	各コマにおける授業予定	血圧測定、四肢長、四肢周径				
第5回	講義演習形式 授業を通じての到達目標	ROM測定ができる		柔道整復師学理論編改定版7版	授業範囲本読み予習復習	
	各コマにおける授業予定	肩、肘、手、股、膝、足関節				

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	ROM測定ができる	柔道整復師学理論編改定版7版	授業範囲本読み予習復習
		各コマにおける授業予定	肩、肘、手、股、膝、足関節		
第7回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	MMTができるようになる	柔道整復師学理論編改定版7版	授業範囲本読み予習復習
		各コマにおける授業予定	肩、肘、手、股、膝、足関節		
第8回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	MMTができるようになる	柔道整復師学理論編改定版7版	授業範囲本読み予習復習
		各コマにおける授業予定	肩、肘、手、股、膝、足関節		
第9回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	整形外科的テストができるようになる	柔道整復師学理論編改定版7版	授業範囲本読み予習復習
		各コマにおける授業予定	頸部・上肢		
第10回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	整形外科的テストができるようになる	柔道整復師学理論編改定版7版	授業範囲本読み予習復習
		各コマにおける授業予定	下肢		
第11回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	反射検査ができるようになる	柔道整復師学理論編改定版7版	授業範囲本読み予習復習
		各コマにおける授業予定	深部反射、表在反射		
第12回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	感覚検査・運動機能検査ができるようになる	柔道整復師学理論編改定版7版	授業範囲本読み予習復習
		各コマにおける授業予定	表在・深部感覚、上肢・下肢・体幹の機能検査		
第13回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	実技総復習	柔道整復師学理論編改定版7版	授業範囲本読み予習復習
		各コマにおける授業予定	これまでに行った実技を行う		
第14回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	実技総復習	柔道整復師学理論編改定版7版	授業範囲本読み予習復習
		各コマにおける授業予定	これまでに行った実技を行う		
第15回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	再復習をおこない疑問点などを解消する	柔道整復師学理論編改定版7版	授業範囲本読み予習復習
		各コマにおける授業予定	授業総復習		

2026 年度 授業計画(シラバス)

学 科	柔道整復スポーツトレーナー		科 目 区 分	専門基礎分野	授業の方法	講義
科 目 名	生理学 I		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	60 (4) 時間(単位)
対 象 学 年	1年生		学期及び曜時間	通年 木・3限	教室名	301教室
担 当 教 員	新庄 文明	実務経験とその関連資格	前長崎大学大学院教授(公衆衛生学)、ロンドン大学キングスカレッジ客員助教授、元大阪大学医学部講師(社会系医学)、医学博士、歯科医師			
《授業科目における学習内容》						
生理学は、生体が生命を維持するためにに行っている機能や仕組みを研究する学問である。柔道整復師を目指す学生にとって、人体の「正常な働き」を理解することは、外傷による機能不全を正しく評価し、施術を提供するための不可欠な基礎となる。本講義では、単なる知識の習得に留まらず、生理学的メカニズムを臨床現場での処置(アイシング、固定、手技療法)と関連付けて考察し、将来、科学的根拠に基づいた適切な施術を行える能力を養うことを目的とする。						
《成績評価の方法と基準》						
定期試験、出席状況、学習状況、課題、レポート、小テストなどで評価する。						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
生理学改訂第4版(南江堂)						
《授業外における学習方法》						
医療関係者は特にヒトの正常状態および病的状態を理解する必要がある。常に復習が必要である。						
《履修に当たっての留意点》						
生理学はヒトの身体の正常機能を理解する、重要な科目です。この理解は2年次以降の一般臨床や病理学等の科目においても必要となります。将来にわたり自分で勉強できるように基礎を構築してください。						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容	
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	生理学に興味をもち、細胞内小器官の名称、働きについて説明できる。	教科書		教科書を読み配布プリントを使って復習する。
		各コマにおける授業予定	生理学とは①(A細胞の構造と機能)			
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	ホメオスタシスについて理解する。	教科書		教科書を読み配布プリントを使って復習する。
		各コマにおける授業予定	生理学とは②(B組織・器官と生体の機能系 C生体の恒常性と統合機能)			
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	体液のイオン組成について理解出来るようになる。	教科書		教科書を読み配布プリントを使って復習する。
		各コマにおける授業予定	生理学とは③(D体液の区分と組成)			
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	筋肉の種類・構造、筋線維の種類を説明出来るようになる。	教科書		教科書を読み配布プリントを使って復習する。
		各コマにおける授業予定	筋の生理①(A骨格筋)			
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	筋収縮のしくみ、筋の張力、筋電図を理解出来るようになる。	教科書		教科書を読み配布プリントを使って復習する。
		各コマにおける授業予定	筋の生理②(A骨格筋)			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	平滑筋、心筋の特徴について理解出来るようになる。	教科書	教科書を読み配布プリントを使って復習する。
		各コマにおける授業予定	筋の生理③(B心筋 C平滑筋)		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	神経細胞の形態、活動電位、神経伝達物質について理解出来るようになる。	教科書	教科書を読み配布プリントを使って復習する。
		各コマにおける授業予定	神経の生理①(A神経信号の伝達)		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	中枢神経系について理解出来るようになる。	教科書	教科書を読み配布プリントを使って復習する。
		各コマにおける授業予定	神経の生理②(B神経系の構成 C脳の高次機能)		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	末梢神経系(特に自律神経系)について理解出来るようになる。	教科書	教科書を読み配布プリントを使って復習する。
		各コマにおける授業予定	神経の生理③(D内臓機能の調節)		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	伝導路について理解出来るようになる。	教科書	教科書を読み配布プリントを使って復習する。
		各コマにおける授業予定	運動の生理①(A運動の調節)		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標	運動単位について理解出来るようになる。	教科書	教科書を読み配布プリントを使って復習する。
		各コマにおける授業予定	運動の生理②(B運動神経と運動単位)		
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標	筋紡錘、反射について理解出来るようになる。	教科書	教科書を読み配布プリントを使って復習する。
		各コマにおける授業予定	運動の生理③(C脊髄による反射とその調節)		
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標	姿勢反射について理解出来るようになる。	教科書	教科書を読み配布プリントを使って復習する。
		各コマにおける授業予定	運動の生理④(D脳幹による運動調節)		
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標	大脳皮質の機能分化について理解出来るようになる。	教科書	教科書を読み配布プリントを使って復習する。
		各コマにおける授業予定	運動の生理⑤(E高次運動機能)		
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標	感覚の種類、感覚器のしくみについて理解出来るようになる。	教科書	教科書を読み配布プリントを使って復習する。
		各コマにおける授業予定	感覚の生理①(A感覚の一般的な特性)		

2026 年度 授業計画(シラバス)

学 科	柔道整復スポーツトレーナー		科 目 区 分	専門基礎分野	授業の方法	講義
科 目 名	生理学 I		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	60 (4) 時間(単位)
対 象 学 年	1年生		学期及び曜時間	通年 木・3限	教室名	301教室
担 当 教 員	新庄 文明	実務経験とその関連資格	前長崎大学大学院教授(公衆衛生学)、ロンドン大学キングスカレッジ客員助教授、元大阪大学医学部講師(社会系医学)、医学博士、歯科医師			
《授業科目における学習内容》						
生理学は、生体が生命を維持するためにに行っている機能や仕組みを研究する学問である。柔道整復師を目指す学生にとって、人体の「正常な働き」を理解することは、外傷による機能不全を正しく評価し、施術を提供するための不可欠な基礎となる。本講義では、単なる知識の習得に留まらず、生理学的メカニズムを臨床現場での処置(アイシング、固定、手技療法)と関連付けて考察し、将来、科学的根拠に基づいた適切な施術を行える能力を養うことを目的とする。						
《成績評価の方法と基準》						
定期試験、出席状況、学習状況、課題、レポート、小テストなどで評価する。						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
生理学改訂第4版(南江堂)						
《授業外における学習方法》						
医療関係者は特にヒトの正常状態および病的状態を理解する必要がある。常に復習が必要である。						
《履修に当たっての留意点》						
生理学はヒトの身体の正常機能を理解する、重要な科目です。この理解は2年次以降の一般臨床や病理学等の科目においても必要となります。将来にわたり自分で勉強できるように基礎を構築してください。						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容	
第16回	講義形式	授業を通じての到達目標	特殊感覚器の構造と伝導路について理解出来るようになる。	教科書	教科書を読み配布プリントを使って復習する。	
		各コマにおける授業予定	感覚の生理② (B特殊感覚)			
第17回	講義形式	授業を通じての到達目標	体性感覚・内臓感覚について理解出来るようになる。	教科書	教科書を読み配布プリントを使って復習する。	
		各コマにおける授業予定	感覚の生理③ (C体性感覚 D内臓感覚)			
第18回	講義形式	授業を通じての到達目標	痛覚について理解出来るようになる。	教科書	教科書を読み配布プリントを使って復習する。	
		各コマにおける授業予定	感覚の生理④ (E痛覚)			
第19回	講義形式	授業を通じての到達目標	内分泌、ホルモンの定義について説明出来るようになる。	教科書	教科書を読み配布プリントを使って復習する。	
		各コマにおける授業予定	内分泌① (A内分泌腺とホルモン)			
第20回	講義形式	授業を通じての到達目標	ホルモンの種類と作用について理解出来るようになる。	教科書	教科書を読み配布プリントを使って復習する。	
		各コマにおける授業予定	内分泌② (Bそれぞれの内分泌腺とホルモンのはたらき)			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第21回	講義形式	授業を通じての到達目標	視床下部・下垂体ホルモンについて理解出来るようになる。	教科書	教科書を読み配布プリントを使って復習する。
		各コマにおける授業予定	内分泌③ (Bそれぞれの内分泌腺とホルモンのはたらき)		
第22回	講義形式	授業を通じての到達目標	甲状腺・副腎・腎臓・膵臓・精巣・卵巣から分泌されるホルモンについて理解出来るようになる。	教科書	教科書を読み配布プリントを使って復習する。
		各コマにおける授業予定	内分泌④ (Bそれぞれの内分泌腺とホルモンのはたらき)		
第23回	講義形式	授業を通じての到達目標	各内分泌腺から分泌されるホルモンの名称と作用を説明できるようになる。	教科書	教科書を読み配布プリントを使って復習する。
		各コマにおける授業予定	内分泌⑤ (Cホルモンによる内部環境の恒常性維持)		
第24回	講義形式	授業を通じての到達目標	性分化、精子形成について理解出来るようになる。	教科書	教科書を読み配布プリントを使って復習する。
		各コマにおける授業予定	生殖① (A性分化 B男性生殖器)		
第25回	講義形式	授業を通じての到達目標	卵巣周期、妊娠と分娩について理解出来るようになる。	教科書	教科書を読み配布プリントを使って復習する。
		各コマにおける授業予定	生殖② (C女性生殖器 D妊娠と分娩)		
第26回	講義形式	授業を通じての到達目標	血漿・血球・血清をそれぞれ説明できる。	教科書	教科書を読み配布プリントを使って復習する。
		各コマにおける授業予定	血液①(A血液の成分と組成)		
第27回	講義形式	授業を通じての到達目標	止血の機序を説明できる。	教科書	教科書を読み配布プリントを使って復習する。
		各コマにおける授業予定	血液②(B止血)		
第28回	講義形式	授業を通じての到達目標	血液型の決定因子を理解する。	教科書	教科書を読み配布プリントを使って復習する。
		各コマにおける授業予定	血液③(C血液型)		
第29回	講義形式	授業を通じての到達目標	免疫について理解する。	教科書	教科書を読み配布プリントを使って復習する。
		各コマにおける授業予定	血液④(D免疫)		
第30回	講義形式	授業を通じての到達目標	生理学用語を理解し説明できる。	教科書	試験内容を復習する
		各コマにおける授業予定	まとめ 試験対策		

2026 年度 授業計画(シラバス)

学 科	柔道整復スポーツトレーナー		科 目 区 分	専門分野	授業の方法	講義
科 目 名	柔道整復学・総論 I		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	60 (4) 時間(単位)
対 象 学 年	1年		学期及び曜時限	通年 金・1限	教室名	301教室
担 当 教 員	池上 直樹	実務経験と その関連資 格	柔道整復師 柔道整復師専科教員 鍼灸整骨院開業			
《授業科目における学習内容》						
柔道整復師の歴史的背景に学びさらに業務などの沿革について免許制度や法制度がどのように確立されていったか見識を深める。また柔道整復師の施術対象である骨折、捻挫、脱臼、挫傷、打撲、軟部組織損傷、神経系損傷について理論的に広く学び、柔道整復師の業務にどのように役立つか考える。						
《成績評価の方法と基準》						
定期試験100%						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
柔道整復学・理論編 改正版7版 運動療法に役立つ単純X線像の読み方。体幹と骨盤の評価 グレイ解剖学 運動療法の為の機能解剖学 AI生成によるイメージ図						
《授業外における学習方法》						
インターネットを使つてのアプローチ 座学以外にも体験、イメージできるように自ら動ける、動かす体験をさせる。						
《履修に当たつての留意点》						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容	
第1回	授業を通じての到達目標	柔道整復師の歴史について理解する		柔道整復学・理論編改正第7版	授業範囲本読み予習、復習、インターネット利用の講義によりイメージさせる。	
	各コマにおける授業予定	柔道整復師術、柔道整復師の沿革1				
第2回	授業を通じての到達目標	柔道整復師の業の成り立ちについて理解を深める		柔道整復学・理論編改正第7版	授業範囲本読み予習、復習、インターネット利用の講義によりイメージさせる。	
	各コマにおける授業予定	柔道整復師術、柔道整復師の沿革2				
第3回	授業を通じての到達目標	人体にどのような外力が加わり組織が損傷するのか理解する		柔道整復学・理論編改正第7版	授業範囲本読み予習、復習、インターネット利用の講義によりイメージさせる。	
	各コマにおける授業予定	人体に加わる力、損傷時に加わる力の理解				
第4回	授業を通じての到達目標	痛みの評価について学ぶ		柔道整復学・理論編改正第7版	授業範囲本読み予習、復習、インターネット利用の講義によりイメージさせる。	
	各コマにおける授業予定	痛みの基礎について				
第5回	授業を通じての到達目標	骨折にはどのような分類があるか。骨折の種類について。		柔道整復学・理論編改正第7版 運動療法に役立つ単純X線像の読み方	授業範囲本読み予習、復習、インターネット利用の講義によりイメージさせる。	
	各コマにおける授業予定	骨の概説、骨折の分類、種類				

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	骨折線の入り方、骨折の部位にどのような特徴があるかを学ぶ。	柔道整復学・理論編改正第7版 運動療法に役立つ単純X線像の読み方	授業範囲本読み予習、復習、インターネット利用の講義によりイメージさせる。
		各コマにおける授業予定	骨折の分類(骨折線の方向による分類、骨折部と創部との交通の有無による分類、力の働き方による分類、骨折部の部位による分類)		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	骨折の一般症状と固有症状について理解する。	柔道整復学・理論編改正第7版	授業範囲本読み予習、復習、インターネット利用の講義によりイメージさせる。他の業種の治療家の本などやネットでの学習セミナー
		各コマにおける授業予定	骨折の各症状の理解。		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	骨折に起こる併発症、続発症、後遺症について時系列でとらえ、どのようなものがあるのか理解する。	柔道整復学・理論編改正第7版	授業範囲本読み予習、復習、インターネット利用の講義によりイメージさせる。
		各コマにおける授業予定	骨折の合併症状(併発症、続発症)		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	骨折に起こる併発症、続発症、後遺症について時系列でとらえ、どのようなものがあるのか理解する。	柔道整復学・理論編改正第7版	授業範囲本読み予習、復習、インターネット利用の講義によりイメージさせる。AI生成画像によりイメージを深くさせる
		各コマにおける授業予定	骨折の合併症状(後遺症)		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	小児の骨折と成人骨折の特徴の理解。	柔道整復学・理論編改正第7版	授業範囲本読み予習、復習、インターネット利用の講義によりイメージさせる。AI生成画像によりイメージを深くさせる
		各コマにおける授業予定	小児骨折		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標	高齢者の骨折についての理解。	柔道整復学・理論編改正第7版	授業範囲本読み予習、復習、インターネット利用の講義によりイメージさせる。AI生成画像によりイメージを深くさせる
		各コマにおける授業予定	高齢者の骨折、骨折の癒合日数。		
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標	骨折はどのようにして治癒していくのか、治癒過程の現象を組織学的に理解する。	柔道整復学・理論編改正第7版	授業範囲本読み予習、復習、インターネット利用の講義によりイメージさせる。AI生成画像によりイメージを深くさせる
		各コマにおける授業予定	骨折の治癒過程、骨折の予後、骨折の治癒に影響を与える因子。		
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標	関節についてその構成組織について学ぶ。	柔道整復学・理論編改正第7版 体幹と骨盤の評価 グレイ解剖学 運動療法の為の機能解剖学	授業範囲本読み予習、復習、インターネット利用の講義によりイメージさせる。AI生成画像によりイメージを深くさせる
		各コマにおける授業予定	関節の構造と機能、関節を構成する組織。		
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標	関節損傷とはどのようなものか、どのような組織を損傷するのか。	柔道整復学・理論編改正第7版 体幹と骨盤の評価 グレイ解剖学 運動療法の為の機能解剖学	授業範囲本読み予習、復習、インターネット利用の講義によりイメージさせる。AI生成画像によりイメージを深くさせる
		各コマにおける授業予定	関節損傷の概説、関節損傷の分類、損傷される組織、関節構成組織損傷。		
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標	靭帯の治癒機序についてその過程や予後について学ぶ。	柔道整復学・理論編改正第7版 体幹と骨盤の評価 グレイ解剖学 運動療法の為の機能解剖学	授業範囲本読み予習、復習、インターネット利用の講義によりイメージさせる。AI生成画像によりイメージを深くさせる
		各コマにおける授業予定	関節損傷の分類と症状(損傷の程度による分類、靭帯損傷の治癒過程、経過と予後)		

2026 年度 授業計画(シラバス)

学 科	柔道整復スポーツトレーナー		科 目 区 分	専門分野	授業の方法	講義
科 目 名	柔道整復学・総論 I		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	60 (4) 時間(単位)
対 象 学 年	1年		学期及び曜時限	通年 金・1限	教室名	301教室
担 当 教 員	池上 直樹	実務経験と その関連資 格	柔道整復師 柔道整復師専科教員 鍼灸整骨院開業			
《授業科目における学習内容》						
柔道整復師の歴史的背景に学びさらに業務などの沿革について免許制度や法制度がどのように確立されていったか見識を深める。また柔道整復師の施術対象である骨折、捻挫、脱臼、挫傷、打撲、軟部組織損傷、神経系損傷について理論的に広く学び、柔道整復師の業務にどのように役立つか考える。						
《成績評価の方法と基準》						
定期試験100%						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
柔道整復学・理論編 改訂版7版 運動療法に役立つ単純X線像の読み方。体幹と骨盤の評価 グレイ解剖学 運動療法の為の機能解剖学 AI生成によるイメージ図						
《授業外における学習方法》						
インターネットを使つてのアプローチ 座学以外にも体験、イメージできるように自ら動ける、動かす体験をさせる。						
《履修に当たつての留意点》						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容	
第16回	講義形式	授業を通じての到達目標	関節軟骨の治癒機序について、なぜ修復が困難なのかを理解する。	柔道整復学理論編 改訂版7版	授業範囲本読み予習、復習、インターネット利用の講義によりイメージさせる。他の業種の治療家の本などやネットでの学習セミナーが主となっています。	
		各コマにおける授業予定	関節損傷の分類と症状(発生頻度、分類、症状、合併症、軟骨の治癒機序、関節部に分布あるいは通過する神経・血管)			
第17回	講義形式	授業を通じての到達目標	脱臼とはどのようなものかその発生頻度や分類について学ぶ	柔道整復学理論編 改訂版7版	授業範囲本読み予習、復習、インターネット利用の講義によりイメージさせる。他の業種の治療家の本などやネットでの学習セミナーが主となっています。	
		各コマにおける授業予定	脱臼の定義と概説、発生頻度、分類			
第18回	講義形式	授業を通じての到達目標	脱臼の分類について学ぶ	柔道整復学理論編 改訂版7版	授業範囲本読み予習、復習、インターネット利用の講義によりイメージさせる。他の業種の治療家の本などやネットでの学習セミナーが主となっています。	
		各コマにおける授業予定	脱臼の分類(脱臼の頻度と機序による分類)			
第19回	講義形式	授業を通じての到達目標	脱臼の症状について理解を深める。	柔道整復学理論編 改訂版7版	授業範囲本読み予習、復習、インターネット利用の講義によりイメージさせる。他の業種の治療家の本などやネットでの学習セミナーが主となっています。	
		各コマにおける授業予定	脱臼の症状、脱臼の合併症、脱臼の整復障害			
第20回	講義形式	授業を通じての到達目標	脱臼の予後について学ぶ。筋の構造について細胞レベルから理解する。	柔道整復学理論編 改訂版7版	授業範囲本読み予習、復習、インターネット利用の講義によりイメージさせる。他の業種の治療家の本などやネットでの学習セミナーが主となっています。	
		各コマにおける授業予定	脱臼の経過と予後、筋の損傷(筋の構造と機能)			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第21回	講義形式	授業を通じての到達目標	筋にまつわる補助装置や筋繊維の種類について学ぶ	柔道整復学理論編 改訂版7版	授業範囲本読み予習、復習、インターネット利用の講義によりイメージさせる。他の業種の治療家の本などやネットでの学習セミナーが主となっています。
		各コマにおける授業予定	筋繊維の種類、筋の脈管神経、筋の補助装置、筋の損傷を起こす力		
第22回	講義形式	授業を通じての到達目標	筋損傷の程度や損傷の種類について学ぶ	柔道整復学理論編 改訂版7版	授業範囲本読み予習、復習、インターネット利用の講義によりイメージさせる。他の業種の治療家の本などやネットでの学習セミナーが主となっています。
		各コマにおける授業予定	筋の性状による分類、筋損傷の程度による分類、筋間損傷と筋内損傷		
第23回	講義形式	授業を通じての到達目標	筋損傷の症状について学ぶ	柔道整復学理論編 改訂版7版	授業範囲本読み予習、復習、インターネット利用の講義によりイメージさせる。他の業種の治療家の本などやネットでの学習セミナーが主となっています。
		各コマにおける授業予定	筋の外力の働いた部位による分類、外力の働き方による分類、筋損傷の症状		
第24回	講義形式	授業を通じての到達目標	腱の構造と機能について学ぶ	柔道整復学理論編 改訂版7版	授業範囲本読み予習、復習、インターネット利用の講義によりイメージさせる。他の業種の治療家の本などやネットでの学習セミナーが主となっています。
		各コマにおける授業予定	筋損傷の治癒機序、筋損傷の予後、腱の構造と機能		
第25回	講義形式	授業を通じての到達目標	腱の損傷について外力や分類について学ぶ	柔道整復学理論編 改訂版7版	授業範囲本読み予習、復習、インターネット利用の講義によりイメージさせる。他の業種の治療家の本などやネットでの学習セミナーが主となっています。
		各コマにおける授業予定	腱の性質上の分類、腱損傷の程度による分類、腱損傷の程度による分類、腱損傷の部位による分類、外力の働いた部位による分類		
第26回	講義形式	授業を通じての到達目標	腱損傷の治癒機序について学ぶ。末梢神経の構造とについて細胞レベルから学ぶ。	柔道整復学理論編 改訂版7版	授業範囲本読み予習、復習、インターネット利用の講義によりイメージさせる。他の業種の治療家の本などやネットでの学習セミナーが主となっています。
		各コマにおける授業予定	腱損傷の症状、腱損傷の治癒機序、末梢神経の構造と機能		
第27回	講義形式	授業を通じての到達目標	神経損傷の外力、原因、程度について学ぶ	柔道整復学理論編 改訂版7版	授業範囲本読み予習、復習、インターネット利用の講義によりイメージさせる。他の業種の治療家の本などやネットでの学習セミナーが主となっています。
		各コマにおける授業予定	末梢神経損傷を起こす力、神経障害の原因による分類、末梢神経の程度による分類。		
第28回	講義形式	授業を通じての到達目標	末梢神経、中枢神経の症状なども比較しながら学ぶ。	柔道整復学理論編 改訂版7版	授業範囲本読み予習、復習、インターネット利用の講義によりイメージさせる。他の業種の治療家の本などやネットでの学習セミナーが主となっています。
		各コマにおける授業予定	末梢神経損傷の外力の働き方による分類、末梢神経の症状。		
第29回	講義形式	授業を通じての到達目標	末梢神経治癒機序についてワラー変性などを交えながら理解する。	柔道整復学理論編 改訂版7版	授業範囲本読み予習、復習、インターネット利用の講義によりイメージさせる。他の業種の治療家の本などやネットでの学習セミナーが主となっています。
		各コマにおける授業予定	末梢神経の治癒機序、総復習		
第30回	講義形式	授業を通じての到達目標	今で学んだことの中で重要なもののアウトプット。	柔道整復学理論編 改訂版7版	授業範囲本読み予習、復習、インターネット利用の講義によりイメージさせる。他の業種の治療家の本などやネットでの学習セミナーが主となっています。
		各コマにおける授業予定	総復習。		

2026 年度 授業計画(シラバス)

学 科	柔道整復スポーツトレーナー		科目区分	基礎分野	授業の方法	講義
科目名	栄養学		必修/選択の別	選択	授業時数(単位数)	30 (2) 時間(単位)
対象学年	1年生		学期及び曜時間	後期 火(4)	教室名	
担当教員	平田 佐千子	実務経験とその関連資格	病院勤務経験、専門学校教員経験 管理栄養士免許、フードコーディネーター			
《授業科目における学習内容》						
国家試験に直結する教科ではないが、スポーツ分野では栄養知識は必要となり、身体を扱う以上、知っておくべき基礎的な事項とスポーツ栄養の基本的な事項を習得する。また、食事の話をしなければならない場面に必要な基本的事項も学習する						
《成績評価の方法と基準》						
定期試験 70% 出席 20% 授業態度・参加度 10%						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
配布資料、公認スポーツ指導者養成テキスト・ワークブック共通科目 I 及び III						
《授業外における学習方法》						
配布資料の復習、教科書の予習・復習、用語の確認						
《履修に当たっての留意点》						
スライドでの講義となるため、配布資料以上の情報がある。必要事項を書き入れてください。						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容	
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	栄養と健康、栄養の概念	配布資料、公認スポーツ指導者養成テキスト・ワークブック共通科目 I	用語の確認	
		各コマにおける授業予定	食事と健康、日本の食生活、栄養素の種類と機能			
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	炭水化物の基本的事項とスポーツとの関わり	配布資料	用語の確認 前回講義の復習	
		各コマにおける授業予定	炭水化物の種類とその機能、糖質摂取とグリコーゲン回復			
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	脂質、たんぱく質の基本的事項とスポーツとの関わり	配布資料	用語の確認 前回講義の復習	
		各コマにおける授業予定	脂質の種類とその機能、たんぱく質の種類とその機能、摂取量について、筋肉作りについて			
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	水溶性ビタミンの基本的事項	配布資料	用語の確認 前回講義の復習	
		各コマにおける授業予定	水溶性ビタミンとその機能、欠乏症及び過剰症について			
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	脂溶性ビタミンの基本的事項とスポーツとの関わり	配布資料	用語の確認 前回講義の復習	
		各コマにおける授業予定	脂溶性ビタミンとその機能、欠乏症及び過剰症について、スポーツにおけるビタミン摂取について			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	ミネラルの基本的事項	配布資料	用語の確認 前回講義の復習
		各コマにおける授業予定	多量ミネラルの種類とその機能および欠乏症等について		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	ミネラルの基本的事項とスポーツとの関わり	配布資料	用語の確認 前回講義の復習
		各コマにおける授業予定	微量ミネラルの種類とその機能および欠乏症等について、鉄欠乏性貧血とスポーツ、骨作り		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	水分とスポーツ、機能性成分	配布資料	用語の確認 前回講義の復習
		各コマにおける授業予定	水分の役割、体温調節、水分補給、スポーツドリンク、機能性成分		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	栄養素の消化と吸収	配布資料、公認スポーツ指導者養成テキスト・ワークブック共通科目 I	用語の確認 前回講義の復習
		各コマにおける授業予定	栄養素の、各消化器官での消化、栄養素の吸収		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	栄養素の代謝、エネルギー代謝と身体活動	配布資料	用語の確認 前回講義の復習
		各コマにおける授業予定	栄養素の代謝、エネルギー代謝、基礎代謝、METs算出		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標	日本人の食事摂取基準、食品分類法、食事バランスガイド	配布資料	用語の確認 前回講義の復習
		各コマにおける授業予定	日本人の食事摂取基準、エネルギー指標、栄養素指標、食品分類法、食事バランスガイド		
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標	機能性表示食品、サプリメント	配布資料	用語の確認 前回講義の復習
		各コマにおける授業予定	保健機能食品、パフォーマンスサプリメント、ダイエタリーサプリメント、スポーツフード、ドーピングについて		
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標	食事設計	配布資料	用語の確認 前回講義の復習
		各コマにおける授業予定	食事設計、アスリートの身体組成、スポーツ選手の食事計画、補食、減量と増量、食事調査		
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標	スポーツ選手における食事設計	配布資料	用語の確認 前回講義の復習
		各コマにおける授業予定	期分けによる食事(試合前、試合当日、試合後、合宿期、国内外の遠征、オフ期)、グリコーゲンローディング、コンディショニング管理、栄養教育		
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標	まとめ	配布資料 復習プリント	講義の総復習
		各コマにおける授業予定	基本的事項の振り返りと確認、復習プリント		

2026 年度 授業計画(シラバス)

学 科	柔道整復スポーツトレーナー		科 目 区 分	その他	授業の方法	講義
科 目 名	スポーツ総論		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (1) 時間(単位)
対 象 学 年	1年生		学期及び曜時限	通年 金曜3限	教室名	301
担 当 教 員	生田晶子	実務経験と その関連資格	健康運動指導士, NSCA-CPT, JATI-ATI			
《授業科目における学習内容》						
スポーツ現場でのコーチング、トレーニング指導に必要な知識や技術を学び理解する。						
《成績評価の方法と基準》						
素点 70% 出席評価点 20% 平常評価点 10%						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
Reference Book(日本スポーツ協会) トレーニング指導者テキスト(JATI)理論編、実践編、実技編						
《授業外における学習方法》						
授業に関連する記事や情報を積極的に意識的に見るようにする。						
《履修に当たっての留意点》						
授業の 方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	スポーツ現場でのコーチング、トレーニング指導に必要な知識や技術を学び理解する	Reference Book (日本スポーツ協会)	予めテキストに目を通して おき、不明なワードに 対してはインターネット 等にて確認しておく	
		各コマにおける授業予定	【スポーツトレーニングの基本的な考え方と理論体系】 トレーニングサイクル/構造論/目標論/手段・方法論・計画論			
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	スポーツ現場でのコーチング、トレーニング指導に必要な知識や技術を学び理解する	Reference Book (日本スポーツ協会)	予めテキストに目を通して おき、不明なワードに 対してはインターネット 等にて確認しておく	
		各コマにおける授業予定	【スポーツトレーニングの基本的な考え方と理論体系】 トレーニングアセスメント①			
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	スポーツ現場でのコーチング、トレーニング指導に必要な知識や技術を学び理解する	Reference Book (日本スポーツ協会)	予めテキストに目を通して おき、不明なワードに 対してはインターネット 等にて確認しておく	
		各コマにおける授業予定	【スポーツトレーニングの基本的な考え方と理論体系】 トレーニングアセスメント②/トレーニングと休養のバランス			
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	スポーツ現場でのコーチング、トレーニング指導に必要な知識や技術を学び理解する	Reference Book (日本スポーツ協会)	予めテキストに目を通して おき、不明なワードに 対してはインターネット 等にて確認しておく	
		各コマにおける授業予定	グッドコーチに求められる医・科学的知識を理解する①			
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	スポーツ現場でのコーチング、トレーニング指導に必要な知識や技術を学び理解する	Reference Book (日本スポーツ協会)	予めテキストに目を通して おき、不明なワードに 対してはインターネット 等にて確認しておく	
		各コマにおける授業予定	【体力のトレーニング】 身体のしくみと動き/トレーニングの種類			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	スポーツ現場でのコーチング、トレーニング指導に必要な知識や技術を学び理解する	Reference Book (日本スポーツ協会)	予めテキストに目を通しておき、不明なワードに対してはインターネット等にて確認しておく
		各コマにおける授業予定	【体力のトレーニング】 呼吸循環器系の働きとエネルギー機構		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	スポーツ現場でのコーチング、トレーニング指導に必要な知識や技術を学び理解する	Reference Book (日本スポーツ協会)	予めテキストに目を通しておき、不明なワードに対してはインターネット等にて確認しておく
		各コマにおける授業予定	【体力のトレーニング】 体カトレーニングの原理原則		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	スポーツ現場でのコーチング、トレーニング指導に必要な知識や技術を学び理解する	Reference Book (日本スポーツ協会)	予めテキストに目を通しておき、不明なワードに対してはインターネット等にて確認しておく
		各コマにおける授業予定	【体力のトレーニング】 トレーニングの種類		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	スポーツ現場でのコーチング、トレーニング指導に必要な知識や技術を学び理解する	Reference Book (日本スポーツ協会)	予めテキストに目を通しておき、不明なワードに対してはインターネット等にて確認しておく
		各コマにおける授業予定	【スキルトレーニング】 スポーツバイオメカニクス		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	スポーツ現場でのコーチング、トレーニング指導に必要な知識や技術を学び理解する	Reference Book (日本スポーツ協会)	予めテキストに目を通しておき、不明なワードに対してはインターネット等にて確認しておく
		各コマにおける授業予定	【心のトレーニング】 行動としてのスポーツ スポーツにおける動機づけ		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標	スポーツ現場でのコーチング、トレーニング指導に必要な知識や技術を学び理解する	Reference Book (日本スポーツ協会)	予めテキストに目を通しておき、不明なワードに対してはインターネット等にて確認しておく
		各コマにおける授業予定	【心のトレーニング】 スポーツにおける動機づけ		
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標	スポーツ現場でのコーチング、トレーニング指導に必要な知識や技術を学び理解する	Reference Book (日本スポーツ協会)	予めテキストに目を通しておき、不明なワードに対してはインターネット等にて確認しておく
		各コマにおける授業予定	【心のトレーニング】 スポーツにおける動機づけ		
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標	スポーツ現場でのコーチング、トレーニング指導に必要な知識や技術を学び理解する	Reference Book (日本スポーツ協会)	予めテキストに目を通しておき、不明なワードに対してはインターネット等にて確認しておく
		各コマにおける授業予定	グッドコーチに求められる医・科学的知識を理解する②		
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標	スポーツ現場でのコーチング、トレーニング指導に必要な知識や技術を学び理解する	Reference Book (日本スポーツ協会)	予めテキストに目を通しておき、不明なワードに対してはインターネット等にて確認しておく
		各コマにおける授業予定	グッドコーチに求められる医・科学的知識を理解する③		
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標	スポーツ現場でのコーチング、トレーニング指導に必要な知識や技術を学び理解する	Reference Book (日本スポーツ協会)	予めテキストに目を通しておき、不明なワードに対してはインターネット等にて確認しておく
		各コマにおける授業予定	総まとめ		

2026 年度 授業計画(シラバス)

学 科	柔道整復スポーツトレーナー		科 目 区 分	その他	授業の方法	講義
科 目 名	スポーツ総論		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (1) 時間(単位)
対 象 学 年	1年生		学期及び曜時限	通年	教室名	301
担 当 教 員	生田晶子	実務経験と その関連資格	健康運動指導士, NSCA-CPT, JATI-ATI			
《授業科目における学習内容》						
スポーツ現場でのコーチング、トレーニング指導に必要な知識や技術を学び理解する。						
《成績評価の方法と基準》						
素点 70% 出席評価点 20% 平常評価点 10%						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
Reference Book (日本スポーツ協会) トレーニング指導者テキスト(JATI)理論編、実践編、実技編						
《授業外における学習方法》						
授業に関連する記事や情報を積極的に意識的に見るようにする。						
《履修に当たっての留意点》						
授業の 方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第 16 回	講義形式	授業を 通じての 到達目標	スポーツ栄養の基礎的知識について理解する	Reference Book (日本スポーツ協 会)	予めテキストに目を通し ておき、不明なワードに 対してはインターネット 等にて確認しておく	
		各コマに おける 授業予定	【スポーツ栄養】 5大栄養素の役割と特徴			
第 17 回	講義形式	授業を 通じての 到達目標	スポーツ栄養の食事について理解する	Reference Book (日本スポーツ協 会)	予めテキストに目を通し ておき、不明なワードに 対してはインターネット 等にて確認しておく	
		各コマに おける 授業予定	【スポーツ栄養】 基本の食事			
第 18 回	講義形式	授業を 通じての 到達目標	スポーツ医学的知識について理解する	Reference Book (日本スポーツ協 会)	予めテキストに目を通し ておき、不明なワードに 対してはインターネット 等にて確認しておく	
		各コマに おける 授業予定	【スポーツ医学的知識】 スポーツと健康/アスリートの健康管理/アスリートの内科的障 害と対策			
第 19 回	講義形式	授業を 通じての 到達目標	スポーツ医学的知識について理解する	Reference Book (日本スポーツ協 会)	予めテキストに目を通し ておき、不明なワードに 対してはインターネット 等にて確認しておく	
		各コマに おける 授業予定	【スポーツ医学的知識】 女性アスリートの障害と対策/精神障害と対策			
第 20 回	講義形式	授業を 通じての 到達目標	スポーツ医学的知識について理解する	Reference Book (日本スポーツ協 会)	予めテキストに目を通し ておき、不明なワードに 対してはインターネット 等にて確認しておく	
		各コマに おける 授業予定	【スポーツ医学的知識】 外傷・障害予防/コンディショニング手法/救急処置			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第21回	講義形式	授業を通じての到達目標	グッドコーチに求められる医・科学的知識を考え理解する	Reference Book (日本スポーツ協会)	予めテキストに目を通しておき、不明なワードに対してはインターネット等にて確認しておく
		各コマにおける授業予定	グッドコーチに求められる医・科学的知識を理解する④		
第22回	講義形式	授業を通じての到達目標	グッドコーチに求められる医・科学的知識を考え理解する	Reference Book (日本スポーツ協会)	予めテキストに目を通しておき、不明なワードに対してはインターネット等にて確認しておく
		各コマにおける授業予定	【アンチ・ドーピング】		
第23回	講義形式	授業を通じての到達目標	コーチング環境の特徴を理解する	Reference Book (日本スポーツ協会)	予めテキストに目を通しておき、不明なワードに対してはインターネット等にて確認しておく
		各コマにおける授業予定	【コーチング環境の特徴】 ジュニア期・年齢区分・運動部活動でのコーチングの留意点／性別の考慮		
第24回	講義形式	授業を通じての到達目標	現場・環境に応じたコーチングを考える	Reference Book (日本スポーツ協会)	予めテキストに目を通しておき、不明なワードに対してはインターネット等にて確認しておく
		各コマにおける授業予定	現場・環境に応じたコーチングを考える①		
第25回	講義形式	授業を通じての到達目標	ハイパフォーマンススポーツにおけるコーチングについて理解する	Reference Book (日本スポーツ協会)	予めテキストに目を通しておき、不明なワードに対してはインターネット等にて確認しておく
		各コマにおける授業予定	【ハイパフォーマンススポーツにおける今日的なコーチング】		
第26回	講義形式	授業を通じての到達目標	スポーツ組織のマネージメントについて理解する	Reference Book (日本スポーツ協会)	予めテキストに目を通しておき、不明なワードに対してはインターネット等にて確認しておく
		各コマにおける授業予定	【スポーツ組織のマネージメント】 目的・補完のマネージメント		
第27回	講義形式	授業を通じての到達目標	スポーツ組織のマネージメントについて理解する	Reference Book (日本スポーツ協会)	予めテキストに目を通しておき、不明なワードに対してはインターネット等にて確認しておく
		各コマにおける授業予定	【スポーツ組織のマネージメント】 スポーツ指導者に求められるマネージメント		
第28回	講義形式	授業を通じての到達目標	障がい者とスポーツについて理解する	Reference Book (日本スポーツ協会)	予めテキストに目を通しておき、不明なワードに対してはインターネット等にて確認しておく
		各コマにおける授業予定	【障がい者とスポーツ】		
第29回	講義形式	授業を通じての到達目標	現場・環境に応じたコーチングを考える	Reference Book (日本スポーツ協会)	予めテキストに目を通しておき、不明なワードに対してはインターネット等にて確認しておく
		各コマにおける授業予定	現場・環境に応じたコーチングを考える②		
第30回	講義形式	授業を通じての到達目標	スポーツトレーナーとしての役割各項目を参考に考えまとめる	Reference Book (日本スポーツ協会)	予めテキストに目を通しておき、不明なワードに対してはインターネット等にて確認しておく
		各コマにおける授業予定	総まとめ		

2026 年度 授業計画(シラバス)

学 科	柔道整復スポーツトレーナー		科 目 区 分	その他	授業の方法	講義
科 目 名	トレーニング I		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (1) 時間(単位)
対 象 学 年	1年生		学期及び曜時間	後期	教室名	301教室 運生室
担 当 教 員	生田晶子	実務経験と その関連資格	健康運動指導士, NSCA-CPT			
《授業科目における学習内容》						
健康運動・トレーニング指導者として必要な知識を学び理解する。						
《成績評価の方法と基準》						
素点 70% 出席評価点 20% 平常評価点 10%						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
健康運動実践指導者養成テキスト Reference Book(日本スポーツ協会) NSCA パーソナルトレーナーのための基礎知識 配布資料						
《授業外における学習方法》						
テキストを精読する。 定期的に提示する課題に対してレポート作成をし、発表・提出してもらいます。						
《履修に当たっての留意点》						
授業の 方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	身体活動基準2013やアクティブガイドについて理解し、健康運動実践指導者の役割を理解する。	健康運動実践指導者養成テキスト Reference Book (日本スポーツ協会)	予めテキストに目を通しておき、不明なワードに対してはインターネット等にて確認しておく	
		各コマにおける授業予定	第6章 健康づくりと運動プログラム[1]-[4] アクティブガイド等			
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	健康運動指導を行うための体力測定や評価について理解する。	健康運動実践指導者養成テキスト Reference Book (日本スポーツ協会)	予めテキストに目を通しておき、不明なワードに対してはインターネット等にて確認しておく	
		各コマにおける授業予定	第5章 体力測定と評価			
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	ウォーミングアップとクーリングダウンについて理解する。	健康運動実践指導者養成テキスト Reference Book (日本スポーツ協会)	予めテキストに目を通しておき、不明なワードに対してはインターネット等にて確認しておく	
		各コマにおける授業予定	第6章 健康づくりと運動プログラム[5]-[6] W-UP C-DOWN ①			
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	ウォーミングアップとクーリングダウンについて理解し実践のためのプログラム作成が出来るようになる。	健康運動実践指導者養成テキスト Reference Book (日本スポーツ協会)	予めテキストに目を通しておき、不明なワードに対してはインターネット等にて確認しておく	
		各コマにおける授業予定	第6章 健康づくりと運動プログラム[5]-[6] W-UP C-DOWN ②			
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	レジスタンス運動について理解する。	健康運動実践指導者養成テキスト Reference Book (日本スポーツ協会)	予めテキストに目を通しておき、不明なワードに対してはインターネット等にて確認しておく	
		各コマにおける授業予定	第6章 健康づくりと運動プログラム[7] レジスタンス			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	主運動や対象者に応じたウォーミングアップを理解する。	健康運動実践指導者養成テキスト Reference Book (日本スポーツ協会)	予めテキストに目を通しておき、不明なワードに対してはインターネット等にて確認しておく
		各コマにおける授業予定	第8章 健康づくり運動の実際 指導者とは 必要な能力/A[1]-[5] W-UP		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	主運動や対象者に応じたクーリングダウンを理解する。	健康運動実践指導者養成テキスト Reference Book (日本スポーツ協会)	予めテキストに目を通しておき、不明なワードに対してはインターネット等にて確認しておく
		各コマにおける授業予定	第8章 健康づくり運動の実際 A[6]-[10] C-DOWN		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	条件に応じたウォーミングアップとクーリングダウンのプログラムを作成することができるようになる。	健康運動実践指導者養成テキスト Reference Book (日本スポーツ協会)	予めテキストに目を通しておき、不明なワードに対してはインターネット等にて確認しておく
		各コマにおける授業予定	第8章 健康づくり運動の実際 *まとめ W-UP/C-DOWNプログラム		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	ストレッチングについて理解する。	健康運動実践指導者養成テキスト Reference Book (日本スポーツ協会)	予めテキストに目を通しておき、不明なワードに対してはインターネット等にて確認しておく
		各コマにおける授業予定	第8章 健康づくり運動の実際 B[1]-[6] ストレッチング		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	ストレッチングのプログラム作成をできるようにする。	健康運動実践指導者養成テキスト Reference Book (日本スポーツ協会)	予めテキストに目を通しておき、不明なワードに対してはインターネット等にて確認しておく
		各コマにおける授業予定	第8章 健康づくり運動の実際 B[1]-[6] *まとめ プログラム作成		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標	ウォーキングとジョギングについて理解する。	健康運動実践指導者養成テキスト Reference Book (日本スポーツ協会)	予めテキストに目を通しておき、不明なワードに対してはインターネット等にて確認しておく
		各コマにおける授業予定	第8章 健康づくり運動の実際 B[1]-[9] ウォーキング・ジョギング		
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標	ウォーキングとジョギングのプログラムを作成することができるようになる。	健康運動実践指導者養成テキスト Reference Book (日本スポーツ協会)	予めテキストに目を通しておき、不明なワードに対してはインターネット等にて確認しておく
		各コマにおける授業予定	第8章 健康づくり運動の実際 B[1]-[9] *まとめ ウォーキング・ジョギング		
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標	水中運動について理解する。	健康運動実践指導者養成テキスト Reference Book (日本スポーツ協会)	予めテキストに目を通しておき、不明なワードに対してはインターネット等にて確認しておく
		各コマにおける授業予定	第8章 健康づくり運動の実際 E[1]-[5] 水泳・水中運動		
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標	健康運動指導におけるレジスタンス運動を理解する。	健康運動実践指導者養成テキスト Reference Book (日本スポーツ協会)	予めテキストに目を通しておき、不明なワードに対してはインターネット等にて確認しておく
		各コマにおける授業予定	第8章 健康づくり運動の実際 F[1]-[6] レジスタンス		
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標	健康運動指導におけるレジスタンス運動プログラムを作成することができるようになる。	健康運動実践指導者養成テキスト Reference Book (日本スポーツ協会)	総復習
		各コマにおける授業予定	第8章 健康づくり運動の実際 F[1]-[6] *まとめ レジスタンス		

2026 年度 授業計画(シラバス)

学 科	柔道整復スポーツトレーナー学科		科 目 区 分	基礎分野	授業の方法	実習
科 目 名	体育		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (2) 時間(単位)
対 象 学 年	1年生		学期及び曜時間	後期	教室名	体育館
担 当 教 員	難波 浩子	実務経験とその関連資格	保健体育教員免許			
《授業科目における学習内容》						
<p>柔術並びに柔道の歴史を学び、創始者である嘉納治五郎師範の柔道の精神を理解し、柔道と柔道整復師との関わり、また、柔道整復師としての柔道の必要性を理解し、医療人としての人格の形成を学ぶ。また、柔道における礼法を学び、社会に貢献できる態度を身につけるとともに、受身などの基本的動作の獲得および身体の健康維持、体力の向上を目標とする。</p>						
《成績評価の方法と基準》						
<ul style="list-style-type: none"> ・定期試験 70% ・出席 20% ・平常点 10% 						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
参考図書『イラスト柔道・イラスト柔道の形』共に五月書房						
《授業外における学習方法》						
柔道の動画などを利用して、動きやタイミングを学ぶ。						
《履修に当たっての留意点》						
必ず体温確認をして体調やけが、筋肉痛など各自の体の管理をしっかりし、不調がある場合は必ず担当者に伝える。授業終了後は手指のアルコール消毒は必ずすること。						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容	
第1回	演習実習形式	授業を通じての到達目標	柔道について武道、スポーツと2つの考え方を理解する	イラスト柔道 イラスト柔道の形	予習は、事前に実施する内容を把握しておくこと。復習は、習得できなかった内容を担当教員から指導を受けるように努める。	
		各コマにおける授業予定	オリエンテーション 授業概要の説明、武道としての柔道、スポーツとしての柔道			
第2回	演習実習形式	授業を通じての到達目標	柔道着の名称 着かたを理解する。	イラスト柔道 イラスト柔道の形	予習は、事前に実施する内容を把握しておくこと。復習は、習得できなかった内容を担当教員から指導を受けるように努める。	
		各コマにおける授業予定	オリエンテーション 柔道の国際化、礼法、特性、柔道衣の扱い方、体ほぐし運動			
第3回	演習実習形式	授業を通じての到達目標	受身の重要性を理解し、挑戦してみる。	イラスト柔道 イラスト柔道の形	予習は、事前に実施する内容を把握しておくこと。復習は、習得できなかった内容を担当教員から指導を受けるように努める。	
		各コマにおける授業予定	基本動作・体ほぐし運動 受け身(後ろ・横・前)、姿勢、組み方			
第4回	演習実習形式	授業を通じての到達目標	受身の種類を理解し 体得する。体裁きについて理解する。	イラスト柔道 イラスト柔道の形	予習は、事前に実施する内容を把握しておくこと。復習は、習得できなかった内容を担当教員から指導を受けるように努める。	
		各コマにおける授業予定	基本動作・体ほぐし運動 受け身(後ろ・横・前・前廻り)体捌き(前・後ろ・前廻り・後ろ回り)			
第5回	演習実習形式	授業を通じての到達目標	左右の受け身を体得し 崩しについて理解する。	イラスト柔道 イラスト柔道の形	予習は、事前に実施する内容を把握しておくこと。復習は、習得できなかった内容を担当教員から指導を受けるように努める。	
		各コマにおける授業予定	基本動作・体ほぐし運動 受け身(後ろ・横・前・前廻り)崩し(八方)、進退動作			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	演習実習形式	授業を通じての到達目標	回転運動を体得し、摺り足、継ぎ足、歩み足を理解する。	イラスト柔道 イラスト柔道の形	予習は、事前実施する内容を把握しておくこと。復習は、習得できなかった内容を担当教員から指導を受けるように努める。
		各コマにおける授業予定	基本動作・体ほぐし運動 受け身(後ろ・横・前・前廻り)進退動作(継ぎ足、歩み足)		
第7回	演習実習形式	授業を通じての到達目標	前回り受け身を体得し 投げ技を理解する。	イラスト柔道 イラスト柔道の形	予習は、事前実施する内容を把握しておくこと。復習は、習得できなかった内容を担当教員から指導を受けるように努める。
		各コマにおける授業予定	基本動作・体ほぐし運動 前廻り受け身、投げ技の基本動作		
第8回	演習実習形式	授業を通じての到達目標	膝車を通して、対人受け身を体得する。	イラスト柔道 イラスト柔道の形	予習は、事前実施する内容を把握しておくこと。復習は、習得できなかった内容を担当教員から指導を受けるように努める。
		各コマにおける授業予定	基本動作・対人的技能 前廻り受け身、膝車、大腰		
第9回	演習実習形式	授業を通じての到達目標	足技の基本を理解する。	イラスト柔道 イラスト柔道の形	予習は、事前実施する内容を把握しておくこと。復習は、習得できなかった内容を担当教員から指導を受けるように努める。
		各コマにおける授業予定	本動作・対人的技能 前廻り受け身、体落とし、出足払い		
第10回	演習実習形式	授業を通じての到達目標	大腰を通して 投げ技受身を体得する。	イラスト柔道 イラスト柔道の形	予習は、事前実施する内容を把握しておくこと。復習は、習得できなかった内容を担当教員から指導を受けるように努める。
		各コマにおける授業予定	基本動作・対人的技能 前廻り受け身、大腰 固め技の基本動作		
第11回	演習実習形式	授業を通じての到達目標	後ろに投げられた時の受け身を体得する。	イラスト柔道 イラスト柔道の形	予習は、事前実施する内容を把握しておくこと。復習は、習得できなかった内容を担当教員から指導を受けるように努める。
		各コマにおける授業予定	基本動作・対人的技能 前廻り受け身、大内刈り、小内刈り・崩れ上四方固め		
第12回	演習実習形式	授業を通じての到達目標	寝技にこの基本動作 ルールを理解する。	イラスト柔道 イラスト柔道の形	予習は、事前実施する内容を把握しておくこと。復習は、習得できなかった内容を担当教員から指導を受けるように努める。
		各コマにおける授業予定	基本動作・対人的技能 前廻り受け身、支えつり込み足、払い腰 袈裟固め		
第13回	演習実習形式	授業を通じての到達目標	柔道の形をどうして 投げ技を学ぶ	イラスト柔道 イラスト柔道の形	予習は、事前実施する内容を把握しておくこと。復習は、習得できなかった内容を担当教員から指導を受けるように努める。
		各コマにおける授業予定	基本動作・対人的技能 前廻り受け身、送り足払い、内股・横四方固め 柔道の形		
第14回	演習実習形式	授業を通じての到達目標	柔道の形をどうして 投げ技を学ぶ	イラスト柔道 イラスト柔道の形	予習は、事前実施する内容を把握しておくこと。復習は、習得できなかった内容を担当教員から指導を受けるように努める。
		各コマにおける授業予定	基本動作・対人的技能 前廻り受け身、背負い投げ、跳ね腰 柔道の形		
第15回	演習実習形式	授業を通じての到達目標	礼法 受身のテスト 技の名称をテストする	イラスト柔道 イラスト柔道の形	予習は、事前実施する内容を把握しておくこと。復習は、習得できなかった内容を担当教員から指導を受けるように努める。
		各コマにおける授業予定	総括 これまでの復習、理解度を深める		

2026 年度 授業計画(シラバス)

学 科	柔道整復スポーツトレーナー		科 目 区 分	その他	授業の方法	講義実習
科 目 名	健康エクササイズ I		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	60 (2) 時間(単位)
対 象 学 年	1年生		学期及び曜時間	後期	教室名	301
担 当 教 員	生田晶子	実務経験と その関連資格	健康運動指導士、NSCA-CPT、JATI-ATI			
《授業科目における学習内容》						
健康運動実践指導者として、運動指導現場に必要な知識と技術を学び理解する。						
《成績評価の方法と基準》						
素点 70% 出席評価点 20% 平常評価点 10%						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
健康運動実践指導者養成テキスト Reference Book(日本スポーツ協会) トレーニング指導者(理論編・実践編・実技編) 配布資料						
《授業外における学習方法》						
テキストを精読し、テキストにあるトレーニング例を予習復習として実施する						
《履修に当たっての留意点》						
授業の 方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第1回	講義形式	授業を 通じての 到達目標	第1章を理解し認定試験に備えることができる	・健康運動実践 指導者養成テキ スト ・トレーニング指 導者テキスト ・配布資料	テキストを精読する。 関連資料に触れる。	
		各コマに おける 授業予定	第1章 健康づくり施策概論①			
第2回	講義形式	授業を 通じての 到達目標	第1章を理解し認定試験に備えることができる	・健康運動実践 指導者養成テキ スト ・トレーニング指 導者テキスト ・配布資料	テキストを精読する。 関連資料に触れる。	
		各コマに おける 授業予定	第1章 健康づくり施策概論②			
第3回	実習形式	授業を 通じての 到達目標	第2章を理解し認定試験に備えることができる	・健康運動実践 指導者養成テキ スト ・トレーニング指 導者テキスト ・配布資料	テキストを精読する。 関連資料に触れる。	
		各コマに おける 授業予定	第2章 運動生理学①			
第4回	実習形式	授業を 通じての 到達目標	第2章を理解し認定試験に備えることができる	・健康運動実践 指導者養成テキ スト ・トレーニング指 導者テキスト ・配布資料	テキストを精読する。 関連資料に触れる。	
		各コマに おける 授業予定	第2章 運動生理学②			
第5回	実習形式	授業を 通じての 到達目標	第2章を理解し認定試験に備えることができる	・健康運動実践 指導者養成テキ スト ・トレーニング指 導者テキスト ・配布資料	テキストを精読する。 関連資料に触れる。	
		各コマに おける 授業予定	第2章 運動生理学③			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	実習形式	授業を通じての到達目標	第3章を理解し認定試験に備えることができる	<ul style="list-style-type: none"> 健康運動実践指導者養成テキスト トレーニング指導者テキスト 配布資料 	テキストを精読する。関連資料に触れる。
		各コマにおける授業予定	第3章 機能解剖とバイオメカニクス①		
第7回	実習形式	授業を通じての到達目標	第3章を理解し認定試験に備えることができる	<ul style="list-style-type: none"> 健康運動実践指導者養成テキスト トレーニング指導者テキスト 配布資料 	テキストを精読する。関連資料に触れる。
		各コマにおける授業予定	第3章 機能解剖とバイオメカニクス②		
第8回	実習形式	授業を通じての到達目標	第4章を理解し認定試験に備えることができる	<ul style="list-style-type: none"> 健康運動実践指導者養成テキスト トレーニング指導者テキスト 配布資料 	テキストを精読する。関連資料に触れる。
		各コマにおける授業予定	第4章 栄養摂取と運動①		
第9回	実習形式	授業を通じての到達目標	第4章を理解し認定試験に備えることができる	<ul style="list-style-type: none"> 健康運動実践指導者養成テキスト トレーニング指導者テキスト 配布資料 	テキストを精読する。関連資料に触れる。
		各コマにおける授業予定	第4章 栄養摂取と運動②		
第10回	実習形式	授業を通じての到達目標	第5章を理解し認定試験に備えることができる	<ul style="list-style-type: none"> 健康運動実践指導者養成テキスト トレーニング指導者テキスト 配布資料 	テキストを精読する。関連資料に触れる。
		各コマにおける授業予定	第5章 運動指導の心理学的基礎①		
第11回	実習形式	授業を通じての到達目標	第5章を理解し認定試験に備えることができる	<ul style="list-style-type: none"> 健康運動実践指導者養成テキスト トレーニング指導者テキスト 配布資料 	テキストを精読する。関連資料に触れる。
		各コマにおける授業予定	第5章 運動指導の心理学的基礎②		
第12回	実習形式	授業を通じての到達目標	第6章を理解し認定試験に備えることができる	<ul style="list-style-type: none"> 健康運動実践指導者養成テキスト トレーニング指導者テキスト 配布資料 	テキストを精読する。関連資料に触れる。
		各コマにおける授業予定	第6章 体力測定と評価①		
第13回	実習形式	授業を通じての到達目標	第6章を理解し認定試験に備えることができる	<ul style="list-style-type: none"> 健康運動実践指導者養成テキスト トレーニング指導者テキスト 配布資料 	テキストを精読する。関連資料に触れる。
		各コマにおける授業予定	第6章 体力測定と評価②		
第14回	実習形式	授業を通じての到達目標	第7章を理解し認定試験に備えることができる	<ul style="list-style-type: none"> 健康運動実践指導者養成テキスト トレーニング指導者テキスト 配布資料 	テキストを精読する。関連資料に触れる。
		各コマにおける授業予定	第7章 健康づくりと運動プログラム①		
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標	第7章を理解し認定試験に備えることができる	<ul style="list-style-type: none"> 健康運動実践指導者養成テキスト トレーニング指導者テキスト 配布資料 	テキストを精読する。関連資料に触れる。
		各コマにおける授業予定	第7章 健康づくりと運動プログラム②		

2026 年度 授業計画(シラバス)

学 科	柔道整復スポーツトレーナー		科 目 区 分	その他	授業の方法	講義実習
科 目 名	健康エクササイズ I		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	60 (2) 時間(単位)
対 象 学 年	1年生		学期及び曜時間	後期	教室名	301
担 当 教 員	生田晶子	実務経験と その関連資格	健康運動指導士、NSCA-CPT、JATI-ATI			
《授業科目における学習内容》						
健康運動実践指導者として、運動指導現場に必要な知識と技術を学び理解する。						
《成績評価の方法と基準》						
素点 70% 出席評価点 20% 平常評価点 10%						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
健康運動実践指導者養成テキスト Reference Book(日本スポーツ協会) トレーニング指導者(理論編・実践編・実技編) 配布資料						
《授業外における学習方法》						
テキストを精読し、テキストにあるトレーニング例を予習復習として実施する						
《履修に当たっての留意点》						
授業の 方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第 16 回	授業を 通じての 到達目標	第7章を理解して認定試験に備えることができる		・健康運動実践 指導者養成テキ スト ・配布資料	テキストを精読する。 関連資料に触れる。	
	各コマに おける 授業予定	第7章 健康づくりと運動プログラム③				
第 17 回	授業を 通じての 到達目標	第7章を理解して認定試験に備えることができる		・健康運動実践 指導者養成テキ スト ・配布資料	テキストを精読する。 関連資料に触れる。	
	各コマに おける 授業予定	第7章 健康づくりと運動プログラム④				
第 18 回	授業を 通じての 到達目標	第8章を理解して認定試験に備えることができる		・健康運動実践 指導者養成テキ スト ・配布資料	テキストを精読する。 関連資料に触れる。	
	各コマに おける 授業予定	第8章 健康づくり運動①				
第 19 回	授業を 通じての 到達目標	第8章を理解して認定試験に備えることができる		・健康運動実践 指導者養成テキ スト ・配布資料	テキストを精読する。 関連資料に触れる。	
	各コマに おける 授業予定	第8章 健康づくり運動②				
第 20 回	授業を 通じての 到達目標	第8章を理解して認定試験に備えることができる		・健康運動実践 指導者養成テキ スト ・配布資料	テキストを精読する。 関連資料に触れる。	
	各コマに おける 授業予定	第8章 健康づくり運動③				

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第21回	講義形式	授業を通じての到達目標	第8章を理解して認定試験に備えることができる	・健康運動実践指導者養成テキスト ・配布資料	テキストを精読する。 関連資料に触れる。
		各コマにおける授業予定	第8章 健康づくり運動④		
第22回	実習形式	授業を通じての到達目標	第8章を理解して認定試験に備えることができる	・健康運動実践指導者養成テキスト ・配布資料	テキストを精読する。 関連資料に触れる。
		各コマにおける授業予定	第8章 健康づくり運動⑤		
第23回	実習形式	授業を通じての到達目標	第8章を理解して認定試験に備えることができる	・健康運動実践指導者養成テキスト ・配布資料	テキストを精読する。 関連資料に触れる。
		各コマにおける授業予定	第8章 健康づくり運動⑥		
第24回	実習形式	授業を通じての到達目標	第8章を理解して認定試験に備えることができる	・健康運動実践指導者養成テキスト ・配布資料	テキストを精読する。 関連資料に触れる。
		各コマにおける授業予定	第8章 健康づくり運動⑦		
第25回	実習形式	授業を通じての到達目標	第8章を理解して認定試験に備えることができる	・健康運動実践指導者養成テキスト ・配布資料	テキストを精読する。 関連資料に触れる。
		各コマにおける授業予定	第8章 健康づくり運動⑧		
第26回	実習形式	授業を通じての到達目標	第8章を理解して認定試験に備えることができる	・健康運動実践指導者養成テキスト ・配布資料	テキストを精読する。 関連資料に触れる。
		各コマにおける授業予定	第8章 健康づくり運動⑨		
第27回	実習形式	授業を通じての到達目標	第9章を理解して認定試験に備えることができる	・健康運動実践指導者養成テキスト ・配布資料	テキストを精読する。 関連資料に触れる。
		各コマにおける授業予定	第9章 運動障害と予防・救急処置①		
第28回	実習形式	授業を通じての到達目標	第9章を理解して認定試験に備えることができる	・健康運動実践指導者養成テキスト ・配布資料	テキストを精読する。 関連資料に触れる。
		各コマにおける授業予定	第9章 運動障害と予防・救急処置②		
第29回	実習形式	授業を通じての到達目標	認定試験に向けて理解を深め確実に合格を目指す	・健康運動実践指導者養成テキスト ・配布資料	テキスト、使用した資料を要確認する
		各コマにおける授業予定	総まとめ		
第30回	講義形式	授業を通じての到達目標	認定試験に向けて理解を深め確実に合格を目指す	・健康運動実践指導者養成テキスト ・配布資料	テキスト、使用した資料を要確認する
		各コマにおける授業予定	総まとめ		

2026 年度 授業計画(シラバス)

学 科	柔道整復スポーツトレーナー学科		科 目 区 分	専門分野	授業の方法	演 習
科 目 名	健康管理学 I		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (2) 時間(単位)
対 象 学 年	1年生		学期及び曜時間	前期 木・1限目	教室名	303教室
担 当 教 員	難波 浩子	実務経験と その関連資格	中学高校保健体育教員資格			
《授業科目における学習内容》						
リファレンスブック、健康運動実践指導者養成テキストを用いて課題に対してグループ考察やディスカッションをなどを取り入れ講義と演習形式で行なう。 科学的・論理的思考のもと各年代層に応じた健康指導の仕方を学ぶ。						
《成績評価の方法と基準》						
<ul style="list-style-type: none"> ・定期試験 70% ・出席 20% ・平常点 10% 						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
日本スポーツ協会 リファレンスブック 健康運動実践指導者養成テキスト 公認スポーツ指導者テキスト						
《授業外における学習方法》						
健康づくりや疾病予防の基礎的な知識を理解し、健康と健康づくりの概念と歴史、わが国の疾病状況や高齢化の現状をふまえ、それを推進する保健医療・介護の制度について理解するために独自で社会情勢など情報収集をする。						
《履修に当たっての留意点》						
スポーツ観戦など積極的に行い、各スポーツの面白さを学ぶとともに、バックで支えている立場になることもわきまえ、いろいろな角度からスポーツを見る目を養う。						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第1回	演習形式	授業を通じての到達目標	健康の定義 我が国の健康づくり対策について理解する	健康運動実践指導者テキスト		資料を用いて授業でやった内容の復習を行う。
	各コマにおける授業予定	健康と健康増進の概念				
第2回	演習形式	授業を通じての到達目標	生活習慣と生活習慣病 高齢化における介護予防について理解する	健康運動実践指導者テキスト		資料を用いて授業でやった内容の復習を行う。
	各コマにおける授業予定	生活習慣病 介護予防				
第3回	演習形式	授業を通じての到達目標	スポーツの歴史と文化としてのスポーツを理解する	公認スポーツ指導者養成テキスト		資料を用いて授業でやった内容の復習を行う。
	各コマにおける授業予定	文化としてのスポーツ				
第4回	演習形式	授業を通じての到達目標	スポーツ振興と行政のかかわりを理解する	公認スポーツ指導者養成テキスト		資料を用いて授業でやった内容の復習を行う。
	各コマにおける授業予定	地域におけるスポーツ振興				
第5回	演習形式	授業を通じての到達目標	スポーツ指導者(コーチ)に求められている事を説明することができる。	日本スポーツ協会 リファレンスブック		資料を用いて授業でやった内容の復習を行う。
	各コマにおける授業予定	コーチングとは				

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	演習形式	授業を通じての到達目標	コーチに必要な様々なスキルを理解する	日本スポーツ協会 リファレンスブック	資料を用いて授業でやった内容の復習を行う。
		各コマにおける授業予定	コーチに求められている知識とスキル		
第7回	演習形式	授業を通じての到達目標	社会におけるスポーツの価値とスポーツ権について理解する	日本スポーツ協会 リファレンスブック	資料を用いて授業でやった内容の復習を行う。
		各コマにおける授業予定	スポーツの意義と価値		
第8回	演習形式	授業を通じての到達目標	スポーツのガバナンスとコンプライアンスを理解する	日本スポーツ協会 リファレンスブック	資料を用いて授業でやった内容の復習を行う。
		各コマにおける授業予定	スポーツの自治		
第9回	演習形式	授業を通じての到達目標	指導者が負う法的責任 スポーツ仲裁制度について理解する	日本スポーツ協会 リファレンスブック	資料を用いて授業でやった内容の復習を行う。
		各コマにおける授業予定	スポーツ事故における指導者の法的責任		
第10回	演習形式	授業を通じての到達目標	フェアプレーの精神について理解する	日本スポーツ協会 リファレンスブック	資料を用いて授業でやった内容の復習を行う。
		各コマにおける授業予定	スポーツ倫理		
第11回	演習形式	授業を通じての到達目標	新しいスポーツを考えてみよう	日本スポーツ協会 リファレンスブック	体育館でやるのでシューズ 運動のできる服装 暑さ予防に関する水分タオルを用意する
		各コマにおける授業予定	コーチング実習		
第12回	演習形式	授業を通じての到達目標	ジュニア期 中高年のコーチングの留意点の違いを理解する	日本スポーツ協会 リファレンスブック	資料を用いて授業でやった内容の復習を行う。
		各コマにおける授業予定	現場環境に応じたコーチング		
第13回	演習形式	授業を通じての到達目標	トップレベルの選手に対するコーチングを理解する	日本スポーツ協会 リファレンスブック	資料を用いて授業でやった内容の復習を行う。
		各コマにおける授業予定	ハイパフォーマンススポーツにおける今日的コーチング		
第14回	演習形式	授業を通じての到達目標	障がい者スポーツの現状と課題を理解する	日本スポーツ協会 リファレンスブック	資料を用いて授業でやった内容の復習を行う。
		各コマにおける授業予定	障がい者とスポーツ		
第15回	演習形式	授業を通じての到達目標	今までおこなってきた内容について説明する事が出来る。	日本スポーツ協会 リファレンスブック	資料を用いて授業でやった内容の復習を行う。
		各コマにおける授業予定	総復習		

2026 年度 授業計画(シラバス)

学 科	柔道整復スポーツトレーナー		科 目 区 分	専門基礎分野	授業の方法	講義
科 目 名	衛生学・公衆衛生学		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (2) 時間(単位)
対 象 学 年	1年生		学期及び曜時限	後期	教室名	301教室
担 当 教 員	新庄 文明	実務経験と その関連資格	前長崎大学大学院教授(公衆衛生学)、ロンドン大学キングスカレッジ客員助教授、元 大阪大学医学部講師(社会系医学)、医学博士、歯科医師			
《授業科目における学習内容》						
公衆衛生学は、疾病の背景となる環境や人々の生活と、健康を保持・増進させるための社会の様々な仕組みについて、そのライフステージや背景を踏まえて科学的に研究する学問であり、極めて実践的な分野である。人々がなぜ疾病に罹るか、そして健康を回復・保持するための運動や生活習慣などの指導と直結した知識をすることとなる。						
《成績評価の方法と基準》						
定期試験 100%						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
全国柔道整復学校協会監修 『衛生学・公衆衛生学』 改訂第6版(医歯薬出版)						
《授業外における学習方法》						
公衆衛生学は現在の社会の諸問題ならびに、それに対する政治・経済・文化的な人々の反応と直接にかかわる分野であり、新聞や出版物を通じて、今日の社会の動きなどについて関心を持ち、自らの判断力を養うことが重要である。						
《履修に当たっての留意点》						
健康や疾病の発生とその予防について、社会とのかかわりの中で理解し、身体の機能障害が個人的な事象だけでなく、社会の中で発生し、問題解決できるという総合的な判断力を身に着ける。						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	公衆衛生学の歴史、疾病の自然史と予防対策、国内外の公衆衛生活動の動向について理解する	教科書『衛生学・公衆衛生学』および配布する補助資料	配布資料のうち学習小テストの内容を復習・確認する。	
		各コマにおける授業予定	公衆衛生学総論: 疾病予防と健康管理			
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	健康の概念と健康水準、地域や国の健康指標としての人口の捉え方について理解する	教科書『衛生学・公衆衛生学』および配布する補助資料	配布資料のうち学習小テストの内容を復習・確認する。	
		各コマにおける授業予定	人口と健康指標			
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	感染とは何か、その条件や背景について理解する	教科書『衛生学・公衆衛生学』および配布する補助資料	配布資料のうち学習小テストの内容を復習・確認する。	
		各コマにおける授業予定	感染症の予防 ①			
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	要因別の感染予防の考え方、実際の対策とその方法について理解する	教科書『衛生学・公衆衛生学』および配布する補助資料	配布資料のうち学習小テストの内容を復習・確認する。	
		各コマにおける授業予定	感染症の予防 ②			
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	人々の生活をとりまく様々な環境要因とその影響、環境と疾病との関連について理解する	教科書『衛生学・公衆衛生学』および配布する補助資料	配布資料のうち学習小テストの内容を復習・確認する。	
		各コマにおける授業予定	環境衛生			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	飲食物と健康、栄養改善と食品の安全性確保について理解する	教科書『衛生学・公衆衛生学』および配布する補助資料	配布資料のうち学習小テストの内容を復習・確認する。
		各コマにおける授業予定	食品衛生		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	母体の保護から育児、学童の生育環境の整備にかかわる社会の取り組みについて理解する	教科書『衛生学・公衆衛生学』および配布する補助資料	配布資料のうち学習小テストの内容を復習・確認する。
		各コマにおける授業予定	母子保健と学校保健		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	働く人々健康と安全の確保にむけた取り組みについて理解する	教科書『衛生学・公衆衛生学』および配布する補助資料	配布資料のうち学習小テストの内容を復習・確認する。
		各コマにおける授業予定	産業保健		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	人々のライフスタイルと健康について学び、健康づくりの現状と取り組みについて理解する	教科書『衛生学・公衆衛生学』および配布する補助資料	配布資料のうち学習小テストの内容を復習・確認する。
		各コマにおける授業予定	成人保健		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	高齢者の健康保持と要介護者の支援等、社会の取り組みのとその現状について理解する	教科書『衛生学・公衆衛生学』および配布する補助資料	配布資料のうち学習小テストの内容を復習・確認する。
		各コマにおける授業予定	老人保健と社会福祉		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標	こころの健康として、社会と心身の健康の関りを理解する	教科書『衛生学・公衆衛生学』および配布する補助資料	配布資料のうち学習小テストの内容を復習・確認する。
		各コマにおける授業予定	精神保健		
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標	地域社会における保健対策の推移を学び、今日の衛生行政の機構を対策、法律や制度を理解する	教科書『衛生学・公衆衛生学』および配布する補助資料	配布資料のうち学習小テストの内容を復習・確認する。
		各コマにおける授業予定	地域保健と国際保健、衛生行政と保健医療制度		
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標	医療における安全対策、医療事故の防止、ならびに健康と生命にかかわる倫理的な課題について理解する	教科書『衛生学・公衆衛生学』および配布する補助資料	配布資料のうち学習小テストの内容を復習・確認する。
		各コマにおける授業予定	医療と生命倫理		
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標	一人一人の疾病や健康状態を集団的な視野から分析する疫学の発展、その手法について理解する	教科書『衛生学・公衆衛生学』および配布する補助資料	配布資料のうち学習小テストの内容を復習・確認する。
		各コマにおける授業予定	疫学とその考え方		
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標	後期の課題を整理し、理解度を確認する	教科書『衛生学・公衆衛生学』および配布する補助資料	配布資料のうち学習小テストの内容を復習・確認する。
		各コマにおける授業予定	まとめ		

2026 年度 授業計画(シラバス)

学 科	柔道整復スポーツトレーナー学科		科目区分	基礎分野	授業の方法	実習
科目名	包帯固定法		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (1) 時間(単位)
対象学年	1年		学期及び曜時間	前期 月1	教室名	実技実習室1
担当教員	奥出 一貴	実務経験とその関連資格	柔道整復師免許・柔道整復師専科教員			
《授業科目における学習内容》						
座学にて固定・固定材料について理解する。 実技にて巻軸包帯の巻き戻し・基本包帯法・各部の技法を修得する。						
《成績評価の方法と基準》						
素点:100%						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
包帯固定学 改訂第2版 南江堂						
《授業外における学習方法》						
出来るだけ毎日包帯に触れ、包帯法を練習する絶対数を増やす。						
《履修に当たっての留意点》						
包帯法は柔道整復師の業務の中で固定の基本となる。 包帯法の基礎を身に付け、分からないこと・出来ないことを放置するのではなく、解決してから次のステップに進む。						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容	
第1回	実習形式	授業を通じての到達目標	固定・固定材料について理解する。	包帯固定学 改訂第2版 包帯	授業範囲の復習	
		各コマにおける授業予定	オリエンテーション 固定 固定材料の種類			
第2回	実習形式	授業を通じての到達目標	巻軸帯の巻き方と注意事項を理解する。 巻軸帯の巻き戻しを通して包帯に慣れる。	包帯固定学 改訂第2版 包帯	授業範囲の復習 巻き戻しの練習	
		各コマにおける授業予定	巻軸帯の巻き方と注意事項 巻軸帯の巻き戻し 基本包帯法			
第3回	実習形式	授業を通じての到達目標	手指部の技法を理解し、巻くことができる。	包帯固定学 改訂第2版 包帯	授業範囲の復習 巻き戻しの練習 基本包帯法の練習	
		各コマにおける授業予定	手指部の包帯(隻指帯・指ほうか帯・不全指帯)			
第4回	実習形式	授業を通じての到達目標	手指部の技法を理解し、巻くことができる。	包帯固定学 改訂第2版 包帯	授業範囲の復習 肩部の技法の練習	
		各コマにおける授業予定	手指部の包帯(全指帯・指頭ほうか帯・総指ほうか指)			
第5回	実習形式	授業を通じての到達目標	手関節部の技法を理解し、巻くことができる。	包帯固定学 改訂第2版 包帯	授業範囲の復習 の技法の練習	
		各コマにおける授業予定	手関節部の包帯(上行麦穂帯・下行麦穂帯)			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容
第6回	実習形式	授業を通じての到達目標	前腕部の技法を理解し、巻くことができる。	包帯固定学改訂第2版 包帯	授業範囲の復習 の技法の練習
		各コマにおける授業予定	前腕部の包帯(螺旋帯+折転帯)		
第7回	実習形式	授業を通じての到達目標	肘部の技法を理解し、巻くことができる。	包帯固定学改訂第2版 包帯	授業範囲の復習 の技法の練習
		各コマにおける授業予定	肘部の包帯(集合亀甲帯・離開亀甲帯)		
第8回	実習形式	授業を通じての到達目標	肩部の技法を理解し、巻くことができる。	包帯固定学改訂第2版 包帯	授業範囲の復習 の技法の練習
		各コマにおける授業予定	肩部の包帯(上行麦穂帯・下行麦穂帯)		
第9回	実習形式	授業を通じての到達目標	上肢全体の技法を理解し、巻くことができる。	包帯固定学改訂第2版 包帯	授業範囲の復習 上肢全体の技法の練習
		各コマにおける授業予定	上肢の包帯の復習		
第10回	実習形式	授業を通じての到達目標	股関節部・大腿部の技法を理解し、巻くことができる。	包帯固定学改訂第2版 包帯	授業範囲の復習 股関節部の技法の練習 大腿部の技法の練習
		各コマにおける授業予定	股関節部の包帯(上行麦穂帯・下行麦穂帯) 大腿部の包帯(螺旋帯+折転帯)		
第11回	実習形式	授業を通じての到達目標	膝関節部・下腿部の技法を理解し、巻くことができる。	包帯固定学改訂第2版 包帯	授業範囲の復習 膝関節部の技法の練習 下腿部の技法の練習
		各コマにおける授業予定	膝関節部の包帯(集合亀甲帯・離開亀甲帯) 下腿部(螺旋帯+折転帯)		
第12回	実習形式	授業を通じての到達目標	足関節部の技法を理解し、巻くことができる。	包帯固定学改訂第2版 包帯	授業範囲の復習 足関節部の技法の練習
		各コマにおける授業予定	足関節部の包帯(上行麦穂帯・下行麦穂帯・集合亀甲帯・離開亀甲帯・開き三節帯・閉じ三節帯)		
第13回	実習形式	授業を通じての到達目標	足趾部の技法を理解し、巻くことができる。	包帯固定学改訂第2版 包帯	授業範囲の復習 足趾部の技法の練習
		各コマにおける授業予定	足趾部の包帯(総指ほうか帯)		
第14回	実習形式	授業を通じての到達目標	下肢全体の技法を理解し、巻くことができる。	包帯固定学改訂第2版 包帯	授業範囲の復習 下肢全体の技法の練習
		各コマにおける授業予定	下肢の包帯の復習		
第15回	実習形式	授業を通じての到達目標	全身の技法を理解し、巻くことができる。	包帯固定学改訂第2版 包帯	授業範囲の復習 全身の技法の練習
		各コマにおける授業予定	全身の包帯の復習		

2026 年度 授業計画(シラバス)

学 科	柔道整復スポーツトレーナー学科		科目区分	基礎分野	授業の方法	実習
科目名	包帯固定法		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (1) 時間(単位)
対象学年	1年生		学期及び曜時間	後期	教室名	実技実習室2
担当教員	奥出 一貴	実務経験とその関連資格	柔道整復師、柔道整復師専科教員			
《授業科目における学習内容》						
座学にて包帯の目的、名称注意点等を覚え、実技にて基本包帯法から冠名包帯法までを身に付ける。						
《成績評価の方法と基準》						
定期試験100%						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
南江堂 包帯固定学 改訂第2版 医学書院 図解包帯法 第4版						
《授業外における学習方法》						
出来るだけ毎日包帯に触れる機会をつくり、包帯法を練習する絶対数を増やす。						
《履修に当たっての留意点》						
包帯法は柔道整復師の業務のなかで、固定の基本となる。包帯法の基礎をしっかりと身に付け、分からないこと、出来ないこと、をそのまま放置するのではなく、必ず解決してから次のステップに進む。一緒にレベルアップを目指して頑張りましょう。						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容	
第1回	実習形式	授業を通じての到達目標	オリエンテーション、足部、足関節部の包帯を巻くことができる。	包帯固定学 改訂第2版 配布プリント 包帯	前期の復習	
		各コマにおける授業予定	足部、足関節部の包帯			
第2回	実習形式	授業を通じての到達目標	下腿部、膝関節部の包帯法(亀甲帯)を巻くことができる。	包帯固定学 改訂第2版 配布プリント 包帯	自主練習	
		各コマにおける授業予定	下腿部、膝関節部の包帯			
第3回	実習形式	授業を通じての到達目標	大腿部、股関節の包帯法(上行麦穂帯)を巻くことができる。	包帯固定学 改訂第2版 配布プリント 包帯 三角巾	自主練習	
		各コマにおける授業予定	大腿部、股関節の包帯			
第4回	実習形式	授業を通じての到達目標	頭部・顔面の包帯(複頭帯、単頭帯、ヒポクラテス帽子)について巻くことができる。	包帯固定学 改訂第2版 配布プリント 包帯	自主練習	
		各コマにおける授業予定	頭部・顔面の包帯			
第5回	実習形式	授業を通じての到達目標	胸背部8字帯、晒包帯(腰部の固定)について巻くことができる。	包帯固定学 改訂第2版 配布プリント 包帯	自主練習	
		各コマにおける授業予定	胸・背8字帯、晒包帯			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	実習形式	授業を通じての到達目標	三角巾で応急処置を行うことができる	包帯固定学 改訂第2版 配布プリント 包帯、三角巾	自主練習
		各コマにおける授業予定	三角巾(止血および固定)		
第7回	実習形式	授業を通じての到達目標	冠名包帯法デゾー包帯の第1帯～第4帯を巻くことができる。	包帯固定学 改訂第2版 配布プリント 包帯	自主練習
		各コマにおける授業予定	デゾー包帯法①		
第8回	実習形式	授業を通じての到達目標	冠名包帯法デゾー包帯の第1帯～第4帯を巻くことができる。	包帯固定学 改訂第2版 配布プリント 包帯	自主練習
		各コマにおける授業予定	デゾー包帯法②		
第9回	実習形式	授業を通じての到達目標	冠名包帯法ヴェルポー包帯(患肢右側)を巻くことができる。	包帯固定学 改訂第2版 配布プリント 包帯	自主練習
		各コマにおける授業予定	ヴェルポー包帯①		
第10回	実習形式	授業を通じての到達目標	冠名包帯法ヴェルポー包帯(患肢左側)を巻くことができる。	包帯固定学 改訂第2版 配布プリント 包帯	自主練習
		各コマにおける授業予定	ヴェルポー包帯②		
第11回	実習形式	授業を通じての到達目標	冠名包帯法ジュール包帯(患肢右側)を巻くことができる。	包帯固定学 改訂第2版 配布プリント 包帯	自主練習
		各コマにおける授業予定	ジュール包帯①		
第12回	実習形式	授業を通じての到達目標	冠名包帯法ジュール包帯(患肢左側)を巻くことができる。	包帯固定学 改訂第2版 配布プリント 包帯	自主練習
		各コマにおける授業予定	ジュール包帯②		
第13回	実習形式	授業を通じての到達目標	各冠名包帯法について名前と技法が一致し、前回の授業よりも精度を高めて巻くことができる。	包帯固定学 改訂第2版 配布プリント 包帯	自主練習
		各コマにおける授業予定	デゾー、ジュール、ヴェルポー包帯の復習		
第14回	実習形式	授業を通じての到達目標	前期から後期にかけて実施した全ての包帯法の復習を行う。	包帯固定学 改訂第2版 配布プリント 包帯、三角巾	自主練習
		各コマにおける授業予定	前期、後期包帯法の復習		
第15回	実習形式	授業を通じての到達目標		包帯固定学 改訂第2版 配布プリント 包帯、三角巾	自主練習
		各コマにおける授業予定	まとめ・後期試験		

2026 年度 授業計画(シラバス)

学 科	柔道整復スポーツトレーナー		科 目 区 分	その他	授業の方法	講義
科 目 名	基礎対策講座		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	20 (1) 時間(単位)
対 象 学 年	1年生		学期及び曜時限	後期 集中	教室名	301教室
担 当 教 員	奥出 一貴、松澤 伸也 生田 晶子、松尾 起命	実務経験と その関連資格				
《授業科目における学習内容》						
解剖学・生理学・柔道整復理論における基礎内容の復習を行い、理解の定着を図るとともに、臨床および国家試験対策として重要な項目を中心に整理する。各分野の関連性を意識しながら学習することで、知識の統合と応用力の向上を目指す。						
《成績評価の方法と基準》						
<ul style="list-style-type: none"> ・出席点 ・平常点 ・レポート提出 						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
解剖学 改訂第2版 生理学 改訂第4版 柔道整復理論編 改訂第7版						
《授業外における学習方法》						
授業内容の復習および問題演習を行い、知識の定着を図るとともに、苦手分野の把握と克服に努めること。						
《履修に当たっての留意点》						
授業への積極的な参加および継続的な復習を行うこと。また、不明点は放置せず早期に解決するよう努めること。						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外の準備学習 の具体的な内容	
第1回	授業を通じての到達目標	基礎科目の重要事項を理解・整理し、関連づけて説明できるとともに、国家試験問題に対応できる基礎力を身につける。		解剖学 改訂第2版 生理学 改訂第4版 柔道整復理論編 改訂第7版	復習および問題演習により知識の定着を図る。	
	各コマにおける授業予定	解剖学・生理学・柔道整復学の問題演習・解説				
第2回	授業を通じての到達目標	基礎科目の重要事項を理解・整理し、関連づけて説明できるとともに、国家試験問題に対応できる基礎力を身につける。		解剖学 改訂第2版 生理学 改訂第4版 柔道整復理論編 改訂第7版	復習および問題演習により知識の定着を図る。	
	各コマにおける授業予定	解剖学・生理学・柔道整復学の問題演習・解説				
第3回	授業を通じての到達目標	基礎科目の重要事項を理解・整理し、関連づけて説明できるとともに、国家試験問題に対応できる基礎力を身につける。		解剖学 改訂第2版 生理学 改訂第4版 柔道整復理論編 改訂第7版	復習および問題演習により知識の定着を図る。	
	各コマにおける授業予定	解剖学・生理学・柔道整復学の問題演習・解説				
第4回	授業を通じての到達目標	基礎科目の重要事項を理解・整理し、関連づけて説明できるとともに、国家試験問題に対応できる基礎力を身につける。		解剖学 改訂第2版 生理学 改訂第4版 柔道整復理論編 改訂第7版	復習および問題演習により知識の定着を図る。	
	各コマにおける授業予定	解剖学・生理学・柔道整復学の問題演習・解説				
第5回	授業を通じての到達目標	基礎科目の重要事項を理解・整理し、関連づけて説明できるとともに、国家試験問題に対応できる基礎力を身につける。		解剖学 改訂第2版 生理学 改訂第4版 柔道整復理論編 改訂第7版	復習および問題演習により知識の定着を図る。	
	各コマにおける授業予定	解剖学・生理学・柔道整復学の問題演習・解説				

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	演習実習形式 授業を通じての到達目標	基礎科目の重要事項を理解・整理し、関連づけて説明できるとともに、国家試験問題に対応できる基礎力を身につける。		解剖学 改訂第2版 生理学 改訂第4版 柔道整復理論編 改訂第7版	復習および問題演習により知識の定着を図る。
	各コマにおける授業予定	解剖学・生理学・柔道整復学の問題演習・解説			
第7回	演習実習形式 授業を通じての到達目標	基礎科目の重要事項を理解・整理し、関連づけて説明できるとともに、国家試験問題に対応できる基礎力を身につける。		解剖学 改訂第2版 生理学 改訂第4版 柔道整復理論編 改訂第7版	復習および問題演習により知識の定着を図る。
	各コマにおける授業予定	解剖学・生理学・柔道整復学の問題演習・解説			
第8回	演習実習形式 授業を通じての到達目標	基礎科目の重要事項を理解・整理し、関連づけて説明できるとともに、国家試験問題に対応できる基礎力を身につける。		解剖学 改訂第2版 生理学 改訂第4版 柔道整復理論編 改訂第7版	復習および問題演習により知識の定着を図る。
	各コマにおける授業予定	解剖学・生理学・柔道整復学の問題演習・解説			
第9回	演習実習形式 授業を通じての到達目標	基礎科目の重要事項を理解・整理し、関連づけて説明できるとともに、国家試験問題に対応できる基礎力を身につける。		解剖学 改訂第2版 生理学 改訂第4版 柔道整復理論編 改訂第7版	復習および問題演習により知識の定着を図る。
	各コマにおける授業予定	解剖学・生理学・柔道整復学の問題演習・解説			
第10回	演習実習形式 授業を通じての到達目標	基礎科目の重要事項を理解・整理し、関連づけて説明できるとともに、国家試験問題に対応できる基礎力を身につける。		解剖学 改訂第2版 生理学 改訂第4版 柔道整復理論編 改訂第7版	復習および問題演習により知識の定着を図る。
	各コマにおける授業予定	解剖学・生理学・柔道整復学の問題演習・解説			

2026 年度 授業計画(シラバス)

学 科	柔道整復スポーツトレーナー学科		科 目 区 分	専門基礎分野	授業の方法	講義演習
科 目 名	外国語		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (2) 時間(単位)
対 象 学 年	1年		学期及び曜時間	前期	教室名	301教室
担 当 教 員	ILC講師	実務経験と その関連資格				
《授業科目における学習内容》						
医療現場での英会話を想定し、会話に必要な英語による医療用語を学び、コミュニケーションを中心とした授業を行う。最低限の日常会話能力や講義内で使用される専門用語の理解に寄与する。						
《成績評価の方法と基準》						
筆記試験70、出席評価20、平常評価10						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
教科書:「医療英語コミュニケーション」、特定非営利活動法人 医療・福祉英語検定協会						
《授業外における学習方法》						
準備学習は特に必要ありませんが、医療分野での専門用語が出てくるため、その他の基本的な単語力や文法の理解力が足りていないと、授業についていくのが難しくなってきます。必要に応じて、事前にテキストに目を通して単語を確認しておく、授業後に分からなかった箇所を再確認しておくことをおすすめします。						
《履修に当たっての留意点》						
受身の姿勢ではなく、自分から発信し、積極的な姿勢で授業に参加してください。 基礎英語を楽しく学びましょう。分からない時は遠慮せずに先生に質問してください。						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	Chapter 1 受付で対象者と基本的な英語対応ができる。	医療英語コミュニケーション	チャプター1 (pp.6-11)を事前に見ておく	
		各コマにおける授業予定	オリエンテーション 受付に必要な語彙と表現の学習			
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	Chapter 2 病院案内において医療に特化した用語を理解でき、診療科名を言えるようになる。また病案内ができるようになる。	医療英語コミュニケーション	チャプター2(pp.12-17)を事前に見ておく	
		各コマにおける授業予定	診療科名の学習			
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	Chapter 3 基本的な体の部位の名称を英語で理解し、患者の症状や痛みなどを英語で正確に聴取し情報を収集できる。	医療英語コミュニケーション	チャプター3(pp.18-20)を事前に見ておく	
		各コマにおける授業予定	体の部位、痛みの表現の学習 現在完了形を使用した期間の表現の学習			
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	Chapter 3 基本的な体の部位の名称を英語で理解し、患者の症状や痛みなどを英語で正確に聴取し情報を収集できる。	医療英語コミュニケーション	チャプター3(pp.20-21)を事前に見ておく	
		各コマにおける授業予定	体の部位、痛みの表現の学習 現在完了形を使用した期間の表現の学習			
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	Chapter 4 様々な患者の症状や痛みなどを英語で正確に聴取し情報を収集できる。	医療英語コミュニケーション	チャプター4 (pp.24-29)を事前に見ておく	
		各コマにおける授業予定	基本的な症状の表現("I have (a)..."、"I feel", "I am", "...feels...", "...hurts")の学習 症状の問診の会話の学習			

第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	Chapter 5 問診1 患者に症状、家族歴、既往歴、継続期間を尋ねる(現在完了形)	医療英語コミュニケーション	チャプター5 (pp.30-35)を事前に見ておく
		各コマにおける授業予定	問診時に使用する重要英語表現の学習		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	Chapter 6 問診2(アレルギー・生活習慣)に関する様々な英語対応がスムーズにできる。	医療英語コミュニケーション	チャプター6 (pp36-41)を事前に見ておく
		各コマにおける授業予定	生活習慣についての質問表現の学習 頻度の表現を使つての薬の処方の学習		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	Chapter 7 内科1(身体測定・診察時の表現)に関する英語対応ができる。	医療英語コミュニケーション	チャプター7(pp.42-45)を事前に見ておく
		各コマにおける授業予定	身体測定の説明に必要な表現を学習す		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	Chapter 8 内科2(バイタルサインの測定)に関する基本的な英語対応ができる。	医療英語コミュニケーション	チャプター8(pp46-49)を事前に見ておく
		各コマにおける授業予定	測定時に必要な表現を学習する。		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	Chapter 10 検査と処置 検査・処置時に関する基本的な英語対応ができる。	医療英語コミュニケーション	チャプター10(pp56-61)を事前に見ておく
		各コマにおける授業予定	血液検査の説明に必要な表現を学習する。		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標	Chaper 12 整形外科・整骨院に関連する症状・処置に必要な表現・語彙を使えるようになる。	医療英語コミュニケーション	チャプター12(pp66-71)を事前に見ておく
		各コマにおける授業予定	骨・膝関節に関する語彙の学習 整形外科での診察に必要な会話を学ぶ		
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標	Chapter13 リハビリテーションでの指示の出し方や質問ができるようになる。	医療英語コミュニケーション	チャプター13(pp72-77)を事前に見ておく
		各コマにおける授業予定	リハビリでの指示に必要な動きを表す語彙を学習する リハビリ時の会話の学習をする		
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標	Chapter14 リハビリテーション指導で必要な表現方法を学び、使えるようになる。	医療英語コミュニケーション	チャプター14(pp78-83)を事前に見ておく
		各コマにおける授業予定	装具・義肢の語彙を学ぶ 筋肉に関する語彙を学ぶ リハビリ時の会話の学習をする		
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標	Chapter18 カルテに出てくる用語・略語を学び、理解することができる。	医療英語コミュニケーション	チャプター18(pp100-104)を事前に見ておく
		各コマにおける授業予定	カルテで使用される略語と語彙を学ぶ		
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標	学期末試験の復習が自宅でもできるようになる Review	医療英語コミュニケーション	今ままで学習したチャプターと、ノートを確認しておく。
		各コマにおける授業予定	今まで学習をしたチャプターの振り返りをする。		

2026 年度 授業計画(シラバス)

学 科	柔道整復スポーツトレーナー		科目区分	基礎分野	授業の方法	講義
科目名	心理学		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (2) 時間(単位)
対象学年	1年生		学期及び曜時間	前期 水・2限	教室名	301教室
担当教員	小松 弘子	実務経験とその関連資格	児童発達支援事業所めばえ 臨床心理士 公認心理師資格			
《授業科目における学習内容》						
心理学の基礎から応用まで、柔道整復師、スポーツトレーナーの業務に生かせる知識、技法などについて理論的に学ぶ						
《成績評価の方法と基準》						
定期試験 100%						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
新しい心理学ゼミナール 基礎から応用まで						
《授業外における学習方法》						
教科書に沿って心理学を学び、心理技法及びメンタルトレーニング、スポーツ心理に関連する技法を学習する						
《履修に当たっての留意点》						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容	
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	発達の心理学	新しい心理学ゼミナール 基礎から応用まで	本読み予習	
		各コマにおける授業予定	動物と人間 人間発達のしくみ			
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	発達の心理学	新しい心理学ゼミナール 基礎から応用まで	本読み予習	
		各コマにおける授業予定	発達段階の心理学(乳児期～老年期)			
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	知覚の心理学	新しい心理学ゼミナール 基礎から応用まで	本読み予習	
		各コマにおける授業予定	知覚の成立 3次元空間の成立 錯視現象 視覚以外の知覚			
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	性格の心理学	新しい心理学ゼミナール 基礎から応用まで	本読み予習	
		各コマにおける授業予定	性格とはなにか? エゴグラムから自分を知る			
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	認知の心理学	新しい心理学ゼミナール 基礎から応用まで	本読み予習	
		各コマにおける授業予定	注意 記憶 記憶演習、実践 集中力をつけるトレーニング			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	学習の心理学	新しい心理学ゼミナール 基礎から応用まで	本読み予習
		各コマにおける授業予定	学習とは 学習の形成 ささまざまな学習		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	感情と欲求の心理学	新しい心理学ゼミナール 基礎から応用まで	本読み予習
		各コマにおける授業予定	感情 欲求 自己評価を知り他者を知る演習		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	臨床の心理学	新しい心理学ゼミナール 基礎から応用まで	本読み予習
		各コマにおける授業予定	心の仕組み 心のバランス(心の適応と不適応) 心の病		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	臨床の心理学	新しい心理学ゼミナール 基礎から応用まで	本読み予習
		各コマにおける授業予定	心の治療 心理テスト		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	社会の心理学	新しい心理学ゼミナール 基礎から応用まで	本読み予習
		各コマにおける授業予定	社会的認知 社会的自己 対人魅力		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標	社会の心理学	新しい心理学ゼミナール 基礎から応用まで	本読み予習
		各コマにおける授業予定	社会的態度 同調と服従 群集心理		
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標	犯罪の心理学	新しい心理学ゼミナール 基礎から応用まで	本読み予習
		各コマにおける授業予定	犯罪の原因と防犯 ささまざまな犯罪 非行・少年犯罪		
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標	環境の心理学	新しい心理学ゼミナール 基礎から応用まで	本読み予習
		各コマにおける授業予定	環境とは コーチングについての演習		
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標	スポーツの心理学	新しい心理学ゼミナール 基礎から応用まで	本読み予習
		各コマにおける授業予定	スポーツと動機づけ 運動学習 メンタルトレーニング		
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標	心理学の歴史	新しい心理学ゼミナール 基礎から応用まで	本読み予習
		各コマにおける授業予定	心理学は19世紀中ごろに成立した 3つの勢力の出現 日本の心理学		

2026 年度 授業計画(シラバス)

学 科	柔道整復スポーツトレーナー		科目区分	基礎分野	授業の方法	講義演習
科目名	コンピューター		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	60 (4) 時間(単位)
対象学年	1年生		学期及び曜時間	前期 水・3限	教室名	pc視聴覚室
担当教員	久安 歩	実務経験とその関連資格	高等学校教諭一種免許状(情報)			
《授業科目における学習内容》						
コンピュータ自体の操作の習熟をはかることはもちろん、ソフトウェア間の連携、コンピュータネットワーク環境の適切な利用ができることに重点を置いて実施する。これにより、在学中ならびに卒業後の情報処理スキルの向上を図る。						
《成績評価の方法と基準》						
定期試験 70% 提出物 20% 態度・発表 10%						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
FOM出版 わかるとできるMicrosoft Word・Excel・PowerPoint 2024						
《授業外における学習方法》						
自宅にあるPCを使つての復習等。						
《履修に当たつての留意点》						
Microsoft Officeの基本的な操作方法を覚える。						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容	
第1回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	Microsoft Officeとは何か。を理解する	FOM出版 わかるとできる Microsoft Word・Excel・PowerPoint 2024		
		各コマにおける授業予定	ワード、エクセル、パワーポイントの紹介。簡単な操作方法			
第2回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	文書作成ソフトを使って基本的な文書作成ができる	FOM出版 わかるとできる Microsoft Word・Excel・PowerPoint 2024		
		各コマにおける授業予定	タイピング練習。ワードの基礎的な操作方法を覚える			
第3回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	ビジネス文書を作成できる	FOM出版 わかるとできる Microsoft Word・Excel・PowerPoint 2024		
		各コマにおける授業予定	文書作成、書式設定の方法を覚える			
第4回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	グラフィック機能を利用し、表現豊かな文書を作成できる	FOM出版 わかるとできる Microsoft Word・Excel・PowerPoint 2024		
		各コマにおける授業予定	文書内に写真・イラストを挿入する方法を覚える			
第5回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	ワードでの表の作成や編集ができる	FOM出版 わかるとできる Microsoft Word・Excel・PowerPoint 2024		
		各コマにおける授業予定	文書内での表の挿入の仕方、編集の仕方を覚える			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	エクセルの基本操作ができる	FOM出版 わかるとできる Microsoft Word・Excel・PowerPoint 2024	
		各コマにおける授業予定	エクセルの画面構成、操作方法を覚える		
第7回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	四則演算、関数、絶対参照といった計算機能を使う事ができる	FOM出版 わかるとできる Microsoft Word・Excel・PowerPoint 2024	
		各コマにおける授業予定	エクセルでの表作成、関数を使った計算の方法を覚える		
第8回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	グラフの作成方法を理解し、活用できる	FOM出版 わかるとできる Microsoft Word・Excel・PowerPoint 2024	
		各コマにおける授業予定	作成した表から、適切なグラフを選び挿入することができるようになる		
第9回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	データベース機能を理解し、活用できる	FOM出版 わかるとできる Microsoft Word・Excel・PowerPoint 2024	
		各コマにおける授業予定	膨大な表から必要な情報を抽出し、抜き出すことができるようになる		
第10回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	エクセル・ワード まとめ練習問題 等	FOM出版 わかるとできる Microsoft Word・Excel・PowerPoint 2024	
		各コマにおける授業予定	ワード・エクセルでの操作のまとめ問題集		
第11回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	PowerPointの基本操作ができる グラフィック機能を活用し、表現力豊かなスライドが作成できる	FOM出版 わかるとできる Microsoft Word・Excel・PowerPoint 2024	
		各コマにおける授業予定	PowerPointを使ったスライドの作り方、基本的な操作方法を覚える		
第12回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	特殊効果を設定し、魅せるスライドの作り方を練習する	FOM出版 わかるとできる Microsoft Word・Excel・PowerPoint 2024	
		各コマにおける授業予定	ページの切り替え設定を利用し、見た目を重視したスライドを作成		
第13回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	スライド作成ができる(課題作成)	FOM出版 わかるとできる Microsoft Word・Excel・PowerPoint 2024	
		各コマにおける授業予定	与えられた課題について、自身で調べながらスライドを作成		
第14回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	与えられた課題に沿ってスライド作成、完成まで	FOM出版 わかるとできる Microsoft Word・Excel・PowerPoint 2024	
		各コマにおける授業予定	課題作成、プレゼンテーション発表		
第15回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	Microsoft Officeでの操作方法を理解し、実践で使うことができるようになる	FOM出版 わかるとできる Microsoft Word・Excel・PowerPoint 2024	
		各コマにおける授業予定	まとめと試験		

2026 年度 授業計画(シラバス)

学 科	柔道整復スポーツトレーナー学科		科 目 区 分	その他	授業の方法	講義演習
科 目 名	救急処置法		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (2) 時間(単位)
対 象 学 年	1年生		学期及び曜時間	前期 火・2限	教室名	301教室
担 当 教 員	奥出 一貴	実務経験と その関連資格	柔道整復師、柔道整復師専科教員、赤十字救急法指導員、NSCA-CPT			
《授業科目における学習内容》						
柔道整復師ならびにスポーツトレーナーにおいて必要な救急処置を現場で実践できるように理解を深めていく						
《成績評価の方法と基準》						
1. 定期試験: 70% 2. レポート: 20% 3. グループワーク中の態度・発表: 10%						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
日本体育協会 共通科目テキスト I 日本赤十字社 赤十字救急法基礎講習 日本赤十字社 赤十字救急法講習 配布プリント						
《授業外における学習方法》						
配布資料の読み込みと救急法に関心を持ち赤十字などがネット上で公開している救急法の方法について予習、復習をする。						
《履修に当たっての留意点》						
在学中の臨床実習、スポーツ現場実習において知識、技術共に最低限身に付けておかねばならない内容です。実習に参加するためにも、また、夏休み期間中に基礎講習、救急法講座が開催されるため、しっかりと内容の理解に努めてほしい。						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	応急処置の意味、トレーナーの役割、応急処置の基本的留意点等について理解できるようになる。	共通科目テキスト I 赤十字救急法基礎講習 配布プリント	トレーナーの活動について調べる。 トレーナーバックの中身について調べる。	
		各コマにおける授業予定	救急処置の基本的知識			
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	心肺蘇生法の必要性や注意点を理解し気道確保、胸骨圧迫を実践することができるようになる。	共通科目テキスト I 赤十字救急法基礎講習 配布プリント	前回までの復習。 心肺蘇生法について調べる。	
		各コマにおける授業予定	救急時の救命処置1			
第3回	演習形式	授業を通じての到達目標	AEDの使い方や注意点を理解し実践することができるようになる。人口呼吸の注意点や方法を理解し実践することができるようになる。	共通科目テキスト I 赤十字救急法基礎講習 配布プリント	AEDについて機器や使用方法について調べる。 前回内容の復習。	
		各コマにおける授業予定	救急時の救命処置2			
第4回	演習形式	授業を通じての到達目標	心肺蘇生法の一連の流れを行うことにより、実際に現場で起こった際の対応力を身に付けることができるようになる。	共通科目テキスト I 赤十字救急法基礎講習 配布プリント	心肺蘇生法について復習し、一連の流れでできるように練習しておく。	
		各コマにおける授業予定	救急時の救命処置3			
第5回	演習形式	授業を通じての到達目標	外傷と障害の違い、炎症について理解することができる。	共通科目テキスト I 赤十字救急法講習 配布プリント	上記8回分の内容の復習。 配布プリントの確認。	
		各コマにおける授業予定	外傷時の応急処置1			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	RICE処置やアイシングについて理解することができるようになる。	共通科目テキストⅠ 赤十字救急法講習 三角巾 配布プリント	三角巾に触れ感触を確認しておく。 赤十字がネットでアップしている三角巾の動画をチェックしておく。
		各コマにおける授業予定	外傷時の応急処置2		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	頭頸部・脊椎外傷時の搬送方法や体位変換について理解することができるようになる。	共通科目テキストⅠ 赤十字救急法講習 三角巾 配布プリント	三角巾のたたみ方の復習。 三角巾の本結びが完璧にできるように練習しておく。
		各コマにおける授業予定	外傷時の応急処置3		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	緊急対応計画や評価について理解できるようになる。	共通科目テキストⅠ 赤十字救急法基礎講習 配布プリント	スポーツ現場における救急処置について自身の経験を思い出す。 また、実際のスポーツ現場での救急処置について調べる。
		各コマにおける授業予定	スポーツ現場における救急処置		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	応急処置の必要性、心臓発作、脳卒中、熱中症、呼吸困難についての症状、手当について理解できるようになる。	共通科目テキストⅠ 赤十字救急法講習 配布プリント	心疾患、脳血管障害について調べておく。
		各コマにおける授業予定	内科的疾患の応急処置1		
第10回	演習形式	授業を通じての到達目標	応急処置の必要性、心臓発作、脳卒中、熱中症、呼吸困難についての症状、手当について理解できるようになる。	共通科目テキストⅠ 赤十字救急法講習 配布プリント	アナフィラシキー、食中毒、薬物中毒について調べておく。
		各コマにおける授業予定	内科的疾患の応急処置2		
第11回	演習形式	授業を通じての到達目標	低血糖、中毒、食中毒、薬物中毒、アナフィラシキーなどの症状、手当について理解できるようになる。	共通科目テキストⅠ 赤十字救急法講習 配布プリント	1つの競技を選択し、その競技中に救急処置が必要になった場合のシミュレーションを試みる。
		各コマにおける授業予定	内科的疾患の応急処置3		
第12回	演習形式	授業を通じての到達目標	救急体制の重要性と計画について理解できるようになる。	共通科目テキストⅠ 赤十字救急法講習 三角巾 配布プリント	たたみ三角巾を正確かつ迅速にできるよう練習する。 頭部の手当を練習しておく。
		各コマにおける授業予定	現場における救急体制		
第13回	演習形式	授業を通じての到達目標	三角巾を用いたたたみ方、きずの手当、提肘ができるようになる。	共通科目テキストⅠ 赤十字救急法講習 三角巾 配布プリント	鎖骨骨折や足関節捻挫について症状などを調べる。 前回までの手当についての練習を欠かさずに行う。
		各コマにおける授業予定	きずの手当		
第14回	演習形式	授業を通じての到達目標	三角巾を用いた鎖骨骨折や足関節捻挫の手当ができるようになる。	共通科目テキストⅠ 赤十字救急法講習 配布プリント	血液に関する解剖、生理について教科書を予習し、理解しておく。 止血帯止血法で用いるターニケットについて調べておく。
		各コマにおける授業予定	骨折、捻挫の手当		
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標	上記14回の内容について復習を行い、テストにてアウトプットする事により、学習内容の到達度の確認と知識の定着を目指す。	共通科目テキストⅠ 赤十字救急法基礎講習 赤十字救急法講習 配布プリント	上記14回の内容の再確認、復習をしっかりとしておく。 配布プリントの確認。
		各コマにおける授業予定	まとめ・期末試験		

2026 年度 授業計画(シラバス)

学 科	柔道整復スポーツトレーナー		科目区分	専門分野	授業の方法	講義演習
科目名	柔整応用実技Ⅱ		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (1) 時間(単位)
対象学年	1年		学期及び曜時間	後期	教室名	301教室、実技室2
担当教員	木下 和樹	実務経験と その関連資格	柔道整復師免許 柔道整復師専科教員資格 理学療法士			
《授業科目における学習内容》						
臨床実習を行うにあたって必要となる医療面接法、体表観察法、評価・測定 of 修得を目指す						
《成績評価の方法と基準》						
定期試験						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
臨床実習ガイドライン 柔道整復師学理論編・実技編 解剖学						
《授業外における学習方法》						
身体部位の触診、身体計測、ROM、MMT、等の予習、復習を行う						
《履修に当たっての留意点》						
臨床実習においても必ず必要となる実技である。また国家試験や柔道整復師業務において重要科目である						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第1回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	臨床実習について理解する	柔道整復師学理論編改定版7版	授業範囲本読み予習復習	
		各コマにおける授業予定	講義ガイダンス・オリエンテーション			
第2回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	医療面接について理解する	柔道整復師学理論編改定版7版	授業範囲本読み予習復習	
		各コマにおける授業予定	医療面接 言葉使い、問診、接遇、視診			
第3回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	主要な骨、筋を触知できる	柔道整復師学理論編改定版7版	授業範囲本読み予習復習	
		各コマにおける授業予定	主要な骨と筋の触知			
第4回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	身体計測、バイタルサインができる	柔道整復師学理論編改定版7版	授業範囲本読み予習復習	
		各コマにおける授業予定	血圧測定、四肢長、四肢周径			
第5回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	ROM測定ができる	柔道整復師学理論編改定版7版	授業範囲本読み予習復習	
		各コマにおける授業予定	肩、肘、手、股、膝、足関節			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	ROM測定ができる	柔道整復師学理論編改定版7版	授業範囲本読み予習復習
		各コマにおける授業予定	肩、肘、手、股、膝、足関節		
第7回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	MMTができるようになる	柔道整復師学理論編改定版7版	授業範囲本読み予習復習
		各コマにおける授業予定	肩、肘、手、股、膝、足関節		
第8回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	MMTができるようになる	柔道整復師学理論編改定版7版	授業範囲本読み予習復習
		各コマにおける授業予定	肩、肘、手、股、膝、足関節		
第9回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	整形外科的テストができるようになる	柔道整復師学理論編改定版7版	授業範囲本読み予習復習
		各コマにおける授業予定	頸部・上肢		
第10回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	整形外科的テストができるようになる	柔道整復師学理論編改定版7版	授業範囲本読み予習復習
		各コマにおける授業予定	下肢		
第11回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	反射検査ができるようになる	柔道整復師学理論編改定版7版	授業範囲本読み予習復習
		各コマにおける授業予定	深部反射、表在反射		
第12回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	感覚検査・運動機能検査ができるようになる	柔道整復師学理論編改定版7版	授業範囲本読み予習復習
		各コマにおける授業予定	表在・深部感覚、上肢・下肢・体幹の機能検査		
第13回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	実技総復習	柔道整復師学理論編改定版7版	授業範囲本読み予習復習
		各コマにおける授業予定	これまでに行った実技を行う		
第14回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	実技を行う	柔道整復師学理論編改定版7版	授業範囲本読み予習復習
		各コマにおける授業予定	実技試験		
第15回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	再復習をおこない疑問点などを解消する	柔道整復師学理論編改定版7版	授業範囲本読み予習復習
		各コマにおける授業予定	授業総復習		

2026 年度 授業計画(シラバス)

学 科	柔道整復スポーツトレーナー		科目区分	専門分野	授業の方法	講義
科目名	柔道整復学・各論 I		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (2) 時間(単位)
対象学年	1年生		学期及び曜時間	後期	教室名	301教室
担当教員	松尾 起命	実務経験と その関連資格	柔道整復師、柔道整復師専科教員 NSCA-CPT、赤十字救急法指導員			
《授業科目における学習内容》						
柔道整復学の上肢の骨折脱臼軟部組織損傷について学ぶ						
《成績評価の方法と基準》						
定期試験100%						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
柔道整復学・理論編改訂第7版、解剖学改訂第2版、配布プリント						
《授業外における学習方法》						
教科書に沿って本読み、配布プリントの復習、まとめ						
《履修に当たっての留意点》						
基礎となる解剖学を理解すること、本読みを行い教科書の記載内容を理解すること						
授業の 方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	鎖骨骨折に関係する骨・筋や総論 I での骨折の分類等を見直し理解する	柔道整復学・理論編改訂第7版、解剖学改訂第2版	授業範囲本読み予習復習	
		各コマにおける授業予定	鎖骨部の損傷A機能と解剖 B鎖骨骨折			
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	肩関節部の解剖と機能を理解する	柔道整復学・理論編改訂第7版、解剖学改訂第2版	授業範囲本読み予習復習	
		各コマにおける授業予定	A解剖と機能B肩甲骨の骨折の肩甲骨体部骨折上角下角骨折			
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	肩甲骨骨折について理解する	柔道整復学・理論編改訂第7版、解剖学改訂第2版	授業範囲本読み予習復習	
		各コマにおける授業予定	関節窩骨折、頸部骨折、肩峰骨折、烏口突起骨折			
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	肩関節部の解剖と機能を理解する	柔道整復学・理論編改訂第6版、柔道整復学・実技編改訂第2版、解剖学改訂第2版	授業範囲本読み予習復習	
		各コマにおける授業予定	骨頭骨折、解剖頸骨折、外科頸骨折			
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	上腕骨近位部骨折について学ぶ	柔道整復学・理論編改訂第7版、解剖学改訂第2版	授業範囲本読み予習復習	
		各コマにおける授業予定	外科頸骨折			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	上腕骨近位部骨折を理解する	柔道整復学・理論編改訂第7版、解剖学改訂第2版	授業範囲本読み予習復習
		各コマにおける授業予定	大結節骨折、小結節骨折、近位骨端線離開		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	上腕骨近位部骨折について学ぶ	柔道整復学・理論編改訂第7版、解剖学改訂第2版	授業範囲本読み予習復習
		各コマにおける授業予定	A解剖と機能B上腕部遠位部の骨折 顆上骨折		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	上腕骨近位部骨折を理解する	柔道整復学・理論編改訂第7版、解剖学改訂第2版	授業範囲本読み予習復習
		各コマにおける授業予定	外顆骨折、内側上顆骨折		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	鎖骨脱臼について理解する	柔道整復学・理論編改訂第7版、解剖学改訂第2版	授業範囲本読み予習復習
		各コマにおける授業予定	C鎖骨脱臼 胸鎖関節前方脱臼		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	鎖骨脱臼について理解する	柔道整復学・理論編改訂第6版、柔道整復学・実技編改訂第2版、解剖学改訂第2版	授業範囲本読み予習復習
		各コマにおける授業予定	肩鎖関節脱臼、注意すべき疾患		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標	肩関節部の解剖と機能を理解する、肩関節脱臼について学ぶ	柔道整復学・理論編改訂第7版、解剖学改訂第2版	授業範囲本読み予習復習
		各コマにおける授業予定	肩関節前方脱臼、肩関節後方脱臼		
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標	肩関節脱臼について理解する	柔道整復学・理論編改訂第7版、解剖学改訂第2版	授業範囲本読み予習復習
		各コマにおける授業予定	肩関節下方脱臼、肩関節上方脱臼、反復性肩関節脱臼		
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標	肩関節の軟部組織損傷の解剖と機能について理解する	柔道整復学・理論編改訂第7版、解剖学改訂第2版	授業範囲本読み予習復習
		各コマにおける授業予定	筋腱の損傷、スポーツ損傷、不安定性、その他の疾患		
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標	前腕部近位部の骨折について理解する	柔道整復学・理論編改訂第7版、解剖学改訂第2版	授業範囲本読み予習復習
		各コマにおける授業予定	橈骨近位端部骨折、肘頭骨折		
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標	肘関節の脱臼について理解する	柔道整復学・理論編改訂第7版、解剖学改訂第2版	授業範囲本読み予習復習
		各コマにおける授業予定	前腕両骨脱臼、橈骨頭単独脱臼		

2026 年度 授業計画(シラバス)

学 科	柔道整復スポーツトレーナー		科目区分	専門分野	授業の方法	講義
科目名	柔道整復学・各論 I		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (2) 時間(単位)
対象学年	1年生		学期及び曜時間	後期	教室名	301教室
担当教員	松尾 起命	実務経験と その関連資格	柔道整復師、柔道整復師専科教員 NSCA-CPT、赤十字救急法指導員			
《授業科目における学習内容》						
柔道整復学の上肢の骨折脱臼軟部組織損傷について学ぶ						
《成績評価の方法と基準》						
定期試験100%						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
柔道整復学・理論編改訂第7版、解剖学改訂第2版、配布プリント						
《授業外における学習方法》						
教科書に沿って本読み、配布プリントの復習、まとめ						
《履修に当たっての留意点》						
基礎となる解剖学を理解すること、本読みを行い教科書の記載内容を理解すること						
授業の 方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第 16 回	講義 形式	授業を 通じての 到達目標	肘関節の脱臼、肘関節部の軟部組織損傷について理解する	柔道整復学・理 論編改訂第7版、 解剖学改訂第2 版	授業範囲本読み予習復 習	
		各コマに おける 授業予定	肘内障、肘関節部の靭帯損傷、野球肘			
第 17 回	講義 形式	授業を 通じての 到達目標	肘関節部の軟部組織損傷について理解する	柔道整復学・理 論編改訂第7版、 解剖学改訂第2 版	授業範囲本読み予習復 習	
		各コマに おける 授業予定	テニス肘、その他の疾患、注意すべき疾患			
第 18 回	講義 形式	授業を 通じての 到達目標	前腕部の損傷について理解する	柔道整復学・理 論編改訂第7版、 解剖学改訂第2 版	授業範囲本読み予習復 習	
		各コマに おける 授業予定	解剖と機能、前腕骨・骨幹部骨折、橈骨・骨幹部骨折			
第 19 回	講義 形式	授業を 通じての 到達目標	前腕部の損傷について理解する	柔道整復学・理 論編改訂第7版、 解剖学改訂第2 版	授業範囲本読み予習復 習	
		各コマに おける 授業予定	ガレアジ骨折、尺骨・骨幹部骨折			
第 20 回	講義 形式	授業を 通じての 到達目標	前腕部の損傷について理解する	柔道整復学・理 論編改訂第7版、 解剖学改訂第2 版	授業範囲本読み予習復 習	
		各コマに おける 授業予定	モンテギア骨折、橈尺両骨・骨幹部骨折			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第21回	講義形式	授業を通じての到達目標	前腕部の軟部組織損傷について理解する	柔道整復学・理論編改訂第7版、解剖学改訂第2版	授業範囲本読み予習復習
		各コマにおける授業予定	前腕コンパートメント症候群、腱交叉症候群		
第22回	講義形式	授業を通じての到達目標	前腕部の軟部組織損傷について理解する	柔道整復学・理論編改訂第7版、解剖学改訂第2版	授業範囲本読み予習復習
		各コマにおける授業予定	末梢神経障害		
第23回	講義形式	授業を通じての到達目標	手関節部の損傷について理解する	柔道整復学・理論編改訂第7版、解剖学改訂第2版	授業範囲本読み予習復習
		各コマにおける授業予定	解剖と機能、前腕骨遠位端部骨折		
第24回	講義形式	授業を通じての到達目標	手根骨部の骨折について理解する	柔道整復学・理論編改訂第7版、解剖学改訂第2版	授業範囲本読み予習復習
		各コマにおける授業予定	舟状骨骨折		
第25回	講義形式	授業を通じての到達目標	手根骨部の骨折について理解する	柔道整復学・理論編改訂第7版、解剖学改訂第2版	授業範囲本読み予習復習
		各コマにおける授業予定	三角骨骨折、有鉤骨骨折		
第26回	講義形式	授業を通じての到達目標	手関節部の損傷について理解する	柔道整復学・理論編改訂第7版、解剖学改訂第2版	授業範囲本読み予習復習
		各コマにおける授業予定	豆状骨骨折、その他の手根骨骨折		
第27回	講義形式	授業を通じての到達目標	手関節部の脱臼について理解する	柔道整復学・理論編改訂第7版、解剖学改訂第2版	授業範囲本読み予習復習
		各コマにおける授業予定	遠位橈尺関節脱臼		
第28回	講義形式	授業を通じての到達目標	手関節部の脱臼について理解する	柔道整復学・理論編改訂第7版、解剖学改訂第2版	授業範囲本読み予習復習
		各コマにおける授業予定	橈骨手根関節脱臼、月状骨脱臼および月状骨周囲脱臼		
第29回	講義形式	授業を通じての到達目標	総復習、苦手なポイント等理解する	柔道整復学・理論編改訂第7版、解剖学改訂第2版	授業範囲本読み予習復習
		各コマにおける授業予定	まとめ		
第30回	講義形式	授業を通じての到達目標	総復習、苦手なポイント等理解する	柔道整復学・理論編改訂第7版、解剖学改訂第2版	授業範囲本読み予習復習
		各コマにおける授業予定	まとめ		

2026 年度 授業計画(シラバス)

学 科	柔道整復スポーツトレーナー学科		科 目 区 分	専門分野	授業の方法	講義
科 目 名	柔道整復学・各論Ⅱ		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	60 (4) 時間(単位)
対 象 学 年	1年生		学期及び曜時限	後期	教室名	302教室
担 当 教 員	松澤 伸也	実務経験と その関連資格	柔道整復師 専科教員資格			
<p>《授業科目における学習内容》</p> <p>四肢の損傷はスポーツ傷害に発生する事が多く、膝関節や足関節はスポーツ傷害に限らず多くの年齢で損傷が発生する。また、大腿部はスポーツ等での損傷がみられる。それらの損傷を知ることにより、柔道整復師として、適切な整復法、固定法、後療法を施術することができるようになることを目標とする。また、運動器を理解するためには、機能解剖を学ぶことが必須である。関節の構造と機能を理解することで、自ら思考する力を身につける。</p>						
<p>《成績評価の方法と基準》</p> <p>定期試験、小テスト、レポート等で評価する。</p>						
<p>《使用教材(教科書)及び参考図書》</p> <p>教科書 ・「柔道整復学・理論編 改訂第6版」 全国柔道整復学校協会・教科書委員会編・南江堂 ・「柔道整復学・実技編 改訂第2版」 全国柔道整復学校協会・教科書委員会編・南江堂</p>						
<p>《授業外における学習方法》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・予習について、次回授業に該当する範囲を必ず一読し、授業に臨むようにする。 ・復習について、講義でやった内容のノートを確認してから次の講義に臨むようにする。 						
<p>《履修に当たっての留意点》</p> <p>欠課により、休んだ回の内容が完全に無い形で進行するため、欠課がないように気をつける。</p>						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	下肢の機能解剖について理解する。	「柔道整復学・理論編」 「柔道整復学・実技編」	下肢の骨、筋などの解剖学の復習、教科書の読み、	
		各コマにおける授業予定	上肢と下肢の役割の違いからくる構造上の違い、特徴など			
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	骨盤部の損傷について理解する。	「柔道整復学・理論編」 「柔道整復学・実技編」	下肢の骨、筋などの解剖学の復習、教科書の読み、以前の復習	
		各コマにおける授業予定	骨盤骨骨折、注意すべき疾患			
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	骨盤部の損傷について理解する。	「柔道整復学・理論編」 「柔道整復学・実技編」	下肢の骨、筋などの解剖学の復習、教科書の読み、以前の復習	
		各コマにおける授業予定	骨盤骨骨折、注意すべき疾患			
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	股関節部の損傷について理解する。	「柔道整復学・理論編」 「柔道整復学・実技編」	下肢の骨、筋などの解剖学の復習、教科書の読み、以前の復習	
		各コマにおける授業予定	大腿骨近位端部骨折			
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	股関節部の損傷について理解する。	「柔道整復学・理論編」 「柔道整復学・実技編」	下肢の骨、筋などの解剖学の復習、教科書の読み、以前の復習	
		各コマにおける授業予定	大腿骨近位端部骨折			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	股関節部の損傷について理解する。	「柔道整復学・理論編」 「柔道整復学・実技編」	下肢の骨、筋などの解剖学の復習、教科書の読み、以前の復習
		各コマにおける授業予定	大腿骨近位端部骨折		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	大腿部の損傷について理解する。	「柔道整復学・理論編」 「柔道整復学・実技編」	下肢の骨、筋などの解剖学の復習、教科書の読み、以前の復習
		各コマにおける授業予定	大腿骨骨幹部骨折		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	大腿部の損傷について理解する。	「柔道整復学・理論編」 「柔道整復学・実技編」	下肢の骨、筋などの解剖学の復習、教科書の読み、以前の復習
		各コマにおける授業予定	大腿骨骨幹部骨折		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	膝関節の損傷について理解する。	「柔道整復学・理論編」 「柔道整復学・実技編」	下肢の骨、筋などの解剖学の復習、教科書の読み、以前の復習
		各コマにおける授業予定	膝関節の機能解剖、大腿骨遠位端部骨折		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	膝関節の損傷について理解する。	「柔道整復学・理論編」 「柔道整復学・実技編」	下肢の骨、筋などの解剖学の復習、教科書の読み、以前の復習
		各コマにおける授業予定	膝関節の機能解剖		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標	膝関節の損傷について理解する。	「柔道整復学・理論編」 「柔道整復学・実技編」	下肢の骨、筋などの解剖学の復習、教科書の読み、以前の復習
		各コマにおける授業予定	大腿骨遠位端部骨折、膝蓋骨骨折、下腿骨近位端部骨折		
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標	膝関節の損傷について理解する。	「柔道整復学・理論編」 「柔道整復学・実技編」	下肢の骨、筋などの解剖学の復習、教科書の読み、以前の復習
		各コマにおける授業予定	大腿骨遠位端部骨折、膝蓋骨骨折、下腿骨近位端部骨折		
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標	下腿部の損傷について理解する。	「柔道整復学・理論編」 「柔道整復学・実技編」	下肢の骨、筋などの解剖学の復習、教科書の読み、以前の復習
		各コマにおける授業予定	下腿骨骨幹部骨折		
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標	下腿部の損傷について理解する。	「柔道整復学・理論編」 「柔道整復学・実技編」	下肢の骨、筋などの解剖学の復習、教科書の読み、以前の復習
		各コマにおける授業予定	下腿骨骨幹部骨折		
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標	まとめ	「柔道整復学・理論編」 「柔道整復学・実技編」	下肢の骨、筋などの解剖学の復習、教科書の読み、以前の復習
		各コマにおける授業予定	試験対策		

2026 年度 授業計画(シラバス)

学 科	柔道整復スポーツトレーナー		科目区分	専門分野	授業の方法	講義
科目名	柔道整復学総論		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	60 (4) 時間(単位)
対象学年	1年		学期及び曜時限	前期 金・1限	教室名	303
担当教員	池上直樹	実務経験と その関連資 格	柔道整復師 柔道整復師専科教員 鍼灸整骨院開業			
《授業科目における学習内容》						
柔道整復師の歴史的背景に学びさらに業務などの沿革について免許制度や法制度がどのように確立されていったか見識を深める。また柔道整復師の施術対象である骨折、捻挫、脱臼、挫傷、打撲、軟部組織損傷、神経系損傷について理論的に広く学び、柔道整復師の業務にどのように役立つか考える。						
《成績評価の方法と基準》						
定期試験100%						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
柔道整復学・理論編 改訂版7版 運動療法に役立つ単純X線像の読み方。体幹と骨盤の評価 グレイ解剖学 運動療法の為の機能解剖学 AI生成によるイメージ図						
《授業外における学習方法》						
インターネットを使つてのアプローチ 座学以外にも体験、イメージできるように自ら動ける、動かす体験をさせる。						
《履修に当たっての留意点》						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容	
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	関節軟骨の治癒機序について、なぜ修復が困難なのかを理解する。	柔道整復学理論編 改訂版7版	授業範囲本読み予習、復習、インターネット利用の講義によりイメージさせる。他の業種の治療家の本などやネットでの学習セミナーが主となっています。	
		各コマにおける授業予定	関節損傷の分類と症状(発生頻度、分類、症状、合併症、軟骨の治癒機序、関節部に分布あるいは通過する神経・血管)			
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	脱臼とはどのようなものかその発生頻度や分類について学ぶ	柔道整復学理論編 改訂版7版	授業範囲本読み予習、復習、インターネット利用の講義によりイメージさせる。他の業種の治療家の本などやネットでの学習セミナーが主となっています。	
		各コマにおける授業予定	脱臼の定義と概説、発生頻度、分類			
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	脱臼の分類について学ぶ	柔道整復学理論編 改訂版7版	授業範囲本読み予習、復習、インターネット利用の講義によりイメージさせる。他の業種の治療家の本などやネットでの学習セミナーが主となっています。	
		各コマにおける授業予定	脱臼の分類(脱臼の頻度と機序による分類)			
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	脱臼の症状について理解を深める。	柔道整復学理論編 改訂版7版	授業範囲本読み予習、復習、インターネット利用の講義によりイメージさせる。他の業種の治療家の本などやネットでの学習セミナーが主となっています。	
		各コマにおける授業予定	脱臼の症状、脱臼の合併症、脱臼の整復障害			
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	脱臼の予後について学ぶ。筋の構造について細胞レベルから理解する。	柔道整復学理論編 改訂版7版	授業範囲本読み予習、復習、インターネット利用の講義によりイメージさせる。他の業種の治療家の本などやネットでの学習セミナーが主となっています。	
		各コマにおける授業予定	脱臼の経過と予後、筋の損傷(筋の構造と機能)			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	筋にまつわる補助装置や筋繊維の種類について学ぶ	柔道整復学理論編 改訂版7版	授業範囲本読み予習、復習、インターネット利用の講義によりイメージさせる。他の業種の治療家の本などやネットでの学習セミナーが主となっています。
		各コマにおける授業予定	筋繊維の種類、筋の脈管神経、筋の補助装置、筋の損傷を起こす力		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	筋損傷の程度や損傷の種類について学ぶ	柔道整復学理論編 改訂版7版	授業範囲本読み予習、復習、インターネット利用の講義によりイメージさせる。他の業種の治療家の本などやネットでの学習セミナーが主となっています。
		各コマにおける授業予定	筋の性状による分類、筋損傷の程度による分類、筋間損傷と筋内損傷		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	筋損傷の症状について学ぶ	柔道整復学理論編 改訂版7版	授業範囲本読み予習、復習、インターネット利用の講義によりイメージさせる。他の業種の治療家の本などやネットでの学習セミナーが主となっています。
		各コマにおける授業予定	筋の外力の働いた部位による分類、外力の働き方による分類、筋損傷の症状		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	腱の構造と機能について学ぶ	柔道整復学理論編 改訂版7版	授業範囲本読み予習、復習、インターネット利用の講義によりイメージさせる。他の業種の治療家の本などやネットでの学習セミナーが主となっています。
		各コマにおける授業予定	筋損傷の治癒機序、筋損傷の予後、腱の構造と機能		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	腱の損傷について外力や分類について学ぶ	柔道整復学理論編 改訂版7版	授業範囲本読み予習、復習、インターネット利用の講義によりイメージさせる。他の業種の治療家の本などやネットでの学習セミナーが主となっています。
		各コマにおける授業予定	腱の性質上の分類、腱損傷の程度による分類、腱損傷の程度による分類、腱損傷の部位による分類、外力の働いた部位による分類		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標	腱損傷の治癒機序について学ぶ。末梢神経の構造とについて細胞レベルから学ぶ。	柔道整復学理論編 改訂版7版	授業範囲本読み予習、復習、インターネット利用の講義によりイメージさせる。他の業種の治療家の本などやネットでの学習セミナーが主となっています。
		各コマにおける授業予定	腱損傷の症状、腱損傷の治癒機序、末梢神経の構造と機能		
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標	神経損傷の外力、原因、程度について学ぶ	柔道整復学理論編 改訂版7版	授業範囲本読み予習、復習、インターネット利用の講義によりイメージさせる。他の業種の治療家の本などやネットでの学習セミナーが主となっています。
		各コマにおける授業予定	末梢神経損傷を起こす力、神経障害の原因による分類、末梢神経の程度による分類。		
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標	末梢神経、中枢神経の症状なども比較しながら学ぶ。	柔道整復学理論編 改訂版7版	授業範囲本読み予習、復習、インターネット利用の講義によりイメージさせる。他の業種の治療家の本などやネットでの学習セミナーが主となっています。
		各コマにおける授業予定	末梢神経損傷の外力の働き方による分類、末梢神経の症状。		
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標	末梢神経治癒機序についてワラー変性などを交えながら理解する。	柔道整復学理論編 改訂版7版	授業範囲本読み予習、復習、インターネット利用の講義によりイメージさせる。他の業種の治療家の本などやネットでの学習セミナーが主となっています。
		各コマにおける授業予定	末梢神経の治癒機序、総復習		
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標	今で学んだことの中で重要なもののアウトプット。	柔道整復学理論編 改訂版7版	授業範囲本読み予習、復習、インターネット利用の講義によりイメージさせる。他の業種の治療家の本などやネットでの学習セミナーが主となっています。
		各コマにおける授業予定	総復習。		

2026 年度 授業計画(シラバス)

学 科	柔道整復スポーツトレーナー学科		科 目 区 分	専門分野	授業の方法	講義
科 目 名	柔道整復学基礎 I		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (2) 時間(単位)
対 象 学 年	1年		学期及び曜時限	通年 水曜	教室名	301
担 当 教 員	松澤 伸也	実務経験と その関連資格	柔道整復師 柔道整復師専科教員			
《授業科目における学習内容》						
柔道整復における外傷、障害の理解を進めるために、柔道整復学と基礎医学(解剖学、生理学、運動学、栄養学など)、スポーツ科学(コンディショニング、トレーニングなど)について、横断的に学習を進める。						
《成績評価の方法と基準》						
期末試験及び小テスト、レポート等で判定する。						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
柔道整復学理論編、解剖学、生理学、運動学、健康運動実践指導者養成テキスト、トレーニング指導者養成テキスト、授業資料など						
《授業外における学習方法》						
各内容の講義の復習、資料整理など						
《履修に当たっての留意点》						
復習をしっかりとしておく。						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第1回	講義 演習形式	授業を 通じての 到達目標	講義概要が理解できる。	PC、教科書、資 料など	各科目の復習	
		各コマに おける 授業予定	オリエンテーション、講義内課題(ワーク)			
第2回	講義 演習形式	授業を 通じての 到達目標	資格試験合格に向けた自己の理解度、到達度がわかる。	PC、教科書、資 料など	各科目の復習	
		各コマに おける 授業予定	小テスト、講義内課題(ワーク)			
第3回	講義 演習形式	授業を 通じての 到達目標	資格試験合格に向けた自己の理解度、到達度がわかる。	PC、教科書、資 料など	各科目の復習	
		各コマに おける 授業予定	小テスト、講義内課題(ワーク)			
第4回	講義 演習形式	授業を 通じての 到達目標	資格試験合格に向けた自己の理解度、到達度がわかる。	PC、教科書、資 料など	各科目の復習	
		各コマに おける 授業予定	小テスト、講義内課題(ワーク)			
第5回	講義 演習形式	授業を 通じての 到達目標	資格試験合格に向けた自己の理解度、到達度がわかる。	PC、教科書、資 料など	各科目の復習	
		各コマに おける 授業予定	小テスト、講義内課題(ワーク)			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容
第6回	講義 演習形式	授業を 通じての 到達目標	資格試験合格に向けた自己の理解度、到達度がわかる。	PC、教科書、資 料など	各科目の復習
		各コマに おける 授業予定	小テスト、講義内課題(ワーク)		
第7回	講義 演習形式	授業を 通じての 到達目標	資格試験合格に向けた自己の理解度、到達度がわかる。	PC、教科書、資 料など	各科目の復習
		各コマに おける 授業予定	小テスト、講義内課題(ワーク)		
第8回	講義 演習形式	授業を 通じての 到達目標	資格試験合格に向けた自己の理解度、到達度がわかる。	PC、教科書、資 料など	各科目の復習
		各コマに おける 授業予定	小テスト、講義内課題(ワーク)		
第9回	講義 演習形式	授業を 通じての 到達目標	資格試験合格に向けた自己の理解度、到達度がわかる。	PC、教科書、資 料など	各科目の復習
		各コマに おける 授業予定	小テスト、講義内課題(ワーク)		
第10回	講義 演習形式	授業を 通じての 到達目標	資格試験合格に向けた自己の理解度、到達度がわかる。	PC、教科書、資 料など	各科目の復習
		各コマに おける 授業予定	小テスト、講義内課題(ワーク)		
第11回	講義 演習形式	授業を 通じての 到達目標	資格試験合格に向けた自己の理解度、到達度がわかる。	PC、教科書、資 料など	各科目の復習
		各コマに おける 授業予定	小テスト、講義内課題(ワーク)		
第12回	講義 演習形式	授業を 通じての 到達目標	資格試験合格に向けた自己の理解度、到達度がわかる。	PC、教科書、資 料など	各科目の復習
		各コマに おける 授業予定	小テスト、講義内課題(ワーク)		
第13回	講義 演習形式	授業を 通じての 到達目標	資格試験合格に向けた自己の理解度、到達度がわかる。	PC、教科書、資 料など	各科目の復習
		各コマに おける 授業予定	小テスト、講義内課題(ワーク)		
第14回	講義 演習形式	授業を 通じての 到達目標	資格試験合格に向けた自己の理解度、到達度がわかる。	PC、教科書、資 料など	各科目の復習
		各コマに おける 授業予定	小テスト、講義内課題(ワーク)		
第15回	講義 演習形式	授業を 通じての 到達目標	資格試験合格に向けた自己の理解度、到達度がわかる。	PC、教科書、資 料など	各科目の復習
		各コマに おける 授業予定	小テスト、講義内課題(ワーク)		

2026 年度 授業計画(シラバス)

学 科	柔道整復スポーツトレーナー学科		科 目 区 分	専門分野	授業の方法	講義演習
科 目 名	柔道整復演習Ⅳ		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	150 (10) 時間(単位)
対 象 学 年	1年		学期及び曜時間	通年	教室名	301
担 当 教 員	松澤 伸也	実務経験と その関連資格	柔道整復師免許・柔道整復師専科教員			
《授業科目における学習内容》						
研究に必要な基礎知識や研究方法などを学び、指導教員とディスカッションを交えて行う。論文の意義やエビデンスについて理解した上で研究の進め方、組立て、研究デザイン、データの収集、解析法を学んでいく。						
《成績評価の方法と基準》						
出席及び課題の提出物、ディスカッションへの参加、論文の作成状況などを総合的に評価する。						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
配布資料						
《授業外における学習方法》						
授業時間外での情報収集などが必要となるので、図書館を利用して情報を収集出来るようにする。						
《履修に当たっての留意点》						
データの解析には、統計処理が必要となり、また、発表にはスライドの作成技術が必要となる。						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第1回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	医学・スポーツ科学研究について理解することが出来るようになる	資料の配布	特記事項無し	
	各コマにおける授業予定	オリエンテーション・研究とは				
第2回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	論文の構成について理解することができるようになる。	資料の配布	特記事項無し	
	各コマにおける授業予定	論文の意義、構成、読み方について 講義ワーク				
第3回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	論文の構成について理解することができるようになる。	資料の配布	特記事項無し	
	各コマにおける授業予定	論文の意義、構成、読み方について 講義ワーク				
第4回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	論文の構成について理解することができるようになる。	資料の配布	特記事項無し	
	各コマにおける授業予定	論文の意義、構成、読み方について 講義ワーク				
第5回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	論文の構成について理解することができるようになる。	資料の配布	特記事項無し	
	各コマにおける授業予定	論文の意義、構成、読み方について 講義ワーク				

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	論文の構成について理解することができるようになる。	資料の配布	特記事項無し
		各コマにおける授業予定	論文の意義、構成、読み方について講義ワーク		
第7回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	論文の構成について理解することができるようになる。	資料の配布	特記事項無し
		各コマにおける授業予定	論文の意義、構成、読み方について講義ワーク		
第8回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	論文の構成について理解することができるようになる。	資料の配布	特記事項無し
		各コマにおける授業予定	論文の意義、構成、読み方について講義ワーク		
第9回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	論文の構成について理解することができるようになる。	資料の配布	特記事項無し
		各コマにおける授業予定	論文の意義、構成、読み方について講義ワーク		
第10回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	論文の構成について理解することができるようになる。	資料の配布	特記事項無し
		各コマにおける授業予定	論文の意義、構成、読み方について講義ワーク		
第11回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	論文の構成について理解することができるようになる。	資料の配布	特記事項無し
		各コマにおける授業予定	論文の内容を説明する講義ワーク		
第12回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	論文の構成について理解することができるようになる。	資料の配布	特記事項無し
		各コマにおける授業予定	論文の内容を説明する講義ワーク		
第13回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	論文の構成について理解することができるようになる。	資料の配布	特記事項無し
		各コマにおける授業予定	論文の内容を説明する講義ワーク		
第14回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	論文の構成について理解することができるようになる。	資料の配布	特記事項無し
		各コマにおける授業予定	論文の内容を説明する講義ワーク		
第15回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	論文の構成について理解することができるようになる。	資料の配布	特記事項無し
		各コマにおける授業予定	論文の内容を説明する講義ワーク		

2026 年度 授業計画(シラバス)

学 科	柔道整復スポーツトレーナー学科		科 目 区 分	専門分野	授業の方法	講義演習
科 目 名	柔道整復演習IV		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	150 (10) 時間(単位)
対 象 学 年	1年		学期及び曜時限	通年	教室名	301
担 当 教 員	松澤 伸也	実務経験と その関連資格	柔道整復師免許・柔道整復師専科教員			
《授業科目における学習内容》						
研究に必要な基礎知識や研究方法などを学び、指導教員とディスカッションを交えて行う。論文の意義やエビデンスについてを理解した上で研究の進め方、組立て、研究デザイン、データの収集、解析法を学んでいく。						
《成績評価の方法と基準》						
出席及び課題の提出物、ディスカッションへの参加、論文の作成状況などを総合的に評価する。						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
配布資料						
《授業外における学習方法》						
授業時間外での情報収集などが必要となるので、図書館を利用して情報を収集出来るようにする。						
《履修に当たっての留意点》						
データの解析には、統計処理が必要となり、また、発表にはスライドの作成技術が必要となる。						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第16回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	論文の構成について理解することができるようになる。	資料の配布	特記事項無し	
	各コマにおける授業予定	論文の内容を説明する 講義ワーク				
第17回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	論文の構成について理解することができるようになる。	資料の配布	特記事項無し	
	各コマにおける授業予定	論文の内容を説明する 講義ワーク				
第18回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	論文の構成について理解することができるようになる。	資料の配布	特記事項無し	
	各コマにおける授業予定	論文の内容を説明する 講義ワーク				
第19回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	論文の構成について理解することができるようになる。	資料の配布	特記事項無し	
	各コマにおける授業予定	論文の内容を説明する 講義ワーク				
第20回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	論文の構成について理解することができるようになる。	資料の配布	特記事項無し	
	各コマにおける授業予定	論文の内容を説明する 講義ワーク				

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第21回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	論文の構成について理解することができるようになる。	資料の配布	特記事項無し
		各コマにおける授業予定	論文の内容を説明する 講義ワーク		
第22回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	論文の構成について理解することができるようになる。	資料の配布	特記事項無し
		各コマにおける授業予定	論文の内容を説明する 講義ワーク		
第23回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	論文の構成について理解することができるようになる。	資料の配布	特記事項無し
		各コマにおける授業予定	論文の内容を説明する 講義ワーク		
第24回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	論文の構成について理解することができるようになる。	資料の配布	特記事項無し
		各コマにおける授業予定	論文の内容を説明する 講義ワーク		
第25回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	論文の構成について理解することができるようになる。	資料の配布	特記事項無し
		各コマにおける授業予定	論文の内容を説明する 講義ワーク		
第26回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	論文の構成について理解することができるようになる。	資料の配布	特記事項無し
		各コマにおける授業予定	論文の内容を説明する 講義ワーク		
第27回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	論文の構成について理解することができるようになる。	資料の配布	特記事項無し
		各コマにおける授業予定	論文の内容を説明する 講義ワーク		
第28回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	論文の構成について理解することができるようになる。	資料の配布	特記事項無し
		各コマにおける授業予定	論文の内容を説明する 講義ワーク		
第29回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	論文の構成について理解することができるようになる。	資料の配布	特記事項無し
		各コマにおける授業予定	論文の内容を説明する 講義ワーク		
第30回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	論文の構成について理解することができるようになる。	資料の配布	特記事項無し
		各コマにおける授業予定	論文の内容を説明する 講義ワーク		

2026 年度 授業計画(シラバス)

学 科	柔道整復スポーツトレーナー		科 目 区 分	専門分野	授業の方法	講義実習
科 目 名	物理療法		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	15 (1) 時間(単位)
対 象 学 年	1年		学期及び曜時限	後期 集中	教室名	実技室2
担 当 教 員	松澤 伸也	実務経験と その関連資格	柔道整復師、柔道整復師専科教員			
《授業科目における学習内容》						
物理的な方法を加えることで起こる生理的・生化学的変化から原理・方法及び各種物理機器の取り扱いを学ぶ。						
《成績評価の方法と基準》						
定期試験、レポートの提出状況及び内容にて評価する。						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
柔道整復学 理論編 第6版						
《授業外における学習方法》						
講義と演習方式で行なう。教科書での物理療法に関する知識を身につけ、実際の物理療法機器の扱いを演習形式で体験する。						
《履修に当たっての留意点》						
接骨院の業務内容で後療法としての物理療法の位置づけは大きいものとなります。 物理療法機器についての正しい知識と扱いをしっかりと学びましょう。						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第1回	演習形式	授業を通じての到達目標	物理療法とはなにか理解する。	柔道整復学 理論編 第6版	本読み予習 講義復習	
		各コマにおける授業予定	オリエンテーション 後療法の中の物理療法 分類 安全対策			
第2回	演習形式	授業を通じての到達目標	電気療法とはなにか理解する。	柔道整復学 理論編 第6版	本読み予習 講義復習	
		各コマにおける授業予定	物理療法機器の確認 電気療法総論 低周波電気療法 中周波電気療法			
第3回	演習形式	授業を通じての到達目標	温熱療法とはなにか理解する。	柔道整復学 理論編 第6版	本読み予習 講義復習	
		各コマにおける授業予定	伝導熱療法 輻射熱療法 変換熱療法			
第4回	演習形式	授業を通じての到達目標	光線療法とはなにか理解する。	柔道整復学 理論編 第6版	本読み予習 講義復習	
		各コマにおける授業予定	低反応レベルレーザー療法			
第5回	演習形式	授業を通じての到達目標	寒冷療法とはなにか理解する。	柔道整復学 理論編 第6版	本読み予習 講義復習	
		各コマにおける授業予定	伝導冷却法 対流冷却法 気化冷却法			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容
第6回	演習形式	授業を通じての到達目標	牽引療法とはなにか理解する。	柔道整復学 理 論編 第6版	本読み予習 講義復習
		各コマにおける授業予定	牽引療法		
第7回	演習形式	授業を通じての到達目標	その他の物理療法について理解する。	柔道整復学 理 論編 第6版 実習演習	本読み予習 講義復習
		各コマにおける授業予定	間欠的圧迫法		
第8回	演習形式	授業を通じての到達目標	まとめとして物理療法を理解する。	柔道整復学 理 論編 第6版	本読み予習
		各コマにおける授業予定	まとめ		

2026 年度 授業計画(シラバス)

学 科	柔道整復スポーツトレーナー		科目区分	基礎分野	授業の方法	講義
科目名	生物学		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	1 (30) 時間(単位)
対象学年	1年生		学期及び曜時間	前期 水・1限	教室名	302教室
担当教員	福田 幸彦	実務経験と その関連資格	中学校教諭一級普通免許状(理科) 高等学校教諭二級普通免許状(理科)			
《授業科目における学習内容》						
<p>生命とは何かを追求する学問である生物学では、生命の起源と進化、細胞・組織・器官の理解から始まり、生体のエネルギー、遺伝情報の伝達など生物学の基礎と人体のかかわりを学習する。</p>						
《成績評価の方法と基準》						
<p>素点:70% 出席評価点:20% 平常評価点:10%</p>						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
自作プリント						
《授業外における学習方法》						
配布プリントを用いて授業の復習をする						
《履修に当たっての留意点》						
授業の最後にその日の振り返りを行う。また、スライドを使い授業を進めていくが、重要な語句・内容であっても必要最低限の箇所しか文字色を変えていない。そのため、各自で重要と思う部分をまとめることが望ましい。また、授業の最後にその日の振り返りを行う。						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 生物学を学ぶ意義について理解する。 生物の共通性と多様性について説明できる。 	配布プリント		
		各コマにおける授業予定	<ul style="list-style-type: none"> なぜ生物学を学ぶのか 生物の共通性と多様性 			
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 細胞の微細構造と基本的な働きを説明できる。 	配布プリント		
		各コマにおける授業予定	<ul style="list-style-type: none"> 細胞の構造と働き 			
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 細胞膜の構造から働きを説明できる。 	配布プリント		
		各コマにおける授業予定	<ul style="list-style-type: none"> 細胞膜の働き(細胞膜の構造, 輸送, 浸透) 			
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ATPや酵素が生体内の化学反応にどのように関係するか説明できる。 	配布プリント		
		各コマにおける授業予定	<ul style="list-style-type: none"> 生体内の化学反応(ATP, 酵素) 			
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 同化の反応を説明できる。 	配布プリント		
		各コマにおける授業予定	<ul style="list-style-type: none"> 同化作用(炭酸同化, 窒素同化) 			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	・異化の反応を説明できる。	配布プリント	
		各コマにおける授業予定	・異化作用(呼吸, 発酵)		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	・遺伝に関してその法則性と, 染色体と遺伝子の関係を説明できる。	配布プリント	
		各コマにおける授業予定	・遺伝の法則 ・染色体と遺伝子		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	・遺伝子の発現のしくみを説明できる。	配布プリント	
		各コマにおける授業予定	・遺伝子の発現		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	・どのような生殖方法があるか説明できる。 ・減数分裂の過程とその意義を説明できる。	配布プリント	
		各コマにおける授業予定	・生殖 ・減数分裂		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	・発生の過程とそのしくみを説明できる。	配布プリント	
		各コマにおける授業予定	・発生の過程としくみ		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標	・肝臓と腎臓の構造と働きについて説明できる。	配布プリント	
		各コマにおける授業予定	・肝臓と腎臓		
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標	・自律神経とホルモン働きについて説明できる。	配布プリント	
		各コマにおける授業予定	・自律神経とホルモン		
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標	・受容器の構造と働きについて説明できる。	配布プリント	
		各コマにおける授業予定	・刺激の受容		
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標	・ニューロンの構造と働きについて説明できる。	配布プリント	
		各コマにおける授業予定	・ニューロン		
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標	・脳と脊髄の構造と働きについて説明できる。 ・効果器の構造と働きについて説明できる。	配布プリント	
		各コマにおける授業予定	・神経系 ・効果器		

2026 年度 授業計画(シラバス)

学 科	柔道整復スポーツトレーナー		科目区分	専門分野	授業の方法	実習演習
科目名	臨床実習 I		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	90 (2) 時間(単位)
対象学年	1年		学期及び曜時間	後期 集中	教室名	外部実習先
担当教員	奥出 一貴	実務経験と その関連資格	柔道整復師、柔道整復師専科教員 NSCA-CPT、赤十字救急法救急員指導員			
《授業科目における学習内容》						
臨床実習の目的と意義。 オリエンテーションにて実習の心構え、容姿、注意点等の説明。 外部施設での見学実習						
《成績評価の方法と基準》						
レポート提出・態度と容姿、参加度を総合的に判断する。(実習指導調整者、科目担当者)						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
公益社団法人全国柔道整復学校協会 臨床実習ガイドライン						
《授業外における学習方法》						
臨床における実践的能力及び保険の仕組みに関する知識。患者との適切な対応、施術者になるための責任と自覚。 医療人としての倫理やマナー、容姿。多種職連携の重要性。						
《履修に当たっての留意点》						
臨床実習現場にて、美作市スポーツ医療看護専門学校の学生としてふさわしい容姿や受け答えのできる人材。						
授業の 方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第1回	実習形式	授業を通じての到達目標	臨床実習に必要な書類の作成、実習中のマナーについて理解することができるようになる。	公益社団法人全国柔道整復学校協会 臨床実習ガイドライン	身体測定・徒手筋力側手・徒手検査法の復習 医療面談について復習	
		各コマにおける授業予定	オリエンテーション(臨床実習資料の説明)			
第2回	実習形式	授業を通じての到達目標	臨床実習に必要な書類の作成、実習中のマナーについて理解することができるようになる。	公益社団法人全国柔道整復学校協会 臨床実習ガイドライン	身体測定・徒手筋力側手・徒手検査法の復習 医療面談について復習	
		各コマにおける授業予定	オリエンテーション(臨床実習資料の説明)			
第3回	実習形式	授業を通じての到達目標	各施設にて臨床現場を学び職業観・勤労観をより理解することができるようになる。授業で行っている座学が現場でどのようにいされるかを理解することができるようになる。	公益社団法人全国柔道整復学校協会 臨床実習ガイドライン	身体測定・徒手筋力側手・徒手検査法の復習 医療面談について復習	
		各コマにおける授業予定	提携施設にて現場実習			
第4回	実習形式	授業を通じての到達目標	各施設にて臨床現場を学び職業観・勤労観をより理解することができるようになる。授業で行っている座学が現場でどのようにいされるかを理解することができるようになる。	公益社団法人全国柔道整復学校協会 臨床実習ガイドライン	身体測定・徒手筋力側手・徒手検査法の復習 医療面談について復習	
		各コマにおける授業予定	提携施設にて現場実習			
第5回	実習形式	授業を通じての到達目標	各施設にて臨床現場を学び職業観・勤労観をより理解することができるようになる。授業で行っている座学が現場でどのようにいされるかを理解することができるようになる。	公益社団法人全国柔道整復学校協会 臨床実習ガイドライン	身体測定・徒手筋力側手・徒手検査法の復習 医療面談について復習	
		各コマにおける授業予定	提携施設にて現場実習			

2026 年度 授業計画(シラバス)

学 科	柔道整復スポーツトレーナー		科目区分	専門分野	授業の方法	実習演習
科目名	臨床実習 I		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	90 (2) 時間(単位)
対象学年	1年		学期及び曜時間	後期 集中	教室名	外部実習先
担当教員	奥出 一貴	実務経験と その関連資格	柔道整復師、柔道整復師専科教員 NSCA-CPT、赤十字救急法救急員指導員			
《授業科目における学習内容》						
臨床実習の目的と意義。 オリエンテーションにて実習の心構え、容姿、注意点等の説明。 外部施設での見学実習						
《成績評価の方法と基準》						
レポート提出・態度と容姿、参加度を総合的に判断する。(実習指導調整者、科目担当者)						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
公益社団法人全国柔道整復学校協会 臨床実習ガイドライン						
《授業外における学習方法》						
臨床における実践的能力及び保険の仕組みに関する知識。患者との適切な対応、施術者になるための責任と自覚。 医療人としての倫理やマナー、容姿。多種職連携の重要性。						
《履修に当たっての留意点》						
臨床実習現場にて、美作市スポーツ医療看護専門学校の学生としてふさわしい容姿や受け答えのできる人材。						
授業の 方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第16回	実習形式	授業を通じての到達目標	各施設にて臨床現場を学び職業観・勤労観をより理解することができるようになる。授業で行っている座学が現場でどのようにいかされるかを理解することができるようになる。	公益社団法人全国柔道整復学校協会 臨床実習ガイドライン	身体測定・徒手筋力側手・徒手検査法の復習 医療面談について復習	
	各コマにおける授業予定	大谷接骨院 龍野院・香里園整骨院・かねもと鍼灸整骨院・白うさぎ整骨院・美作名倉堂接骨院・わだち整骨院・赤穂鍼灸整骨院・原医院・株式会社エルスリー・Reワーク				
第17回	実習形式	授業を通じての到達目標	各施設にて臨床現場を学び職業観・勤労観をより理解することができるようになる。授業で行っている座学が現場でどのようにいかされるかを理解することができるようになる。	公益社団法人全国柔道整復学校協会 臨床実習ガイドライン	身体測定・徒手筋力側手・徒手検査法の復習 医療面談について復習	
	各コマにおける授業予定	大谷接骨院 龍野院・香里園整骨院・かねもと鍼灸整骨院・白うさぎ整骨院・美作名倉堂接骨院・わだち整骨院・赤穂鍼灸整骨院・原医院・株式会社エルスリー・Reワーク				
第18回	実習形式	授業を通じての到達目標	各施設にて臨床現場を学び職業観・勤労観をより理解することができるようになる。授業で行っている座学が現場でどのようにいかされるかを理解することができるようになる。	公益社団法人全国柔道整復学校協会 臨床実習ガイドライン	身体測定・徒手筋力側手・徒手検査法の復習 医療面談について復習	
	各コマにおける授業予定	大谷接骨院 龍野院・香里園整骨院・かねもと鍼灸整骨院・白うさぎ整骨院・美作名倉堂接骨院・わだち整骨院・赤穂鍼灸整骨院・原医院・株式会社エルスリー・Reワーク				
第19回	実習形式	授業を通じての到達目標	各施設にて臨床現場を学び職業観・勤労観をより理解することができるようになる。授業で行っている座学が現場でどのようにいかされるかを理解することができるようになる。	公益社団法人全国柔道整復学校協会 臨床実習ガイドライン	身体測定・徒手筋力側手・徒手検査法の復習 医療面談について復習	
	各コマにおける授業予定	大谷接骨院 龍野院・香里園整骨院・かねもと鍼灸整骨院・白うさぎ整骨院・美作名倉堂接骨院・わだち整骨院・赤穂鍼灸整骨院・原医院・株式会社エルスリー・Reワーク				
第20回	実習形式	授業を通じての到達目標	各施設にて臨床現場を学び職業観・勤労観をより理解することができるようになる。授業で行っている座学が現場でどのようにいかされるかを理解することができるようになる。	公益社団法人全国柔道整復学校協会 臨床実習ガイドライン	身体測定・徒手筋力側手・徒手検査法の復習 医療面談について復習	
	各コマにおける授業予定	大谷接骨院 龍野院・香里園整骨院・かねもと鍼灸整骨院・白うさぎ整骨院・美作名倉堂接骨院・わだち整骨院・赤穂鍼灸整骨院・原医院・株式会社エルスリー・Reワーク				

2026 年度 授業計画(シラバス)

学 科	柔道整復スポーツトレーナー		科目区分	専門分野	授業の方法	実習演習
科目名	臨床実習 I		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	90 (2) 時間(単位)
対象学年	1年		学期及び曜時限	後期 集中	教室名	外部実習先
担当教員	奥出 一貴	実務経験と その関連資格	柔道整復師、柔道整復師専科教員 NSCA-CPT、赤十字救急法救急員指導員			
《授業科目における学習内容》						
臨床実習の目的と意義。 オリエンテーションにて実習の心構え、容姿、注意点等の説明。 外部施設での見学実習						
《成績評価の方法と基準》						
レポート提出・態度と容姿、参加度を総合的に判断する。(実習指導調整者、科目担当者)						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
公益社団法人全国柔道整復学校協会 臨床実習ガイドライン						
《授業外における学習方法》						
臨床における実践的能力及び保険の仕組みに関する知識。患者との適切な対応、施術者になるための責任と自覚。 医療人としての倫理やマナー、容姿。多種職連携の重要性。						
《履修に当たっての留意点》						
臨床実習現場にて、美作市スポーツ医療看護専門学校の学生としてふさわしい容姿や受け答えのできる人材。						
授業の 方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第 31 回	実習 形式	授業を 通じての 到達目標	各施設にて臨床現場を学び職業観・勤労観をより理解することができるようになる。授業で行っている座学が現場でどのようにいかされるかを理解することができるようになる。	公益社団法人全 国柔道整復学校 協会 臨床実習 ガイドライン	身体測定・徒手筋力側 手・徒手検査法の復習 医療面談について復習	
		各コマに おける 授業予定	大谷接骨院 龍野院・香里園整骨院・かねもと鍼灸整骨院・白うさぎ整骨院・美作名倉堂接骨院・わだち整骨院・赤穂鍼灸整骨院・原医院・株式会社エルスリー・Reワーク			
第 32 回	実習 形式	授業を 通じての 到達目標	各施設にて臨床現場を学び職業観・勤労観をより理解することができるようになる。授業で行っている座学が現場でどのようにいかされるかを理解することができるようになる。	公益社団法人全 国柔道整復学校 協会 臨床実習 ガイドライン	身体測定・徒手筋力側 手・徒手検査法の復習 医療面談について復習	
		各コマに おける 授業予定	大谷接骨院 龍野院・香里園整骨院・かねもと鍼灸整骨院・白うさぎ整骨院・美作名倉堂接骨院・わだち整骨院・赤穂鍼灸整骨院・原医院・株式会社エルスリー・Reワーク			
第 33 回	実習 形式	授業を 通じての 到達目標	各施設にて臨床現場を学び職業観・勤労観をより理解することができるようになる。授業で行っている座学が現場でどのようにいかされるかを理解することができるようになる。	公益社団法人全 国柔道整復学校 協会 臨床実習 ガイドライン	身体測定・徒手筋力側 手・徒手検査法の復習 医療面談について復習	
		各コマに おける 授業予定	大谷接骨院 龍野院・香里園整骨院・かねもと鍼灸整骨院・白うさぎ整骨院・美作名倉堂接骨院・わだち整骨院・赤穂鍼灸整骨院・原医院・株式会社エルスリー・Reワーク			
第 34 回	実習 形式	授業を 通じての 到達目標	各施設にて臨床現場を学び職業観・勤労観をより理解することができるようになる。授業で行っている座学が現場でどのようにいかされるかを理解することができるようになる。	公益社団法人全 国柔道整復学校 協会 臨床実習 ガイドライン	身体測定・徒手筋力側 手・徒手検査法の復習 医療面談について復習	
		各コマに おける 授業予定	大谷接骨院 龍野院・香里園整骨院・かねもと鍼灸整骨院・白うさぎ整骨院・美作名倉堂接骨院・わだち整骨院・赤穂鍼灸整骨院・原医院・株式会社エルスリー・Reワーク			
第 35 回	実習 形式	授業を 通じての 到達目標	各施設にて臨床現場を学び職業観・勤労観をより理解することができるようになる。授業で行っている座学が現場でどのようにいかされるかを理解することができるようになる。	公益社団法人全 国柔道整復学校 協会 臨床実習 ガイドライン	身体測定・徒手筋力側 手・徒手検査法の復習 医療面談について復習	
		各コマに おける 授業予定	大谷接骨院 龍野院・香里園整骨院・かねもと鍼灸整骨院・白うさぎ整骨院・美作名倉堂接骨院・わだち整骨院・赤穂鍼灸整骨院・原医院・株式会社エルスリー・Reワーク			

2026 年度 授業計画(シラバス)

学 科	柔道整復スポーツトレーナー		科目区分	専門分野	授業の方法	実習演習
科目名	臨床実習 I		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	90 (2) 時間(単位)
対象学年	1年		学期及び曜時間	後期 集中	教室名	外部実習先
担当教員	奥出 一貴	実務経験と その関連資格	柔道整復師、柔道整復師専科教員 NSCA-CPT、赤十字救急法救急員指導員			
《授業科目における学習内容》						
臨床実習の目的と意義。 オリエンテーションにて実習の心構え、容姿、注意点等の説明。 外部施設での見学実習						
《成績評価の方法と基準》						
レポート提出・態度と容姿、参加度を総合的に判断する。(実習指導調整者、科目担当者)						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
公益社団法人全国柔道整復学校協会 臨床実習ガイドライン						
《授業外における学習方法》						
臨床における実践的能力及び保険の仕組みに関する知識。患者との適切な対応、施術者になるための責任と自覚。 医療人としての倫理やマナー、容姿。多種職連携の重要性。						
《履修に当たっての留意点》						
臨床実習現場にて、美作市スポーツ医療看護専門学校の学生としてふさわしい容姿や受け答えのできる人材。						
授業の 方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第 46 回	実習 形式	授業を 通じての 到達目標	各施設にて臨床現場を学び職業観・勤労観をより理解することができるようになる。授業で行っている座学が現場でどのようにいかされるかを理解することができるようになる。	公益社団法人全 国柔道整復学校 協会 臨床実習 ガイドライン	身体測定・徒手筋力側 手・徒手検査法の復習 医療面談について復習	
		各コマに おける 授業予定	大谷接骨院 龍野院・香里園整骨院・かねもと鍼灸整骨院・白うさぎ整骨院・美作名倉堂接骨院・わだち整骨院・赤穂鍼灸整骨院・原医院・株式会社エルスリー・Reワーク			
第 47 回	実習 形式	授業を 通じての 到達目標	各施設にて臨床現場を学び職業観・勤労観をより理解することができるようになる。授業で行っている座学が現場でどのようにいかされるかを理解することができるようになる。	公益社団法人全 国柔道整復学校 協会 臨床実習 ガイドライン	身体測定・徒手筋力側 手・徒手検査法の復習 医療面談について復習	
		各コマに おける 授業予定	大谷接骨院 龍野院・香里園整骨院・かねもと鍼灸整骨院・白うさぎ整骨院・美作名倉堂接骨院・わだち整骨院・赤穂鍼灸整骨院・原医院・株式会社エルスリー・Reワーク			
第 48 回	実習 形式	授業を 通じての 到達目標	各施設にて臨床現場を学び職業観・勤労観をより理解することができるようになる。授業で行っている座学が現場でどのようにいかされるかを理解することができるようになる。	公益社団法人全 国柔道整復学校 協会 臨床実習 ガイドライン	身体測定・徒手筋力側 手・徒手検査法の復習 医療面談について復習	
		各コマに おける 授業予定	大谷接骨院 龍野院・香里園整骨院・かねもと鍼灸整骨院・白うさぎ整骨院・美作名倉堂接骨院・わだち整骨院・赤穂鍼灸整骨院・原医院・株式会社エルスリー・Reワーク			
第 49 回	実習 形式	授業を 通じての 到達目標	各施設にて臨床現場を学び職業観・勤労観をより理解することができるようになる。授業で行っている座学が現場でどのようにいかされるかを理解することができるようになる。	公益社団法人全 国柔道整復学校 協会 臨床実習 ガイドライン	身体測定・徒手筋力側 手・徒手検査法の復習 医療面談について復習	
		各コマに おける 授業予定	大谷接骨院 龍野院・香里園整骨院・かねもと鍼灸整骨院・白うさぎ整骨院・美作名倉堂接骨院・わだち整骨院・赤穂鍼灸整骨院・原医院・株式会社エルスリー・Reワーク			
第 50 回	実習 形式	授業を 通じての 到達目標	各施設にて臨床現場を学び職業観・勤労観をより理解することができるようになる。授業で行っている座学が現場でどのようにいかされるかを理解することができるようになる。	公益社団法人全 国柔道整復学校 協会 臨床実習 ガイドライン	身体測定・徒手筋力側 手・徒手検査法の復習 医療面談について復習	
		各コマに おける 授業予定	大谷接骨院 龍野院・香里園整骨院・かねもと鍼灸整骨院・白うさぎ整骨院・美作名倉堂接骨院・わだち整骨院・赤穂鍼灸整骨院・原医院・株式会社エルスリー・Reワーク			

2026 年度 授業計画(シラバス)

学 科	柔道整復スポーツトレーナー		科 目 区 分	その他	授業の方法	実習演習
科 目 名	臨床実習Ⅳ		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	45 (1) 時間(単位)
対 象 学 年	1年生		学期及び曜時間	前期	教室名	外部施設
担 当 教 員	奥出 一貴、松澤 伸也 生田 晶子、松尾 起命	実務経験と その関連資格	柔道整復師、鍼灸師、柔道整復師専科教員 健康運動実践指導者、NSCA-CPT、JATI-ATI、赤十字救急法指導員			
《授業科目における学習内容》						
<p>スポーツトレーナー系実習として、スポーツ現場における基本的な挨拶およびマナーを身につける。現場での見学や簡単な補助業務、ストレッチング等の体験を通じて、利用者との関わり方やコミュニケーションの重要性を理解する。また、現場経験を通して学内で学習する知識や技術の必要性を認識し、今後の学習への意欲向上を図る。</p>						
《成績評価の方法と基準》						
<ul style="list-style-type: none"> ・出席点 ・平常点 ・レポート提出 						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
必要に応じて配布資料						
《授業外における学習方法》						
<p>スポーツ観戦等を通じてトレーナーの役割に関心を持つとともに、授業で学習した基礎的な技術や座学内容の復習を行い、理解を深めること。</p>						
《履修に当たっての留意点》						
<p>挨拶の徹底および時間厳守を守ること。また、不明点はそのままにせず教員に確認すること。さらに、積極的な姿勢で実習に参加すること。</p>						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第1回	演習を通じての到達目標	スポーツ現場における基本的マナーを理解し行動できるとともに、コミュニケーションの重要性を認識し、今後の学習につなげることができる。		必要に応じて配布資料	スポーツ観戦や技術練習、座学復習を通じて知識と技能の定着を図る	
	各コマにおける授業予定	水泳実習、湯郷ベルボランティア実習、岡山シーガルズ練習見学、ちくさ高原スキー場救護実習、スポーツフェス等の学校イベント対応				
第2回	演習を通じての到達目標	スポーツ現場における基本的マナーを理解し行動できるとともに、コミュニケーションの重要性を認識し、今後の学習につなげることができる。		必要に応じて配布資料	スポーツ観戦や技術練習、座学復習を通じて知識と技能の定着を図る	
	各コマにおける授業予定	水泳実習、湯郷ベルボランティア実習、岡山シーガルズ練習見学、ちくさ高原スキー場救護実習、スポーツフェス等の学校イベント対応				
第3回	演習を通じての到達目標	スポーツ現場における基本的マナーを理解し行動できるとともに、コミュニケーションの重要性を認識し、今後の学習につなげることができる。		必要に応じて配布資料	スポーツ観戦や技術練習、座学復習を通じて知識と技能の定着を図る	
	各コマにおける授業予定	水泳実習、湯郷ベルボランティア実習、岡山シーガルズ練習見学、ちくさ高原スキー場救護実習、スポーツフェス等の学校イベント対応				
第4回	演習を通じての到達目標	スポーツ現場における基本的マナーを理解し行動できるとともに、コミュニケーションの重要性を認識し、今後の学習につなげることができる。		必要に応じて配布資料	スポーツ観戦や技術練習、座学復習を通じて知識と技能の定着を図る	
	各コマにおける授業予定	水泳実習、湯郷ベルボランティア実習、岡山シーガルズ練習見学、ちくさ高原スキー場救護実習、スポーツフェス等の学校イベント対応				
第5回	演習を通じての到達目標	スポーツ現場における基本的マナーを理解し行動できるとともに、コミュニケーションの重要性を認識し、今後の学習につなげることができる。		必要に応じて配布資料	スポーツ観戦や技術練習、座学復習を通じて知識と技能の定着を図る	
	各コマにおける授業予定	水泳実習、湯郷ベルボランティア実習、岡山シーガルズ練習見学、ちくさ高原スキー場救護実習、スポーツフェス等の学校イベント対応				

2026 年度 授業計画(シラバス)

学 科	柔道整復スポーツトレーナー		科 目 区 分	その他	授業の方法	実習演習
科 目 名	臨床実習Ⅳ		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	45 (1) 時間(単位)
対 象 学 年	1年生		学期及び曜時間	前期	教室名	外部施設
担 当 教 員	奥出 一貴、松澤 伸也 生田 晶子、松尾 起命	実務経験と その関連資格	柔道整復師、鍼灸師、柔道整復師専科教員 健康運動実践指導者、NSCA-CPT、JATI-ATI、赤十字救急法指導員			
《授業科目における学習内容》						
<p>スポーツトレーナー系実習として、スポーツ現場における基本的な挨拶およびマナーを身につける。現場での見学や簡単な補助業務、ストレッチ等の体験を通じて、利用者との関わり方やコミュニケーションの重要性を理解する。また、現場経験を通して学内で学習する知識や技術の必要性を認識し、今後の学習への意欲向上を図る。</p>						
《成績評価の方法と基準》						
<ul style="list-style-type: none"> ・出席点 ・平常点 ・レポート提出 						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
必要に応じて配布資料						
《授業外における学習方法》						
<p>スポーツ観戦等を通じてトレーナーの役割に関心を持つとともに、授業で学習した基礎的な技術や座学内容の復習を行い、理解を深めること。</p>						
《履修に当たっての留意点》						
<p>挨拶の徹底および時間厳守を守ること。また、不明点はそのままにせず教員に確認すること。さらに、積極的な姿勢で実習に参加すること。</p>						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第16回	演習を通じての到達目標	スポーツ現場における基本的マナーを理解し行動できるとともに、コミュニケーションの重要性を認識し、今後の学習につなげることができる。		必要に応じて配布資料	スポーツ観戦や技術練習、座学復習を通じて知識と技能の定着を図る	
	各コマにおける授業予定	水泳実習、湯郷ベルボランティア実習、岡山シーガルズ練習見学、ちくさ高原スキー場救護実習、スポーツフェス等の学校イベント対応				
第17回	演習を通じての到達目標	スポーツ現場における基本的マナーを理解し行動できるとともに、コミュニケーションの重要性を認識し、今後の学習につなげることができる。		必要に応じて配布資料	スポーツ観戦や技術練習、座学復習を通じて知識と技能の定着を図る	
	各コマにおける授業予定	水泳実習、湯郷ベルボランティア実習、岡山シーガルズ練習見学、ちくさ高原スキー場救護実習、スポーツフェス等の学校イベント対応				
第18回	演習を通じての到達目標	スポーツ現場における基本的マナーを理解し行動できるとともに、コミュニケーションの重要性を認識し、今後の学習につなげることができる。		必要に応じて配布資料	スポーツ観戦や技術練習、座学復習を通じて知識と技能の定着を図る	
	各コマにおける授業予定	水泳実習、湯郷ベルボランティア実習、岡山シーガルズ練習見学、ちくさ高原スキー場救護実習、スポーツフェス等の学校イベント対応				
第19回	演習を通じての到達目標	スポーツ現場における基本的マナーを理解し行動できるとともに、コミュニケーションの重要性を認識し、今後の学習につなげることができる。		必要に応じて配布資料	スポーツ観戦や技術練習、座学復習を通じて知識と技能の定着を図る	
	各コマにおける授業予定	水泳実習、湯郷ベルボランティア実習、岡山シーガルズ練習見学、ちくさ高原スキー場救護実習、スポーツフェス等の学校イベント対応				
第20回	演習を通じての到達目標	スポーツ現場における基本的マナーを理解し行動できるとともに、コミュニケーションの重要性を認識し、今後の学習につなげることができる。		必要に応じて配布資料	スポーツ観戦や技術練習、座学復習を通じて知識と技能の定着を図る	
	各コマにおける授業予定	水泳実習、湯郷ベルボランティア実習、岡山シーガルズ練習見学、ちくさ高原スキー場救護実習、スポーツフェス等の学校イベント対応				

2026 年度 授業計画(シラバス)

学 科	柔道整復スポーツトレーナー学科		科目区分	専門分野	授業の方法	講義
科目名	臨床柔道整復学・各論 I		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	60 (4) 時間(単位)
対象学年	1年		学期及び曜時間	前期	教室名	301教室
担当教員	松尾 起命	実務経験と その関連資格	柔道整復師免許・柔道整復師専科教員			
《授業科目における学習内容》						
運動系について学ぶ。						
《成績評価の方法と基準》						
素点:100%						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
解剖学 改訂第2版						
《授業外における学習方法》						
教科書に沿い、講義・国家試験に準じた復習を行う。 講義で使用した口頭試問・四択問題を解く。						
《履修に当たっての留意点》						
構造を多角的に理解する。						
授業の 方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	上肢の筋を理解する。	解剖学 改訂第2版	授業範囲の予習・復習	
		各コマにおける授業予定	上肢の筋(起始・停止・作用・支配神経)			
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	上肢の筋を理解する。	解剖学 改訂第2版	授業範囲の予習・復習	
		各コマにおける授業予定	上肢の筋(起始・停止・作用・支配神経)			
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	上肢の筋を理解する。	解剖学 改訂第2版	授業範囲の予習・復習	
		各コマにおける授業予定	上肢の筋(起始・停止・作用・支配神経)			
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	上肢の筋を理解する。	解剖学 改訂第2版	授業範囲の予習・復習	
		各コマにおける授業予定	上肢の筋(起始・停止・作用・支配神経)			
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	上肢の筋を理解する。	解剖学 改訂第2版	授業範囲の予習・復習	
		各コマにおける授業予定	上肢の筋(起始・停止・作用・支配神経)			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	上肢の筋を理解する。	解剖学 改訂第2版	授業範囲の予習・復習
		各コマにおける授業予定	上肢の筋(起始・停止・作用・支配神経)		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	上肢の筋を理解する。	解剖学 改訂第2版	授業範囲の予習・復習
		各コマにおける授業予定	上肢の筋(起始・停止・作用・支配神経)		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	上肢の筋を理解する。	解剖学 改訂第2版	授業範囲の予習・復習
		各コマにおける授業予定	上肢の筋(起始・停止・作用・支配神経)		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	上肢の筋を理解する。	解剖学 改訂第2版	授業範囲の予習・復習
		各コマにおける授業予定	上肢の筋(起始・停止・作用・支配神経)		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	上肢の筋を理解する。	解剖学 改訂第2版	授業範囲の予習・復習
		各コマにおける授業予定	上肢の筋(起始・停止・作用・支配神経)		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標	下肢の筋を理解する。	解剖学 改訂第2版	授業範囲の予習・復習
		各コマにおける授業予定	下肢の筋(起始・停止・作用・支配神経)		
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標	下肢の筋を理解する。	解剖学 改訂第2版	授業範囲の予習・復習
		各コマにおける授業予定	下肢の筋(起始・停止・作用・支配神経)		
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標	下肢の筋を理解する。	解剖学 改訂第2版	授業範囲の予習・復習
		各コマにおける授業予定	下肢の筋(起始・停止・作用・支配神経)		
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標	下肢の筋を理解する。	解剖学 改訂第2版	授業範囲の予習・復習
		各コマにおける授業予定	下肢の筋(起始・停止・作用・支配神経)		
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標	下肢の筋を理解する。	解剖学 改訂第2版	授業範囲の予習・復習
		各コマにおける授業予定	下肢の筋(起始・停止・作用・支配神経)		

2026 年度 授業計画(シラバス)

学 科	柔道整復スポーツトレーナー学科		科 目 区 分	専門基礎分野	授業の方法	講義
科 目 名	解剖学 I		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	60 (4) 時間(単位)
対 象 学 年	1年		学期及び曜時間	前期 月3.4	教室名	301教室
担 当 教 員	松澤 伸也	実務経験と その関連資格	柔道整復師 柔道整復師専科教員			
《授業科目における学習内容》						
柔道整復師として医療に携わるに当たり、解剖学の知識の習得は欠かす事の出来ないものである。適切な施術をするのに、人体の場所を理解出来ていないようでは患者の信頼を得ることは出来ない。そのため骨・筋の理解を中心として授業を展開していく。骨は部分の名称だけでは無く、靭帯、関節の運動までの理解を目指し、筋は教科書に出てくる筋の起始・停止の暗記を目指していく。						
《成績評価の方法と基準》						
期末試験及び小テスト、レポート等で判定する。						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
解剖学 改訂第2版 医歯薬出版株式会社						
《授業外における学習方法》						
各自図書館にある図書や、インターネット等を活用し立体的に人体を捉えておく。						
《履修に当たっての留意点》						
復習をしっかりとしておく。						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	総論を理解出来るようになる	上記教科書		
		各コマにおける授業予定	骨の役割と骨の連結			
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	脊柱の役割を理解出来るようになる	上記教科書		
		各コマにおける授業予定	脊柱の名称と関節名称			
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	脊柱の役割を理解出来るようになる	上記教科書		
		各コマにおける授業予定	脊柱の名称と関節名称			
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	上肢骨の役割を理解出来るようになる	上記教科書		
		各コマにおける授業予定	上肢帯の名称と関節名称			
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	上肢骨の役割を理解出来るようになる	上記教科書		
		各コマにおける授業予定	上肢帯の名称と関節名称			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	上肢骨の役割を理解出来るようになるようになる	上記教科書	
		各コマにおける授業予定	自由上肢骨の名称と関節名称		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	上肢骨の役割を理解出来るようになる	上記教科書	
		各コマにおける授業予定	自由上肢骨の名称と関節名称		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	上肢骨の役割を理解出来るようになる	上記教科書	
		各コマにおける授業予定	上肢骨まとめ		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	筋学総論を理解出来るようになる	上記教科書	
		各コマにおける授業予定	起始・停止の概念、筋の補助装置を理解する		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	胸部の筋を理解出来るようになる	上記教科書	
		各コマにおける授業予定	浅胸筋・横隔膜・腹部の筋を覚える		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標	胸部の筋を理解出来るようになる	上記教科書	
		各コマにおける授業予定	浅胸筋・横隔膜・腹部の筋を覚える		
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標	背部の筋を理解出来るようになる	上記教科書	
		各コマにおける授業予定	浅背筋・固有背筋を覚える		
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標	背部の筋を理解出来るようになる	上記教科書	
		各コマにおける授業予定	浅背筋・固有背筋を覚える		
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標	上肢の筋を理解出来るようになる	上記教科書	
		各コマにおける授業予定	上肢帯の筋		
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標	まとめ	上記教科書	
		各コマにおける授業予定	試験対策		

2026 年度 授業計画(シラバス)

学 科	柔道整復スポーツトレーナー学科		科 目 区 分	専門基礎分野	授業の方法	講義
科 目 名	解剖学 I		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	60 (4) 時間(単位)
対 象 学 年	1年		学期及び曜時間	前期 月3.4	教室名	301教室
担 当 教 員	松澤 伸也	実務経験と その関連資格	柔道整復師 柔道整復師専科教員			
《授業科目における学習内容》 柔道整復師として医療に携わるに当たり、解剖学の知識の習得は欠かす事の出来ないものである。適切な施術をするのに、人体の場所を理解出来ていないようでは患者の信頼を得ることは出来ない。そのため骨・筋の理解を中心として授業を展開していく。骨は部分の名称だけでは無く、靭帯、関節の運動までの理解を目指し、筋は教科書に出てくる筋の起始・停止の暗記を目指していく。						
《成績評価の方法と基準》 期末試験及び小テスト、レポート等で判定する。						
《使用教材(教科書)及び参考図書》 解剖学 改訂第2版 医歯薬出版株式会社						
《授業外における学習方法》 各自図書館にある図書や、インターネット等を活用し立体的に人体を捉えておく。						
《履修に当たっての留意点》 復習をしっかりとしておく。						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第16回	講義形式	授業を通じての到達目標	上肢の筋を理解出来るようになる	上記教科書		
		各コマにおける授業予定	上肢帯の筋・上腕の筋・前腕の筋・手部の筋を覚える			
第17回	講義形式	授業を通じての到達目標	上肢の筋を理解出来るようになる	上記教科書		
		各コマにおける授業予定	上肢帯の筋・上腕の筋・前腕の筋・手部の筋を覚える			
第18回	講義形式	授業を通じての到達目標	上肢の筋を理解出来るようになる	上記教科書		
		各コマにおける授業予定	上肢帯の筋・上腕の筋・前腕の筋・手部の筋を覚える			
第19回	講義形式	授業を通じての到達目標	上肢の筋を理解出来るようになる	上記教科書		
		各コマにおける授業予定	上肢帯の筋・上腕の筋・前腕の筋・手部の筋を覚える			
第20回	講義形式	授業を通じての到達目標	上肢の筋を理解出来るようになる	上記教科書		
		各コマにおける授業予定	上肢帯の筋・上腕の筋・前腕の筋・手部の筋を覚える			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第21回	講義形式	授業を通じての到達目標	下腿骨の役割を理解出来るようになる	上記教科書	
		各コマにおける授業予定	下肢帯の名称と関節名称		
第22回	講義形式	授業を通じての到達目標	下腿骨の役割を理解出来るようになる	上記教科書	
		各コマにおける授業予定	下肢帯の名称と関節名称		
第23回	講義形式	授業を通じての到達目標	下腿骨の役割を理解出来るようになる	上記教科書	
		各コマにおける授業予定	自由下肢骨の名称と関節名称		
第24回	講義形式	授業を通じての到達目標	下腿骨の役割を理解出来るようになる	上記教科書	
		各コマにおける授業予定	自由下肢骨の名称と関節名称		
第25回	講義形式	授業を通じての到達目標	下腿骨の役割を理解出来るようになる	上記教科書	
		各コマにおける授業予定	下肢骨まとめ		
第26回	講義形式	授業を通じての到達目標	下肢の筋を理解出来るようになる	上記教科書	
		各コマにおける授業予定	下肢帯の筋・大腿の筋・下腿の筋・足部の筋を覚える		
第27回	講義形式	授業を通じての到達目標	下肢の筋を理解出来るようになる	上記教科書	
		各コマにおける授業予定	下肢帯の筋・大腿の筋・下腿の筋・足部の筋を覚える		
第28回	講義形式	授業を通じての到達目標	下肢の筋を理解出来るようになる	上記教科書	
		各コマにおける授業予定	下肢帯の筋・大腿の筋・下腿の筋・足部の筋を覚える		
第29回	講義形式	授業を通じての到達目標	下肢の筋を理解出来るようになる	上記教科書	
		各コマにおける授業予定	下肢帯の筋・大腿の筋・下腿の筋・足部の筋を覚える		
第30回	講義形式	授業を通じての到達目標	まとめ	上記教科書	
		各コマにおける授業予定	試験対策		

2026 年度 授業計画(シラバス)

学 科	柔道整復スポーツトレーナー学科		科 目 区 分	専門基礎分野	授業の方法	講義
科 目 名	解剖学 I		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	60 (4) 時間(単位)
対 象 学 年	1年		学期及び曜時間	前期 月3.4	教室名	301教室
担 当 教 員	松澤 伸也	実務経験と その関連資格	柔道整復師 柔道整復師専科教員			
《授業科目における学習内容》 柔道整復師として医療に携わるに当たり、解剖学の知識の習得は欠かす事の出来ないものである。適切な施術をするのに、人体の場所を理解出来ていないようでは患者の信頼を得ることは出来ない。そのため骨・筋の理解を中心として授業を展開していく。骨は部分の名称だけでは無く、靭帯、関節の運動までの理解を目指し、筋は教科書に出てくる筋の起始・停止の暗記を目指していく。						
《成績評価の方法と基準》 期末試験及び小テスト、レポート等で判定する。						
《使用教材(教科書)及び参考図書》 解剖学 改訂第2版 医歯薬出版株式会社						
《授業外における学習方法》 各自図書館にある図書や、インターネット等を活用し立体的に人体を捉えておく。						
《履修に当たっての留意点》 復習をしっかりとしておく。						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第31回	講義形式	授業を通じての到達目標	下肢の筋を理解出来るようになる	上記教科書		
		各コマにおける授業予定	下肢帯の筋・大腿の筋・下腿の筋・足部の筋を覚える			
第32回	講義形式	授業を通じての到達目標	下肢の筋を理解出来るようになる	上記教科書		
		各コマにおける授業予定	下肢帯の筋・大腿の筋・下腿の筋・足部の筋を覚える			
第33回	講義形式	授業を通じての到達目標	下肢の筋を理解出来るようになる	上記教科書		
		各コマにおける授業予定	下肢帯の筋・大腿の筋・下腿の筋・足部の筋を覚える			
第34回	講義形式	授業を通じての到達目標	頭蓋骨の役割を理解出来るようになる	上記教科書		
		各コマにおける授業予定	頭蓋骨の名称と関節名称			
第35回	講義形式	授業を通じての到達目標	頭蓋骨の役割を理解出来るようになる	上記教科書		
		各コマにおける授業予定	頭蓋骨の名称と関節名称			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第36回	講義形式	授業を通じての到達目標	頭蓋骨の役割を理解出来るようになる	上記教科書	
		各コマにおける授業予定	頭蓋骨の名称と関節名称		
第37回	講義形式	授業を通じての到達目標	頭蓋骨の役割を理解出来るようになる	上記教科書	
		各コマにおける授業予定	頭蓋骨の名称と関節名称		
第38回	講義形式	授業を通じての到達目標	頭部の筋を理解出来るようになる	上記教科書	
		各コマにおける授業予定	表情筋・咀嚼筋を覚える		
第39回	講義形式	授業を通じての到達目標	頭部の筋を理解出来るようになる	上記教科書	
		各コマにおける授業予定	表情筋・咀嚼筋を覚える		
第40回	講義形式	授業を通じての到達目標	筋骨格系のまとめ	上記教科書	
		各コマにおける授業予定	問題演習		
第41回	講義形式	授業を通じての到達目標	筋骨格系のまとめ	上記教科書	
		各コマにおける授業予定	問題演習		
第42回	講義形式	授業を通じての到達目標	筋骨格系のまとめ	上記教科書	
		各コマにおける授業予定	問題演習		
第43回	講義形式	授業を通じての到達目標	筋骨格系のまとめ	上記教科書	
		各コマにおける授業予定	問題演習		
第44回	講義形式	授業を通じての到達目標	筋骨格系のまとめ	上記教科書	
		各コマにおける授業予定	問題演習		
第45回	講義形式	授業を通じての到達目標	筋骨格系のまとめ	上記教科書	
		各コマにおける授業予定	試験対策		

2026 年度 授業計画(シラバス)

学 科	柔道整復スポーツトレーナー		科 目 区 分	専門基礎分野	授業の方法	講義
科 目 名	解剖学Ⅱ		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (2) 時間(単位)
対 象 学 年	1年生		学期及び曜時間	前期 木・2限	教室名	301教室
担 当 教 員	新庄 文明	実務経験とその関連資格	前長崎大学大学院教授(公衆衛生学)、ロンドン大学キングスカレッジ客員助教授、元大阪大学医学部講師(社会系医学)、医学博士、歯科医師			
《授業科目における学習内容》						
概ね講義形式で進める。ヒトの身体の構造としての解剖学に関する知識だけでなく、身体の働き、医学における解剖学の位置ならびに医学や医療の歴史における解剖学の役割やその概念の変遷についても理解する。						
《成績評価の方法と基準》						
定期試験：100 %						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
全国柔道整復学校協会監修 『解剖学』 改訂第2版 (医歯薬出版)						
《授業外における学習方法》						
基礎医学の中でも最も基礎的な分野ですが、単に器官の名前を覚えるだけでなく、それぞれの器官の役割や、疾病を予防し、健康を維持するために復習を忘れない。						
《履修に当たっての留意点》						
ヒトの身体の構築を学ぶ学問である。最も重要な専門科目として広い知識を身につけることが重要であるが、それとともに、身体の各器官の役割と、それらの相互関係、ならびに健康や疾病における身体の解剖学的な意味についても理解できる資質を養うこと。						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容	
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	人体の構造と組織の概要について理解する	教科書『解剖学』 および資料配布	配布資料のうち学習小テストの内容を復習・確認する。	
	各コマにおける授業予定	解剖学総論				
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	身体の機能を支える血液循環のしくみを理解する	教科書『解剖学』 および資料配布	配布資料のうち学習小テストの内容を復習・確認する。	
	各コマにおける授業予定	脈管系総論				
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	心臓の構造と各部位の特徴を、その機能から理解する	教科書『解剖学』 および資料配布	配布資料のうち学習小テストの内容を復習・確認する。	
	各コマにおける授業予定	脈管系各論 心臓				
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	小(肺)循環ならびに大(体)循環のうち動脈のあらましを学ぶ	教科書『解剖学』 および資料配布	配布資料のうち学習小テストの内容を復習・確認する。	
	各コマにおける授業予定	脈管系各論 心脈管系①				
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	大(体)循環のうち静動脈のあらましを学ぶ	教科書『解剖学』 および資料配布	配布資料のうち学習小テストの内容を復習・確認する。	
	各コマにおける授業予定	脈管系各論 心脈管系②				

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	出生前後の循環系の差異、およびリンパ系の役割を理解する	教科書『解剖学』 および資料配布	配布資料のうち学習小テストの内容を復習・確認する。
		各コマにおける授業予定	胎児循環・リンパ管系		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	消化器の構造を理解し、食物が通過する順位を告げれる	教科書『解剖学』 および資料配布	配布資料のうち学習小テストの内容を復習・確認する。
		各コマにおける授業予定	内臓系 消化器①		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	消化器のうち、小腸と大腸の構造と役割を理解する	教科書『解剖学』 および資料配布	配布資料のうち学習小テストの内容を復習・確認する。
		各コマにおける授業予定	内臓系 消化器②		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	消化器のうち、肝臓・胆嚢・脾臓の構造と役割を理解する	教科書『解剖学』 および資料配布	配布資料のうち学習小テストの内容を復習・確認する。
		各コマにおける授業予定	内臓系 消化器③		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	消化器のうち、口腔の構造と役割を理解する	教科書『解剖学』 および資料配布	配布資料のうち学習小テストの内容を復習・確認する。
		各コマにおける授業予定	内臓系 消化器④		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標	呼吸器の概要とその機能を理解する	教科書『解剖学』 および資料配布	配布資料のうち学習小テストの内容を復習・確認する。
		各コマにおける授業予定	内臓系 呼吸器①		
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標	呼吸器の各器官の構造と各々の役割を理解する	教科書『解剖学』 および資料配布	配布資料のうち学習小テストの内容を復習・確認する。
		各コマにおける授業予定	内臓系 呼吸器②		
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標	泌尿器の概要とその機能を理解する	教科書『解剖学』 および資料配布	配布資料のうち学習小テストの内容を復習・確認する。
		各コマにおける授業予定	内臓系 泌尿器①		
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標	泌尿器の各器官の構造と各々の役割を理解する	教科書『解剖学』 および資料配布	配布資料のうち学習小テストの内容を復習・確認する。
		各コマにおける授業予定	内臓系 泌尿器②		
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標	前期で学んだ内容について理解を確実にする	教科書『解剖学』 および資料配布	配布資料のうち学習小テストの内容を復習・確認する。
		各コマにおける授業予定	まとめ		

2026 年度 授業計画(シラバス)

学 科	柔道整復スポーツトレーナー		科目区分	専門基礎分野	授業の方法	講義
科目名	解剖学Ⅱ		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	60 (2) 時間(単位)
対象学年	1年		学期及び曜時間	後期	教室名	301教室
担当教員	新庄 文明	実務経験とその関連資格	前長崎大学大学院教授(公衆衛生学)、ロンドン大学キングスカレッジ客員助教授、元大阪大学医学部講師(社会系医学)、医学博士、歯科医師			
《授業科目における学習内容》						
医療を志す者にとっては基本的な学問である解剖学は、ヒトの身体の構築を学ぶ学問である。とりわけ、柔道整復師にとっては、最も重要な専門科目として広い知識を身につけることが重要であるが、それとともに、身体の各器官の役割と、それらの相互関係、ならびに健康や疾病における身体の解剖学的な意味についても理解できる資質を養うことを、本科目では目標とする。						
《成績評価の方法と基準》						
定期試験：100 %						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
『解剖学』改訂第2版第11刷(医歯薬出版株式会社、2017) 岩波新書『脳を育てる』(岩波書店、1996)						
《授業外における学習方法》						
講義を通じた知識の習得が平面的な記憶に陥る弊害を防ぐため、折に触れてグループ討論(ワークショップ)をも導入しながら、既存の知識体系にたいする批判的な検討を伴いつつ、医学や医療に関する主体的な理解を得るようにしたい。						
《履修に当たっての留意点》						
器官の名前を覚えるのは退屈ですが、器官の相互の働き、健康を維持する機能など、疾病予防や健康増進に対する理解をも深めること。科学の進歩に応じた新しい知見に関心を持てるよう、教科書以外の参考書も通読することを、お勧めする。						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容	
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	生殖のしくみと生殖器官の概要について理解する	『解剖学』改訂第2版第11刷(医歯薬出版株式会社、2017)	配布資料のうち学習小テストの内容を復習・確認する。	
		各コマにおける授業予定	内臓系 生殖器①			
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	男性生殖器の構造ならびに機能について理解する	『解剖学』改訂第2版第11刷(医歯薬出版株式会社、2017)	配布資料のうち学習小テストの内容を復習・確認する。	
		各コマにおける授業予定	内臓系 生殖器②			
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	女性生殖器の構造ならびに役割・生理的機能を理解する	『解剖学』改訂第2版第11刷(医歯薬出版株式会社、2017)	配布資料のうち学習小テストの内容を復習・確認する。	
		各コマにおける授業予定	内臓系 生殖器③			
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	内分泌器官の特徴、基本的な構造について理解する	『解剖学』改訂第2版第11刷(医歯薬出版株式会社、2017)	配布資料のうち学習小テストの内容を復習・確認する。	
		各コマにおける授業予定	内分泌系①			
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	内分泌を掌る各器官の特徴と構造について理解する	『解剖学』改訂第2版第11刷(医歯薬出版株式会社、2017)	配布資料のうち学習小テストの内容を復習・確認する。	
		各コマにおける授業予定	内分泌系②			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	各器官からの内分泌をコントロールする器官と特徴を理解する	『解剖学』改訂第2版第11刷(医歯薬出版株式会社、2017)	配布資料のうち学習小テストの内容を復習・確認する。
		各コマにおける授業予定	内分泌系③		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	中枢と末梢、自律神経と運動・感覚神経などの特徴を理解する	『解剖学』改訂第2版第11刷(医歯薬出版株式会社、2017) 岩波新書『脳を育てる』(岩波書店、1996)	配布資料のうち学習小テストの内容を復習・確認する。
		各コマにおける授業予定	神経系総論①		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	脳神経の各支配領域、特性を理解する。	『解剖学』改訂第2版第11刷(医歯薬出版株式会社、2017) 岩波新書『脳を育てる』(岩波書店、1996)	配布資料のうち学習小テストの内容を復習・確認する。
		各コマにおける授業予定	神経系総論②		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	大脳の各部位の機能、支配領域を理解する。	『解剖学』改訂第2版第11刷(医歯薬出版株式会社、2017) 岩波新書『脳を育てる』(岩波書店、1996)	配布資料のうち学習小テストの内容を復習・確認する。
		各コマにおける授業予定	中枢神経①		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	脳幹、間脳、小脳の機能を理解する。	『解剖学』改訂第2版第11刷(医歯薬出版株式会社、2017) 岩波新書『脳を育てる』(岩波書店、1996)	配布資料のうち学習小テストの内容を復習・確認する。
		各コマにおける授業予定	中枢神経②		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標	脳幹、間脳、小脳の機能を理解する。	『解剖学』改訂第2版第11刷(医歯薬出版株式会社、2017) 岩波新書『脳を育てる』(岩波書店、1996)	配布資料のうち学習小テストの内容を復習・確認する。
		各コマにおける授業予定	中枢神経③		
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標	脊髄神経の中核機能を担う特性を理解する。	『解剖学』改訂第2版第11刷(医歯薬出版株式会社、2017) 岩波新書『脳を育てる』(岩波書店、1996)	配布資料のうち学習小テストの内容を復習・確認する。
		各コマにおける授業予定	中枢神経④		
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標	脊髄神経の各部位から分岐する神経の特性を理解する。	『解剖学』改訂第2版第11刷(医歯薬出版株式会社、2017) 岩波新書『脳を育てる』(岩波書店、1996)	配布資料のうち学習小テストの内容を復習・確認する。
		各コマにおける授業予定	中枢神経⑤		
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標	第I～IV脳神経について支配部位と特性を理解する。	『解剖学』改訂第2版第11刷(医歯薬出版株式会社、2017) 岩波新書『脳を育てる』(岩波書店、1996)	配布資料のうち学習小テストの内容を復習・確認する。
		各コマにおける授業予定	末梢神経・脳神経①		
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標	第V～VIII神経について支配部位と特性を理解する。	『解剖学』改訂第2版第11刷(医歯薬出版株式会社、2017) 岩波新書『脳を育てる』(岩波書店、1996)	配布資料のうち学習小テストの内容を復習・確認する。
		各コマにおける授業予定	末梢神経・脳神経②		

2026 年度 授業計画(シラバス)

学 科	柔道整復スポーツトレーナー		科目区分	専門基礎分野	授業の方法	講義
科目名	解剖学Ⅱ		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	60 (2) 時間(単位)
対象学年	1年		学期及び曜時限	後期	教室名	301教室
担当教員	新庄 文明	実務経験とその関連資格	前長崎大学大学院教授(公衆衛生学)、ロンドン大学キングスカレッジ客員助教授、元大阪大学医学部講師(社会系医学)、医学博士、歯科医師			
《授業科目における学習内容》						
医療を志す者にとっては基本的な学問である解剖学は、ヒトの身体の構築を学ぶ学問である。とりわけ、柔道整復師にとっては、最も重要な専門科目として広い知識を身につけることが重要であるが、それとともに、身体の各器官の役割と、それらの相互関係、ならびに健康や疾病における身体の解剖学的な意味についても理解できる資質を養うことを、本科目では目標とする。						
《成績評価の方法と基準》						
定期試験：100 %						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
『解剖学』改訂第2版第11刷(医歯薬出版株式会社、2017) 岩波新書『脳を育てる』(岩波書店、1996)						
《授業外における学習方法》						
講義を通じた知識の習得が平面的な記憶に陥る弊害を防ぐため、折に触れてグループ討論(ワークショップ)をも導入しながら、既存の知識体系にたいする批判的な検討を伴いつつ、医学や医療に関する主体的な理解を得るようにしたい。						
《履修に当たっての留意点》						
器官の名前を覚えるのは退屈ですが、器官の相互の働き、健康を維持する機能など、疾病予防や健康増進に対する理解をも深めること。科学の進歩に応じた新しい知見に関心を持てるよう、教科書以外の参考書も通読することを、お勧めする。						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容	
第16回	講義形式	授業を通じての到達目標	第IX～XII神経について支配部位と特性を理解する。	『解剖学』改訂第2版第11刷(医歯薬出版株式会社、2017) 岩波新書『脳を育てる』(岩波書店、1996)	配布資料のうち学習小テストの内容を復習・確認する。	
		各コマにおける授業予定	末梢神経・脳神経③			
第17回	講義形式	授業を通じての到達目標	求心性の神経とその特性を理解する	『解剖学』改訂第2版第11刷(医歯薬出版株式会社、2017) 岩波新書『脳を育てる』(岩波書店、1996)	配布資料のうち学習小テストの内容を復習・確認する。	
		各コマにおける授業予定	末梢神経・脊髄神経①			
第18回	講義形式	授業を通じての到達目標	遠心性の神経とその特性を理解する	『解剖学』改訂第2版第11刷(医歯薬出版株式会社、2017) 岩波新書『脳を育てる』(岩波書店、1996)	配布資料のうち学習小テストの内容を復習・確認する。	
		各コマにおける授業予定	末梢神経・脊髄神経②			
第19回	講義形式	授業を通じての到達目標	頸神経および胸神経の支配領域とその特性を理解する	『解剖学』改訂第2版第11刷(医歯薬出版株式会社、2017) 岩波新書『脳を育てる』(岩波書店、1996)	配布資料のうち学習小テストの内容を復習・確認する。	
		各コマにおける授業予定	末梢神経・脊髄神経③			
第20回	講義形式	授業を通じての到達目標	腰神経および仙骨神経の支配領域とその特性を理解する	『解剖学』改訂第2版第11刷(医歯薬出版株式会社、2017) 岩波新書『脳を育てる』(岩波書店、1996)	配布資料のうち学習小テストの内容を復習・確認する。	
		各コマにおける授業予定	末梢神経・脊髄神経④			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第21回	講義形式	授業を通じての到達目標	交感神経と副交感神経の特性を理解する	『解剖学』改訂第2版第11刷(医歯薬出版株式会社、2017) 岩波新書『脳を育てる』(岩波書店、1996)	配布資料のうち学習小テストの内容を復習・確認する。
		各コマにおける授業予定	自律神経①		
第22回	講義形式	授業を通じての到達目標	交感神経を司る神経の種類とそれらの特性を理解する	『解剖学』改訂第2版第11刷(医歯薬出版株式会社、2017) 岩波新書『脳を育てる』(岩波書店、1996)	
		各コマにおける授業予定	自律神経②		
第23回	講義形式	授業を通じての到達目標	副交感神経を司る神経の種類とそれらの特性を理解する	『解剖学』改訂第2版第11刷(医歯薬出版株式会社、2017) 岩波新書『脳を育てる』(岩波書店、1996)	配布資料のうち学習小テストの内容を復習・確認する。
		各コマにおける授業予定	自律神経③		
第24回	講義形式	授業を通じての到達目標	皮膚感覚の各器官の特性について理解する。	『解剖学』改訂第2版第11刷(医歯薬出版株式会社、2017)	配布資料のうち学習小テストの内容を復習・確認する。
		各コマにおける授業予定	感覚器①		
第25回	講義形式	授業を通じての到達目標	視覚を司る各器官の特性について理解する。	『解剖学』改訂第2版第11刷(医歯薬出版株式会社、2017)	配布資料のうち学習小テストの内容を復習・確認する。
		各コマにおける授業予定	感覚器②		
第26回	講義形式	授業を通じての到達目標	聴覚を司る各器官の特性について理解する。	『解剖学』改訂第2版第11刷(医歯薬出版株式会社、2017)	配布資料のうち学習小テストの内容を復習・確認する。
		各コマにおける授業予定	感覚器③		
第27回	講義形式	授業を通じての到達目標	味覚を司る各器官の特性について理解する。	『解剖学』改訂第2版第11刷(医歯薬出版株式会社、2017)	配布資料のうち学習小テストの内容を復習・確認する。
		各コマにおける授業予定	感覚器④		
第28回	講義形式	授業を通じての到達目標	中枢神経について要点を整理して理解する	『解剖学』改訂第2版第11刷(医歯薬出版株式会社、2017)	配布資料のうち学習小テストの内容を復習・確認する。
		各コマにおける授業予定	まとめ		
第29回	講義形式	授業を通じての到達目標	末梢神経について要点を整理して理解する	『解剖学』改訂第2版第11刷(医歯薬出版株式会社、2017)	配布資料のうち学習小テストの内容を復習・確認する。
		各コマにおける授業予定	まとめ		
第30回	講義形式	授業を通じての到達目標	内分泌、感覚を司る器官について要点を整理して理解する	これまでの配布資料、プリントを参照)	配布資料のうち学習小テストの内容を復習・確認する。
		各コマにおける授業予定	まとめ		